# 男性のライフスタイルに関する意識調査

# 調査結果報告書

平 成 ３ ０ 年 ３ 月

千　　　葉　　　市

千葉市男女共同参画センター

# 目　次


Ⅰ　調査概要 ........ 1
　１．調査目的 ........ 1
　２．調査方法 ........ 1
　３．回収結果 ........ 1
　４．前回調査 ........ 1
　５．報告書を読む際の注意点 ........ 2
　６．標本誤差について ........ 2
　７．回答者の属性 ........ 3
　　(1) 性別 ........ 3
　　(2) 年齢 ........ 4
　　(3) 職業 ........ 5
　　(4)-1 婚姻の有無 ........ 7
　　(4)-2 配偶者・パートナーとの就労形態 ........ 9
　　(5)-1 子どもの有無 ........ 10
　　(5)-2 子どもの現状 ........ 11
　　(6) 同居している家族 ........ 12
Ⅱ　調査結果 ........ 13
　１．男女共同参画社会に関する意識について ........ 13
　　(1)「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」という言葉の認知度 ........ 13
　　(2)「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について ........ 17
　　(3) 各分野の男女の地位 ........ 19
　２．男性像について ........ 25
　　(1) 男性像について ........ 25
　３．男性の家庭や地域での生活について ........ 27
　　(1) 家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方について ........ 27
　　(2) 男性の生きづらさについて ........ 44
　　(3) 男性が普段の生活のなかでもっとほしいと感じている時間 ........ 46
　４．男性が家事、育児、介護、地域活動を行うことについて ........ 49
　　(1) 男性が掃除、洗濯、炊事などの家事を担うために必要なこと ........ 49
　　(2) 男性が育児を担うために必要なこと ........ 51
　　(3) 男性が育児休業を取ることについて ........ 53
　　(4) 男性が家族の介護を担うために必要なこと ........ 57
　　(5) 男性が介護休業を取ることについて ........ 59
　　(6) 男性が地域活動に参加することについて ........ 63
　５．「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の実現について ........ 67
　　(1) 男性が家事、育児、介護、地域活動等に積極的に参画するために必要なこと ........ 67

＜自由意見＞ ............................................................ 69
Ⅲ　調査結果のポイント・前回調査との比較 ............................................................ 79
Ⅳ　今後に向けて ............................................................ 83
Ⅴ　調査票 ............................................................ 84
Ⅵ　巻末資料 ............................................................ 95

# Ⅰ　調査概要

## １．調査目的

男女共同参画社会とは、男女が社会の対等なパートナーとして、自分の意思で社会のあらゆる活動に参画することができ、喜びも責任も分かち合う社会である。男女共同参画社会を形成していくためには、男性の意識や働き方、家庭や地域に関する考え方は非常に重要である。また同時に、女性がもつ男性への意識や願望が、男性自身の意識や生き方に大きく影響を与えていると考えられる。

そこで、男性のライフスタイルに関する意識や家庭、仕事、地域活動に対する考え方等について把握し、男女共同参画社会実現のための施策や事業に反映させることを目的とする。

## ２．調査方法

(1)　調査区域：千葉市全域
(2)　調査対象：千葉市在住の 20 歳以上の 3,000 人（男女各 1,500 人）
(3)　抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
(4)　調査方法：郵送による配布・回収方式
(5)　調査期間：平成 29 年 8 月 29 日～平成 29 年 9 月 15 日

## ３．回収結果

(1)　配布数　　　：3,000 件
(2)　回収数　　　：1,250 件
(3)　回収率　　　：　41.7%
(4)　有効回答数：1,136 件
(5)　有効回答率：　37.9%

## ４．前回調査

報告書で結果を引用した前回調査（平成 21 年 9 月）は、次のとおりである。
（今回調査と調査区域、調査対象、抽出方法、調査方法は同様である。）

(1)　調査期間　　：平成 21 年 9 月 10 日～平成 21 年 9 月 25 日
(2)　配布数　　　：3,000 件
(3)　有効回答数：1,026 件
(4)　有効回答率：　34.2%

## ５．報告書を読む際の注意点

(1) アンケート集計は、各設問の単純集計と前回調査との比較、並びに性別、年代などフェイス設問と各設問とのクロス集計を行った。

(2) 調査結果の数値は原則として回答率（%）を表記し、小数点以下第２位を四捨五入し、小数点以下第１位までを表記する。このため、単数回答の合計が 100.0%とならない場合（例：99.9%、100.1%）がある。小計についても同様に各回答の計と一致しない場合がある。また、一人の回答者が２つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）では、回答率が100.0%を上回ることがある。

(3) クロス集計の場合、分析軸の該当者が 50 人未満の場合は標本誤差が大きく異なるため、分析の対象からは除いている。

(4) 性別や年代別などでクロス集計を行う場合、それぞれ無回答の方がいたため、合計が全体と一致しない。

(5) 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化してある。

(6) 本文やグラフ・数表上で次の略称を使用する。　ｎ：回答者の数

## ６．標本誤差について

今回の無作為抽出法による調査の場合は、ここで出された数値（%）をそのまま 20 歳以上の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じる。統計学的には、次式で標本誤差を計算して、20 歳以上の全市民の回答を推測する。(信頼度 95%)

$$b = \pm 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b ＝標本誤差
N＝母集団数（798,724 人）
（20 歳以上の千葉市在住の方、平成 29 年 9 月 1 日現在）
n ＝有効回答数（1,136 件）
P ＝回答比率

**今回の意識調査(n=1,136)における回答比率別標本誤差**

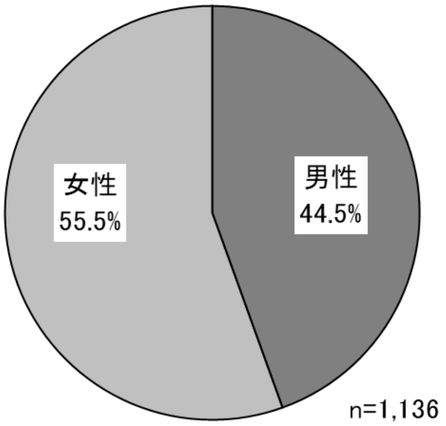
| 回答比率 | 標本誤差率 |
|---|---|
| 10%または 90% | ±1.8% |
| 20%または 80% | ±2.4% |
| 30%または 70% | ±2.7% |
| 40%または 60% | ±2.9% |
| 50% | ±3.0% |

## ７．回答者の属性

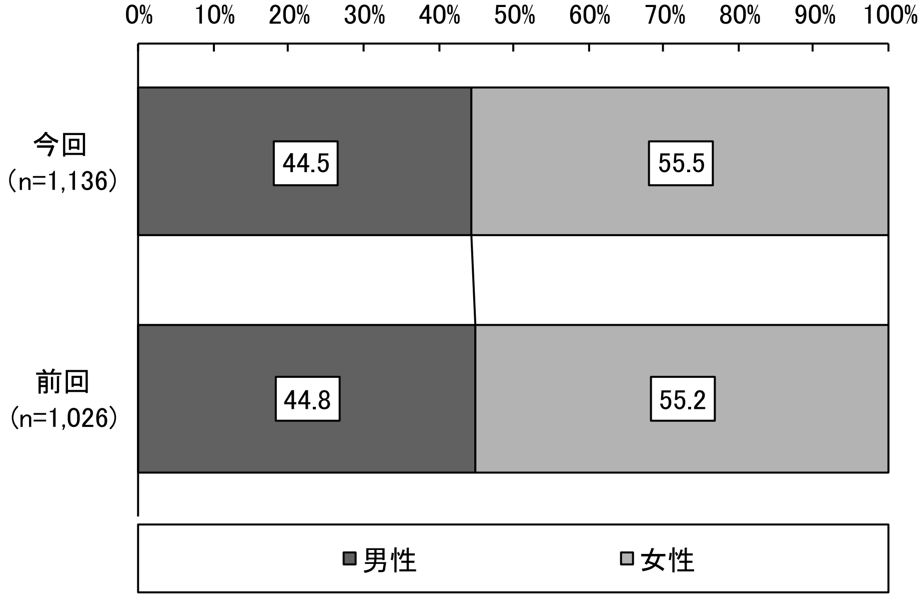
### （1）性別

図表(1)-1　性別（全体）

| | 回答数（件） | 構成率（%） |
|---|---|---|
| 男性 | 506 | 44.5 |
| 女性 | 630 | 55.5 |
| 合計(全体) | 1,136 | 100.0 |




図表(1)-2　性別（全体、前回比較）

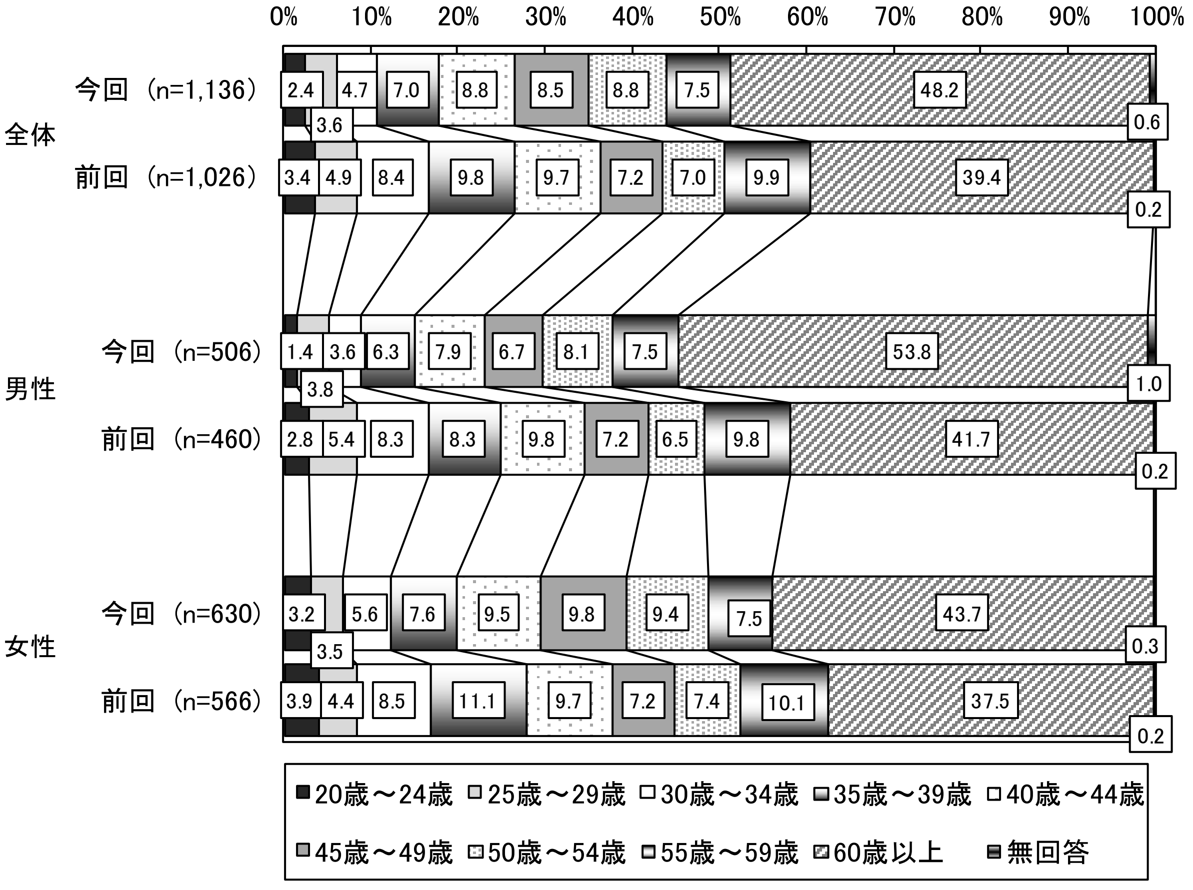


## (2) 年齢

図表(2)-1　年齢（全体、性別）

| | 年齢 | 回答数（件） | 構成率（%） | | 年齢 | 回答数（件） | 構成率（%） | | 年齢 | 回答数（件） | 構成率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 20～24歳 | 27 | 2.4 | 男性 | 20～24歳 | 7 | 1.4 | 女性 | 20～24歳 | 20 | 3.2 |
| | 25～29歳 | 41 | 3.6 | | 25～29歳 | 19 | 3.8 | | 25～29歳 | 22 | 3.5 |
| | 30～34歳 | 53 | 4.7 | | 30～34歳 | 18 | 3.6 | | 30～34歳 | 35 | 5.6 |
| | 35～39歳 | 80 | 7.0 | | 35～39歳 | 32 | 6.3 | | 35～39歳 | 48 | 7.6 |
| | 40～44歳 | 100 | 8.8 | | 40～44歳 | 40 | 7.9 | | 40～44歳 | 60 | 9.5 |
| | 45～49歳 | 96 | 8.5 | | 45～49歳 | 34 | 6.7 | | 45～49歳 | 62 | 9.8 |
| | 50～54歳 | 100 | 8.8 | | 50～54歳 | 41 | 8.1 | | 50～54歳 | 59 | 9.4 |
| | 55～59歳 | 85 | 7.5 | | 55～59歳 | 38 | 7.5 | | 55～59歳 | 47 | 7.5 |
| | 60歳以上 | 547 | 48.2 | | 60歳以上 | 272 | 53.8 | | 60歳以上 | 275 | 43.7 |
| | 無回答 | 7 | 0.6 | | 無回答 | 5 | 1.0 | | 無回答 | 2 | 0.3 |
| | 合計 | 1,136 | 100.0 | | 小計 | 506 | 100.0 | | 小計 | 630 | 100.0 |

図表(2)-2　年齢（全体、性別　前回比較）



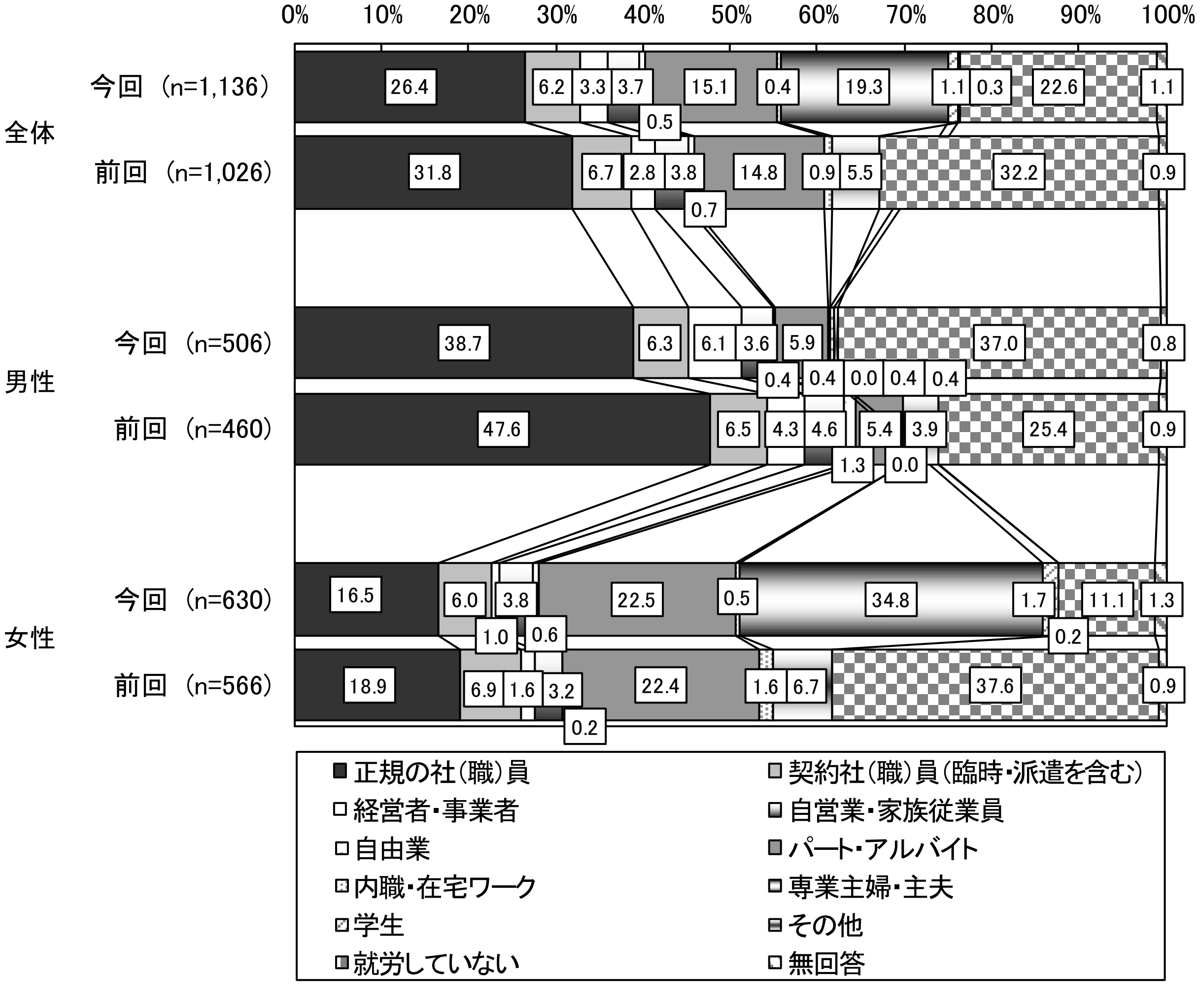

以降、年齢で見る場合は、年齢によっては回答数が少ないため、5歳区切りではなく10歳区切りの年代で見ることとする。

## (3) 職業

図表(3)-1　職業（全体、性別、前回比較）

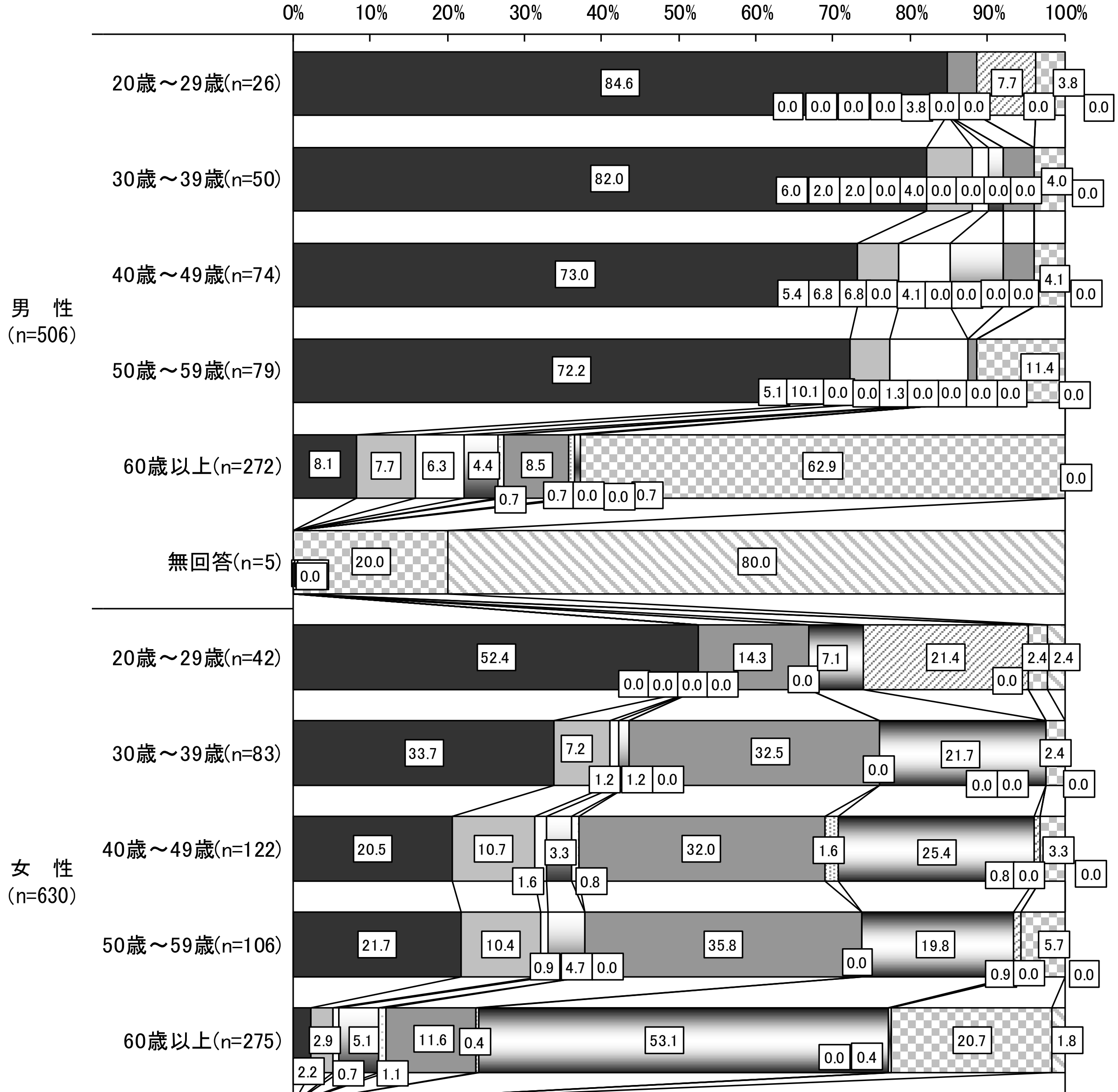
| 回答数（件） | 正規の社(職)員 | 契約社(職)員(臨時・派遣を含む) | 経営者・事業者 | 自営業・家族従業員 | 自由業 | パート・アルバイト | 内職・在宅ワーク | 専業主婦・主夫 | 学生 | その他 | 就労していない | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性 | 196 | 32 | 31 | 18 | 2 | 30 | 2 | 0 | 2 | 2 | 187 | 4 | 506 |
| 女性 | 104 | 38 | 6 | 24 | 4 | 142 | 3 | 219 | 11 | 1 | 70 | 8 | 630 |
| 全体 | 300 | 70 | 37 | 42 | 6 | 172 | 5 | 219 | 13 | 3 | 257 | 12 | 1,136 |

今回調査から追加（専業主婦・主夫、学生）




※「専業主婦・主夫」「学生」は今回調査において新たに選択肢として追加。なお、前回調査においては「就労していない」に含む。

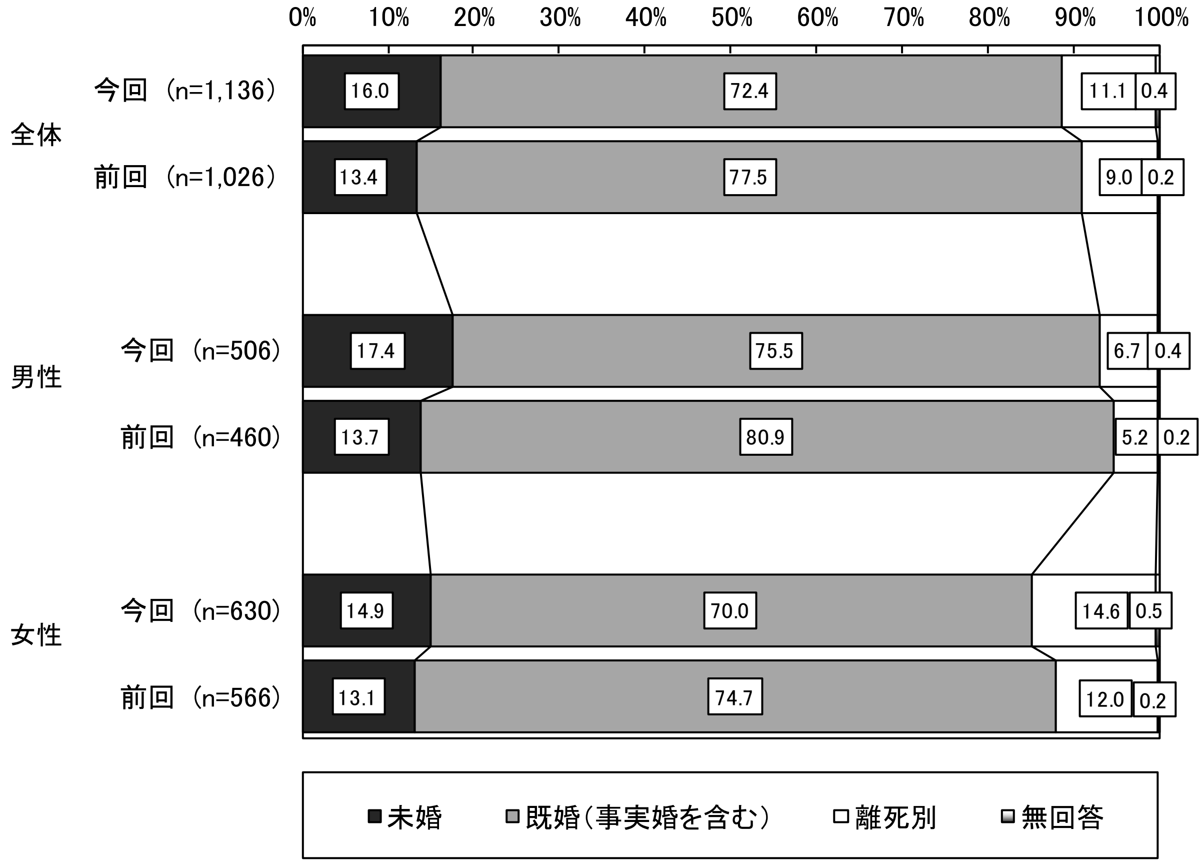
## 図表(3)-2　職業（性別、年代別）



## (4)-1 婚姻の有無

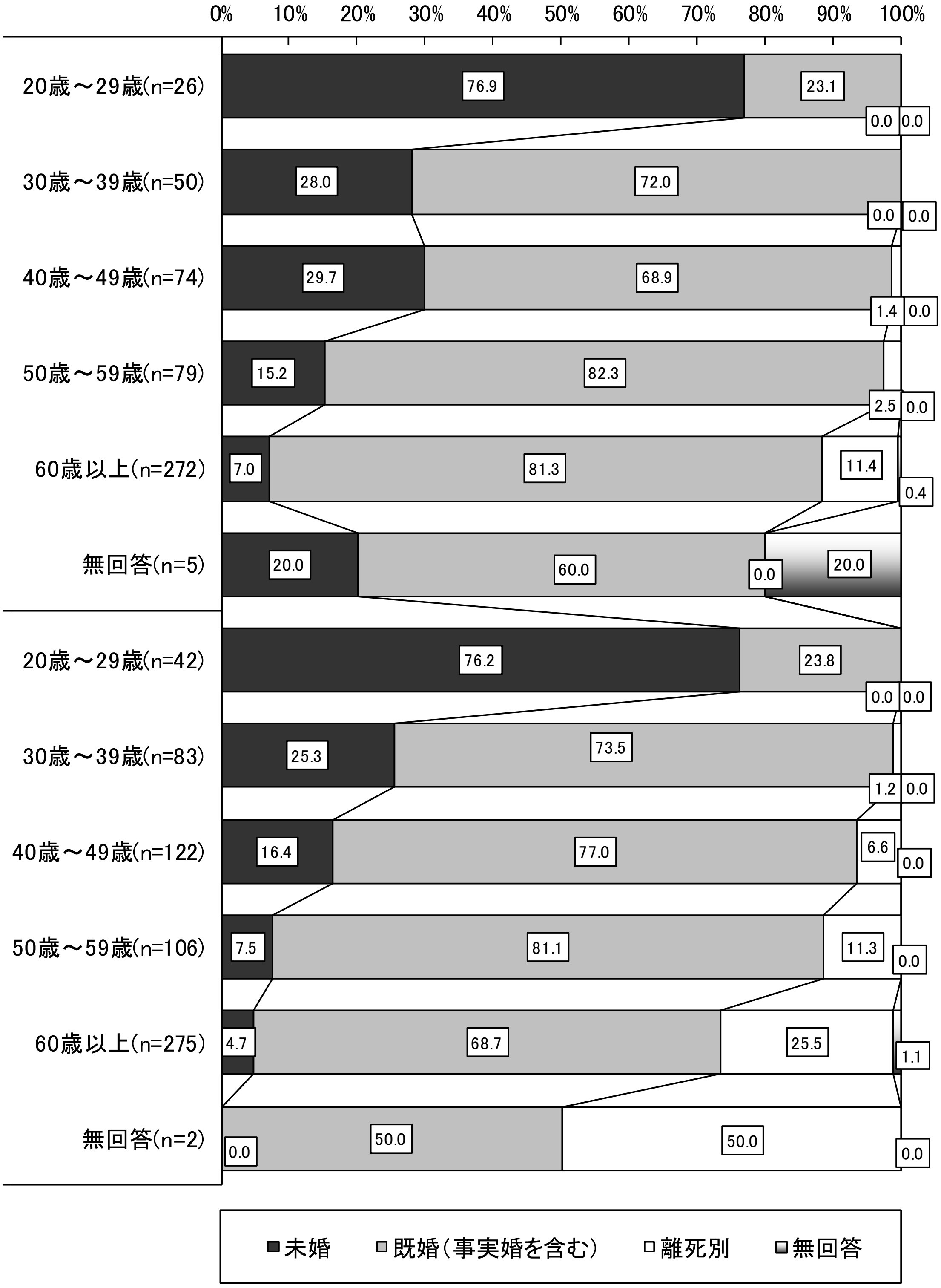
図表(4)-1-1　婚姻の有無（全体、性別、前回比較）

| 回答数（件） | 未婚 | 既婚（事実婚を含む） | 離死別 | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男性 | 88 | 382 | 34 | 2 | 506 |
| 女性 | 94 | 441 | 92 | 3 | 630 |
| 全体 | 182 | 823 | 126 | 5 | 1,136 |




注：「既婚」には、事実婚を含む。
事実婚とは、婚姻届けを出していないため法律上の夫婦とは認められないが、事実上婚姻状態にある関係のこと。

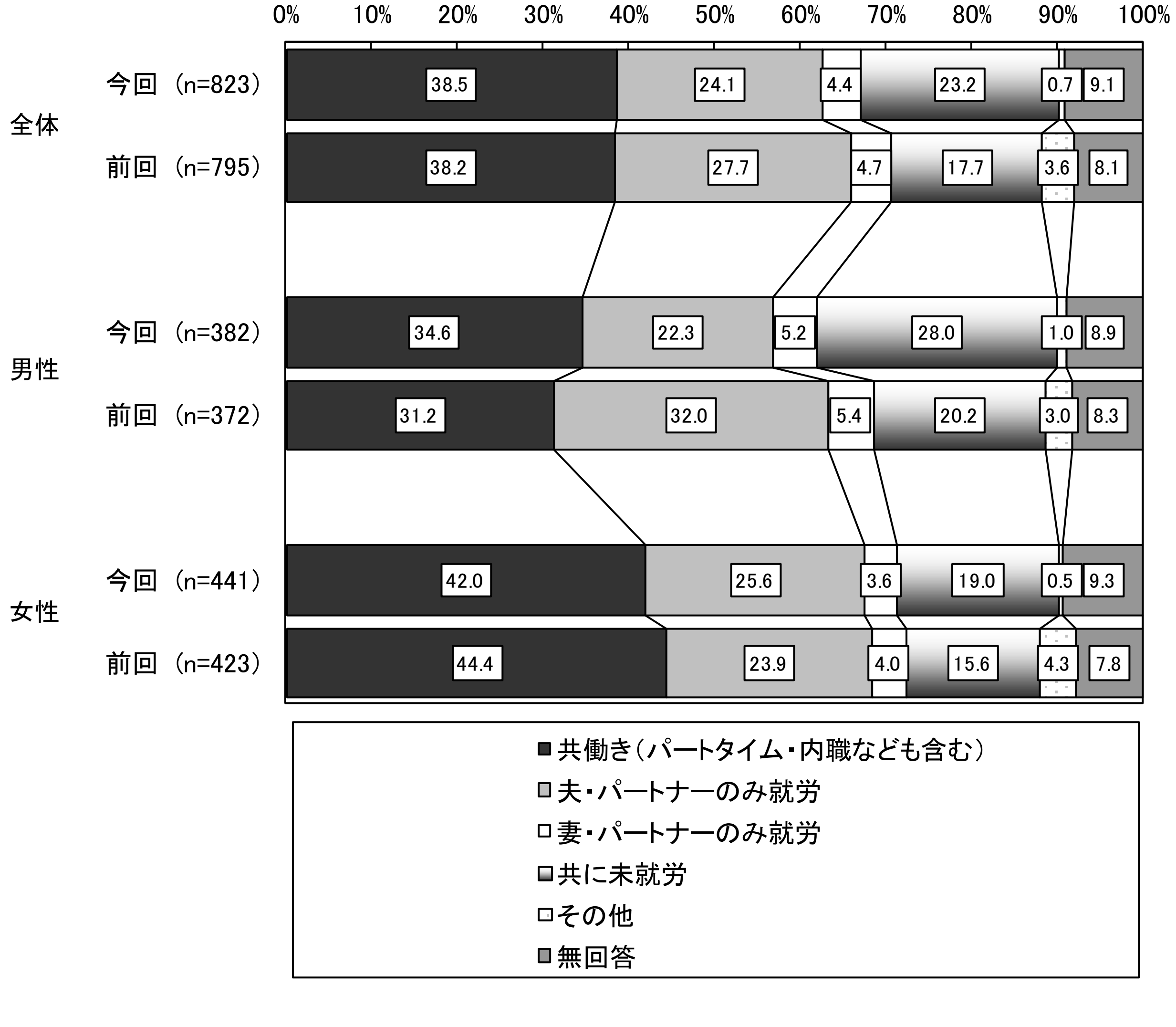
図表(4)-1-2　婚姻の有無（性別、年代別）



## (4)-2 配偶者・パートナーとの就労形態

図表(4)-2　配偶者・パートナーとの就労形態（全体、性別、前回比較）

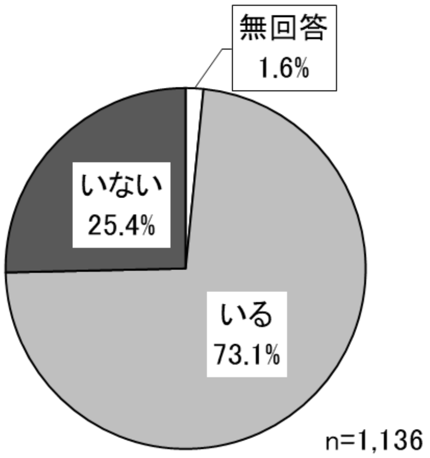
| 回答数（件） | 共働き（パートタイム・内職なども含む） | 夫・パートナーのみ就労 | 妻・パートナーのみ就労 | 共に未就労 | その他 | 無回答 | 合計（全体） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性 | 132 | 85 | 20 | 107 | 4 | 34 | 382 |
| 女性 | 185 | 113 | 16 | 84 | 2 | 41 | 441 |
| 合計(全体) | 317 | 198 | 36 | 191 | 6 | 75 | 823 |

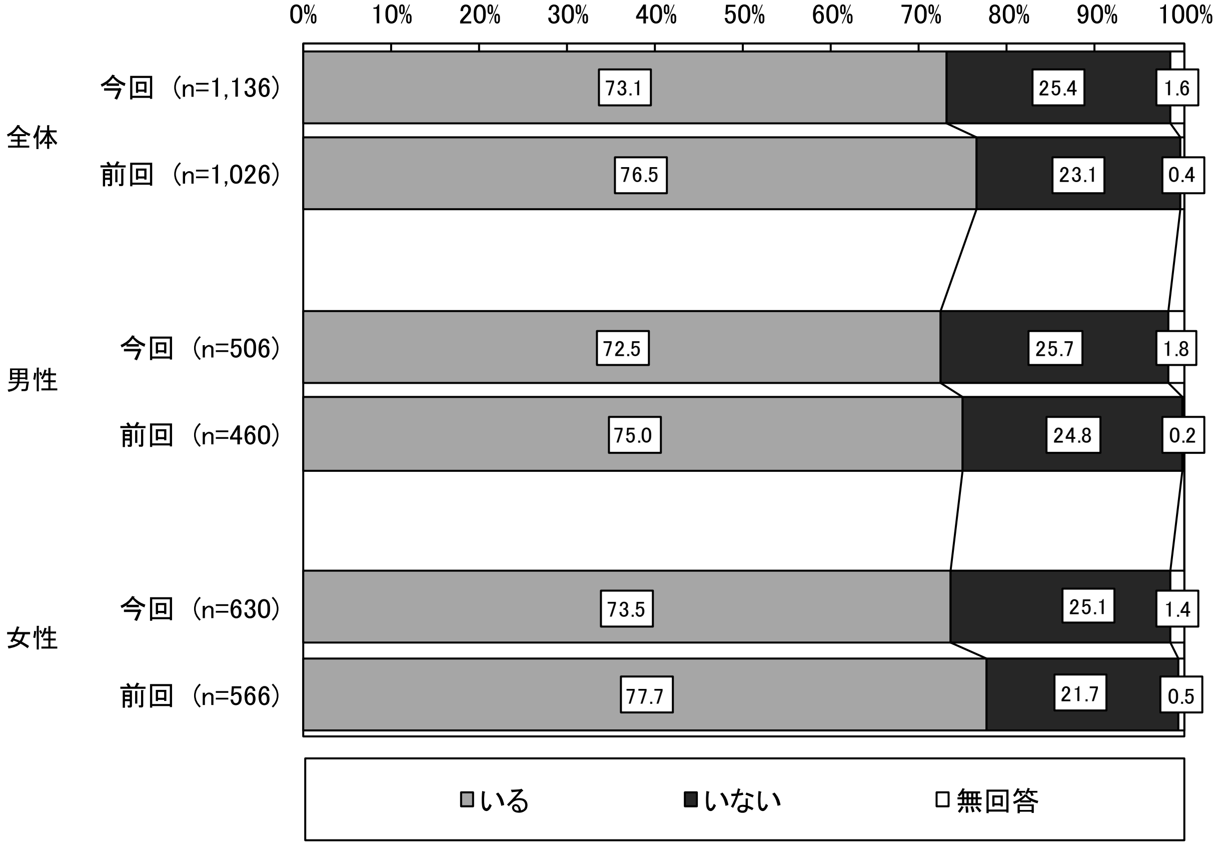


## (5)-1 子どもの有無

図表(5)-1　子どもの有無（全体、性別、前回比較）

| | 回答数（件） | 構成率（%） |
|---|---|---|
| 子どもがいる | 830 | 73.1 |
| 子どもがいない | 288 | 25.4 |
| 無回答 | 18 | 1.6 |
| 合計（全体） | 1,136 | 100.0 |

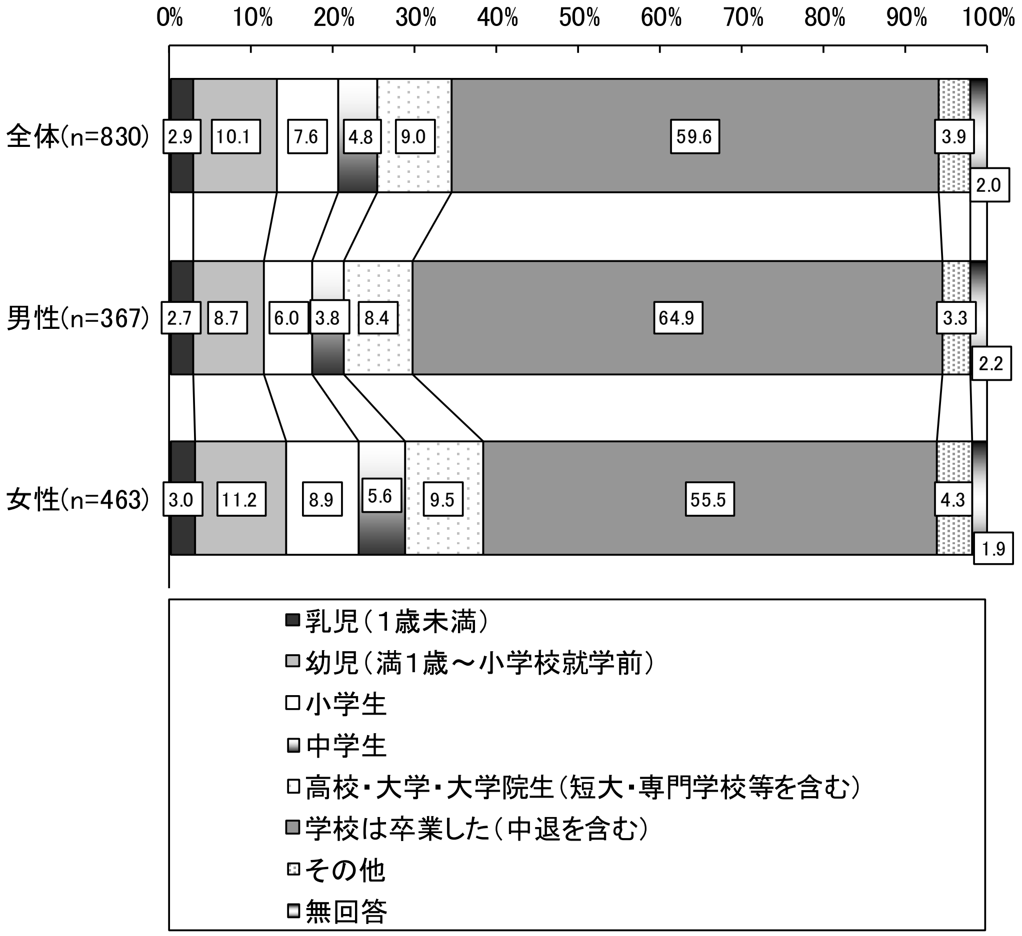


## (5)-2 子どもの現状

図表(5)-2　子どもの現状（全体、性別）

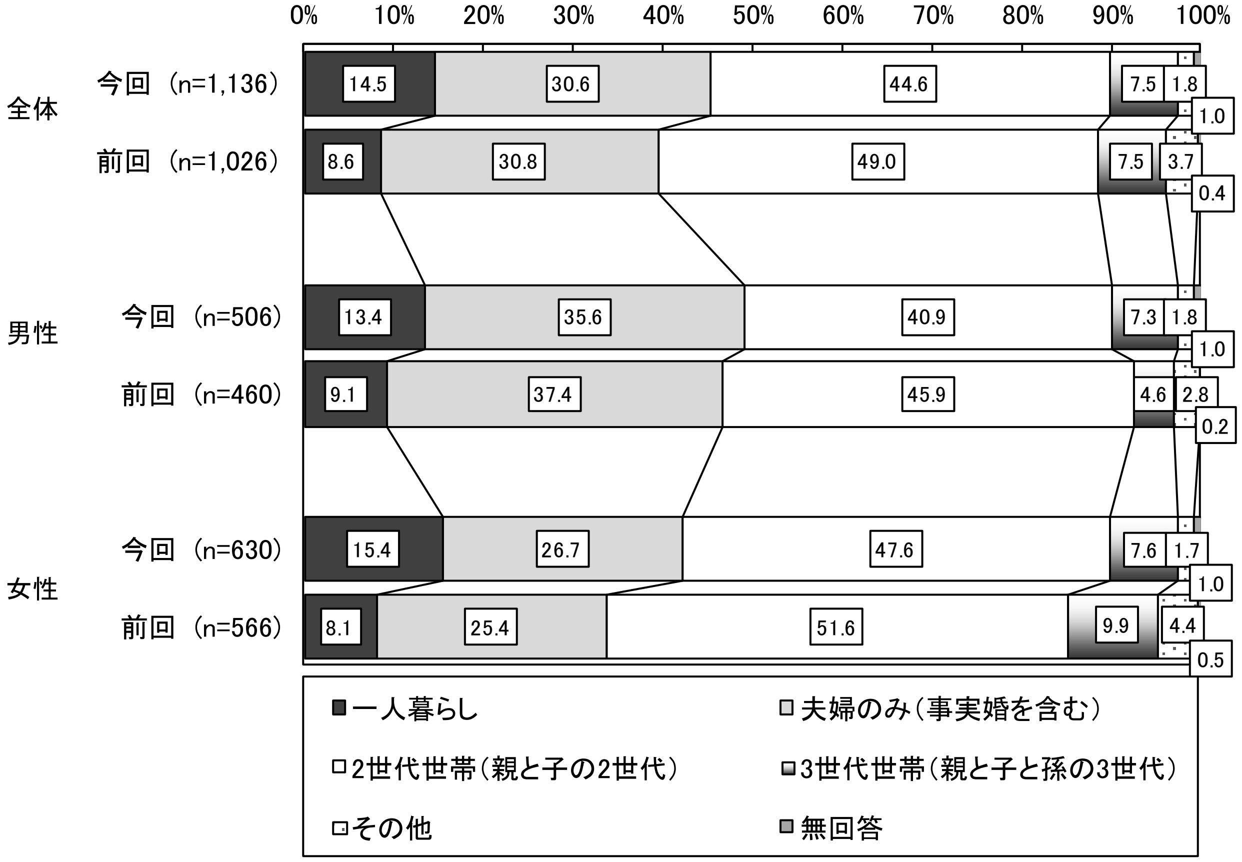
| 回答数（件） | 乳児（1歳未満） | 幼児（満1歳～小学校就学前） | 小学生 | 中学生 | 高校・大学・大学院生（短大・専門学校等を含む） | 学校は卒業した（中退を含む） | その他 | 無回答 | 合計（全体） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性 | 10 | 32 | 22 | 14 | 31 | 238 | 12 | 8 | 367 |
| 女性 | 14 | 52 | 41 | 26 | 44 | 257 | 20 | 9 | 463 |
| 合計（全体） | 24 | 84 | 63 | 40 | 75 | 495 | 32 | 17 | 830 |



## (6) 同居している家族

### 図表(6)-1　同居している家族（全体、性別、前回比較）

| 回答数（件） | 一人暮らし | 夫婦のみ（事実婚を含む） | 2世代世帯（親と子の2世代） | 3世代世帯（親と子と孫の3世代） | その他 | 無回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性 | 68 | 180 | 207 | 37 | 9 | 5 | 506 |
| 女性 | 97 | 168 | 300 | 48 | 11 | 6 | 630 |
| 全体 | 165 | 348 | 507 | 85 | 20 | 11 | 1,136 |




注：「夫婦のみ」には、事実婚を含む。
事実婚とは、婚姻届けを出していないため法律上の夫婦とは認められないが、事実上婚姻状態にある関係のこと。

# Ⅱ　調査結果

## １．男女共同参画社会に関する意識について

### (1)「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」という言葉の認知度

問１＜**すべての方**にお聞きします＞

あなたは、以下の言葉を知っていますか。あてはまる番号をそれぞれ**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

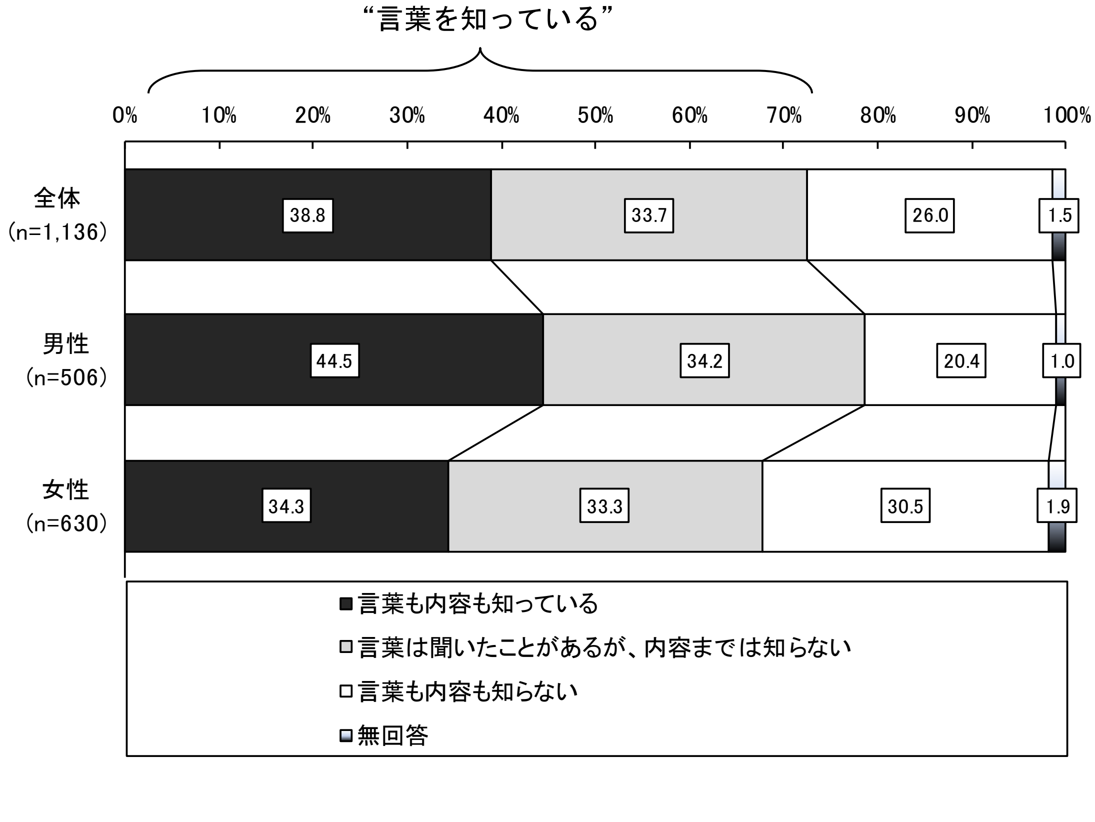
男女共同参画社会

“言葉を知っている（聞いたことがある）”が 72.5%

**全体では**、「言葉も内容も知っている」（38.8%）と「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」（33.7%）の両者を合わせた“言葉を知っている（聞いたことがある）”は 72.5%である。

**性別にみると**、男女ともに「言葉も内容も知っている」（男性 44.5%、女性 34.3%）が最も高いが、女性は「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」（33.3%）もほぼ同率である。「言葉も内容も知っている」は、男性の方が女性より 10.2 ポイント高い。　**【図表 1-1 参照】**

図表 1-1　「男女共同参画社会」という言葉の認知度（全体、性別）

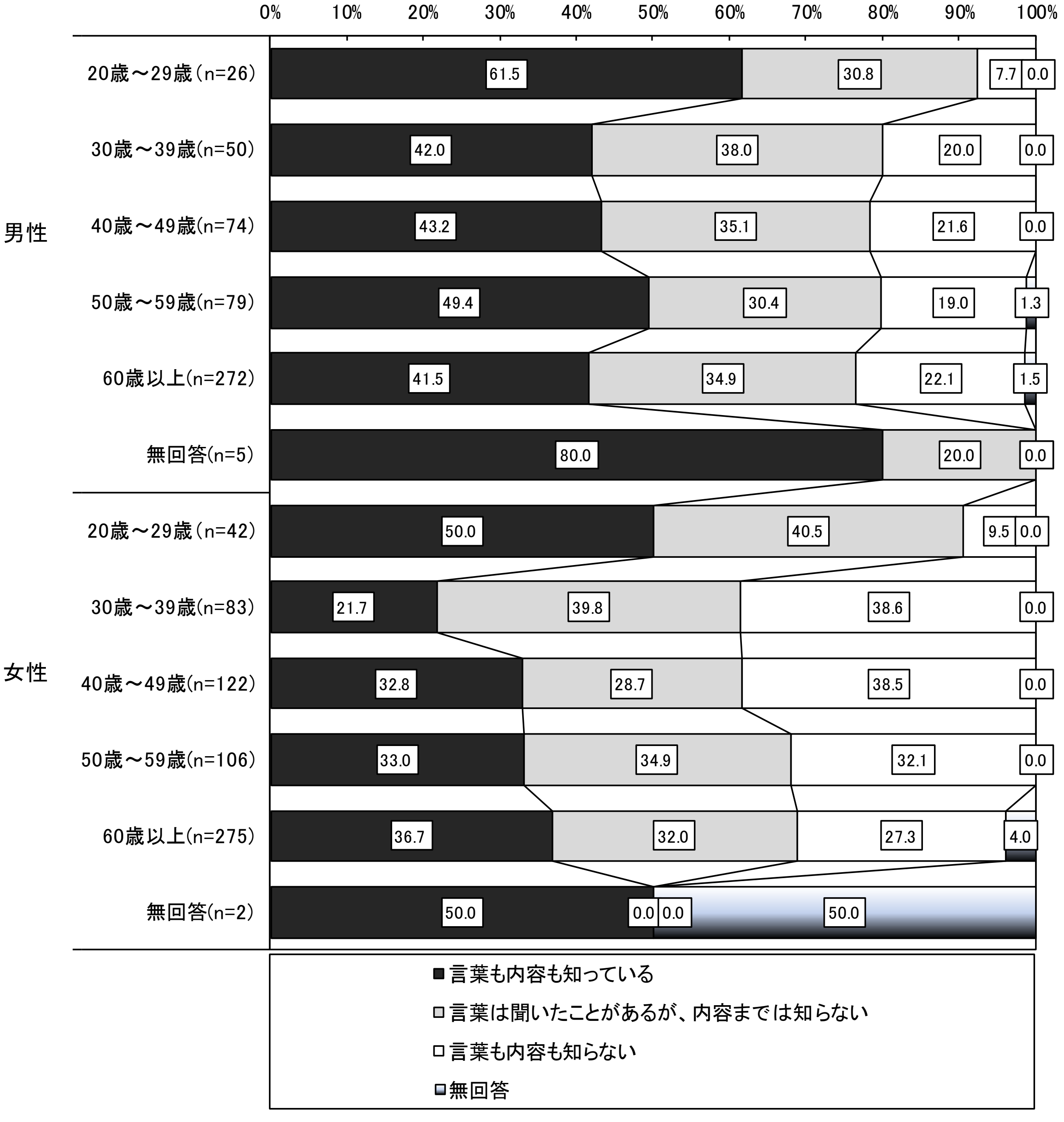


**性別・年代別にみると**、男性はどの年代も「言葉も内容も知っている」が最も高く、30 歳代（42.0%）、40 歳代（43.2%）、50 歳代（49.4%）、60 歳以上（41.5%）である。

女性は年代の高いほうが「言葉も内容も知っている」が高くなっており、60 歳以上（36.7%）、50 歳代（33.0%）、40 歳代（32.8%）、30 歳代（21.7%）である。30 歳代は「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」（39.8%）と「言葉も内容も知らない」（38.6%）がほぼ同率である。40 歳代は「言葉も内容も知らない」が 38.5%で最も高い。50 歳代は「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」（34.9%）、「言葉も内容も知っている」（33.0%）、「言葉も内容も知らない」（32.1%）がほぼ同率である。

なお、20 歳代は該当者数が 50 人未満のため分析の対象から除いている。**【図表 1-2 参照】**

図表 1-2 「男女共同参画社会」という言葉の認知度（性別、年代別）



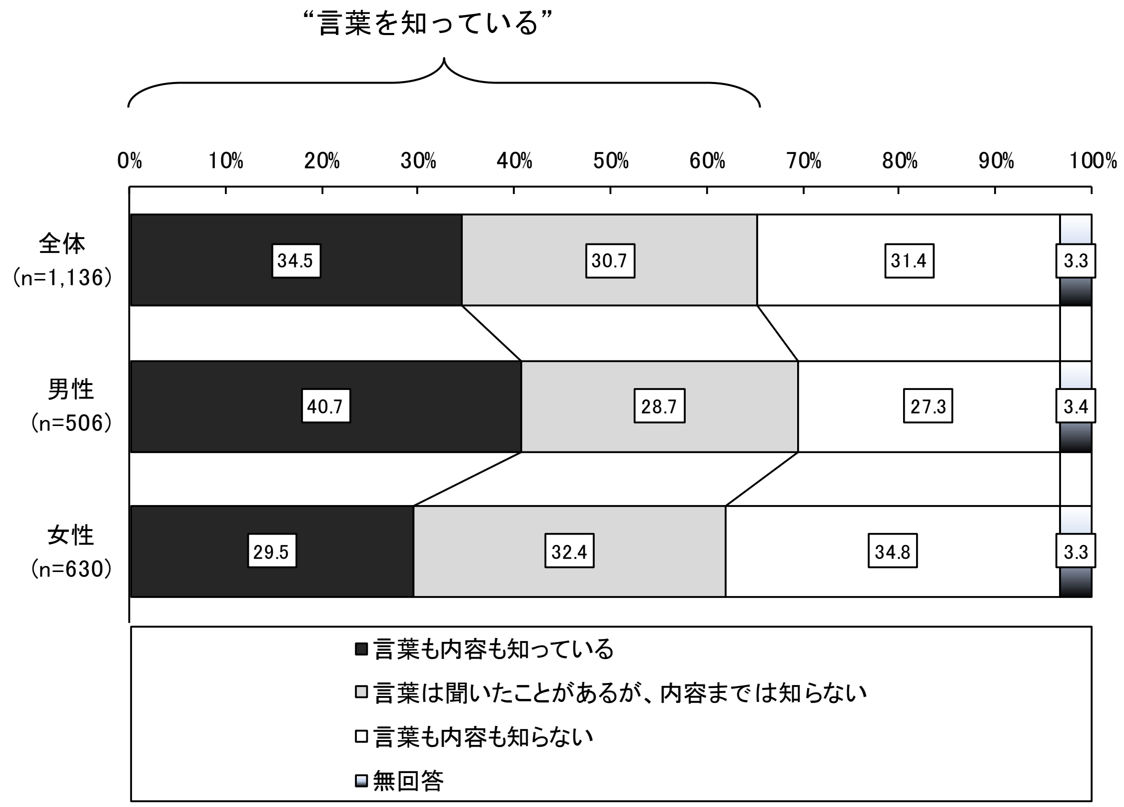
## 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

### “言葉を知っている（聞いたことがある）”が 65.2%

**全体では**、「言葉も内容も知っている」（34.5%）と「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」（30.7%）の両者を合わせた“言葉を知っている（聞いたことがある）”は 65.2%である。

**性別にみると**、男性では「言葉も内容も知っている」が 40.7%で最も高いが、女性では「言葉も内容も知らない」が 34.8%で最も高い。女性は「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」も 32.4%とほぼ同率である。「言葉も内容も知っている」（男性 40.7%、女性 29.5%）は、男性の方が女性より 11.2 ポイント高い。 【図表 1-3 参照】

図表 1-3　「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉の認知度（全体、性別）

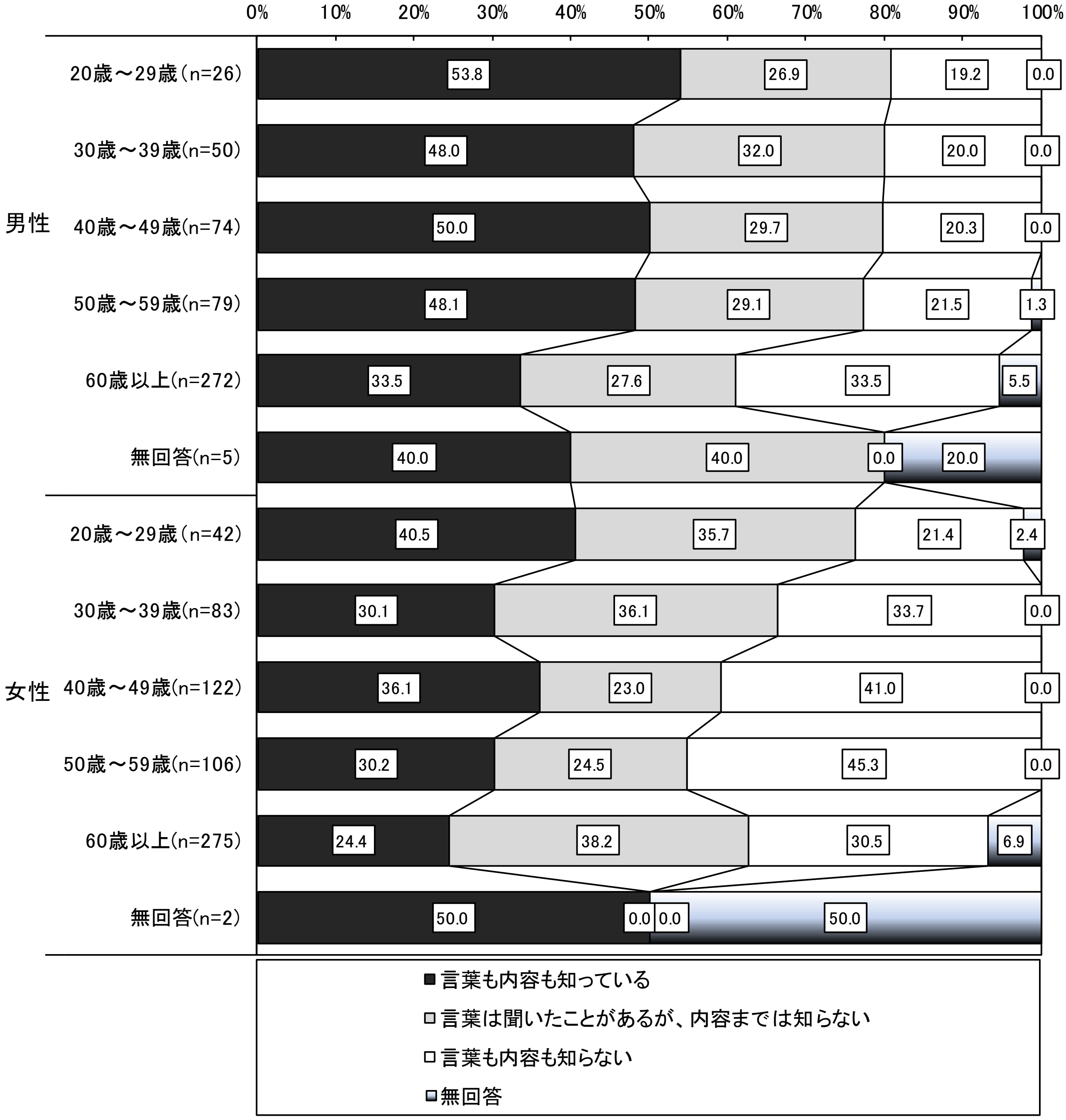


**性別・年代別にみると**、男性は「言葉も内容も知っている」が 30 歳代(48.0%)、40 歳代(50.0%)、50 歳代（48.1%）で最も高い。60 歳以上では「言葉も内容も知っている」と「言葉も内容も知らない」が同率の 33.5%である。

女性は「言葉も内容も知らない」が 40 歳代（41.0%）、50 歳代（45.3%）で最も高い。30 歳代と 60 歳以上では「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」（30 歳代 36.1%、60 歳以上 38.2%）が最も高い。

なお、20 歳代は該当者数が 50 人未満のため分析の対象から除いている。 【図表 1-4 参照】

図表 1-4　「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉の認知度
（性別、年代別）



## (2)「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について

問２＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

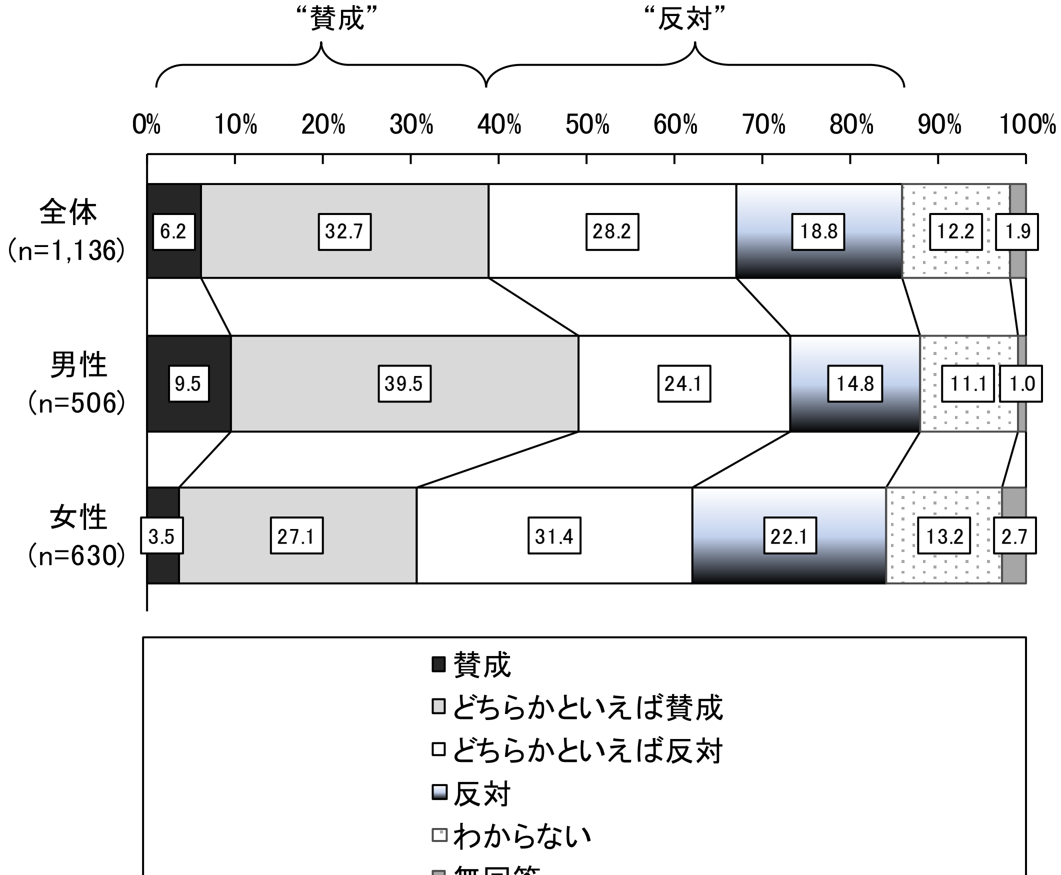
**「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、"賛成"は 38.8%、"反対"は 47.0%**

**全体では**、「賛成」(6.2%) と「どちらかといえば賛成」(32.7%) の両者を合わせた"賛成"は 38.8%である。一方、「どちらかといえば反対」(28.2%) と「反対」(18.8%) の両者を合わせた"反対"は 47.0%である。"反対"の方が"賛成"より 8.2 ポイント高い。

**性別にみると**、"賛成"は男性 (49.0%) が女性 (30.6%) より 18.4 ポイント高い。一方、"反対"は女性 (53.5%) の方が男性 (38.9%) より 14.6 ポイント高く、男女の意識に差がみられる。

【図表 2-1 参照】

図表 2-1　「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について（全体、性別）

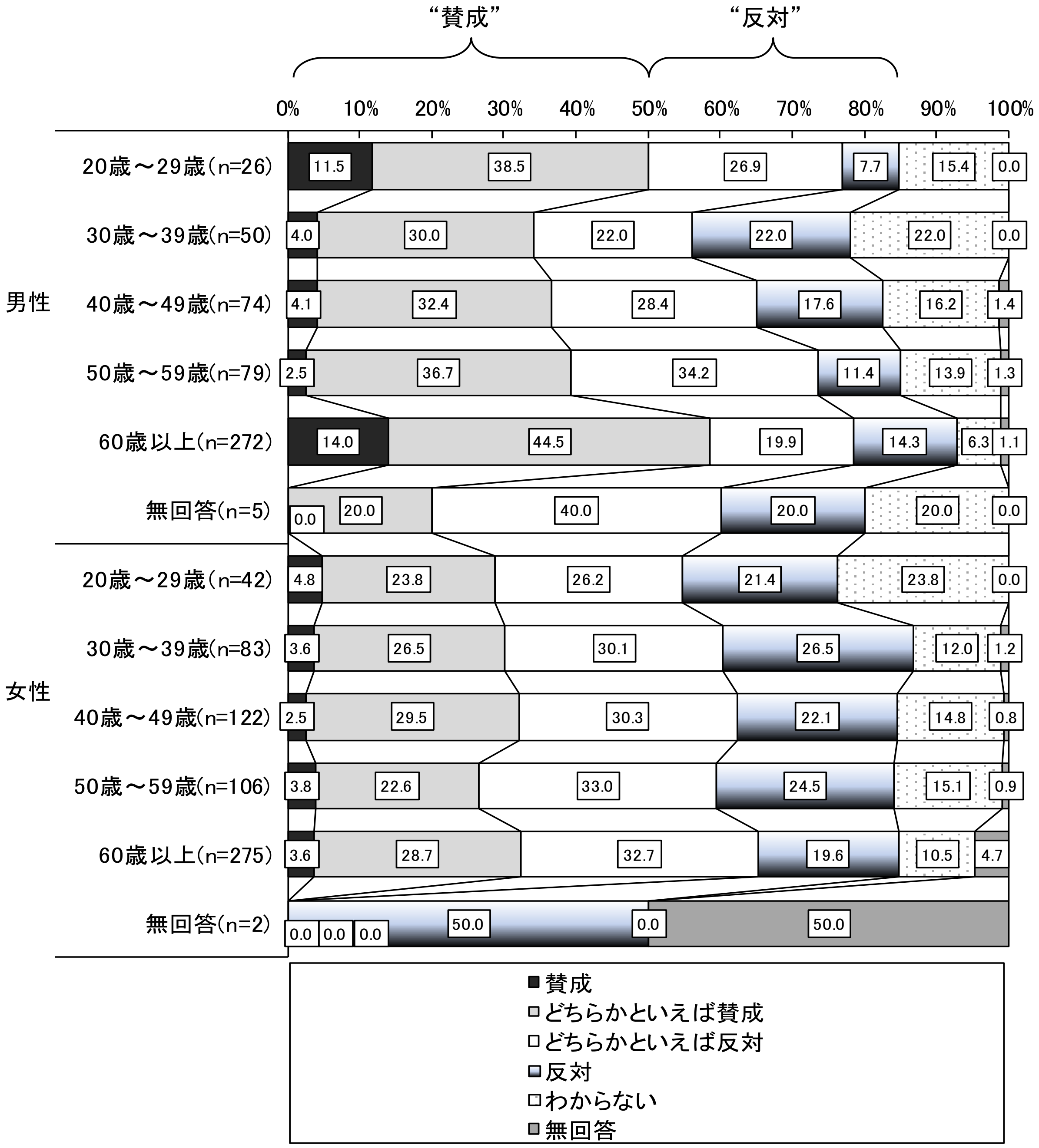


**性別・年代別にみると**、男性はどの年代も「どちらかといえば賛成」が最も高く、60 歳以上（44.5%）、50 歳代（36.7%）、40 歳代（32.4%）、30 歳代（30.0%）である。“賛成”は 60 歳以上で 58.5%と、“反対”（34.2%）より 24.3 ポイント高い。30 歳代、40 歳代、50 歳代では“反対”が“賛成”を上回っている。

女性は「どちらかといえば反対」が 30 歳代（30.1%）、50 歳代（33.0%）、60 歳以上（32.7%）で最も高い。40 歳代では「どちらかといえば反対」（30.3%）と「どちらかといえば賛成」（29.5%）がほぼ同率である。女性はどの年代でも“反対”が“賛成”を上回っている。

なお、20 歳代は該当者数が 50 人未満のため分析の対象から除いている。　　【図表 2-2 参照】

図表 2-2　「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について（性別、年代別）



## (3) 各分野の男女の地位

問３＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の（Ａ）～（Ｅ）の事項について、あてはまる番号を**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

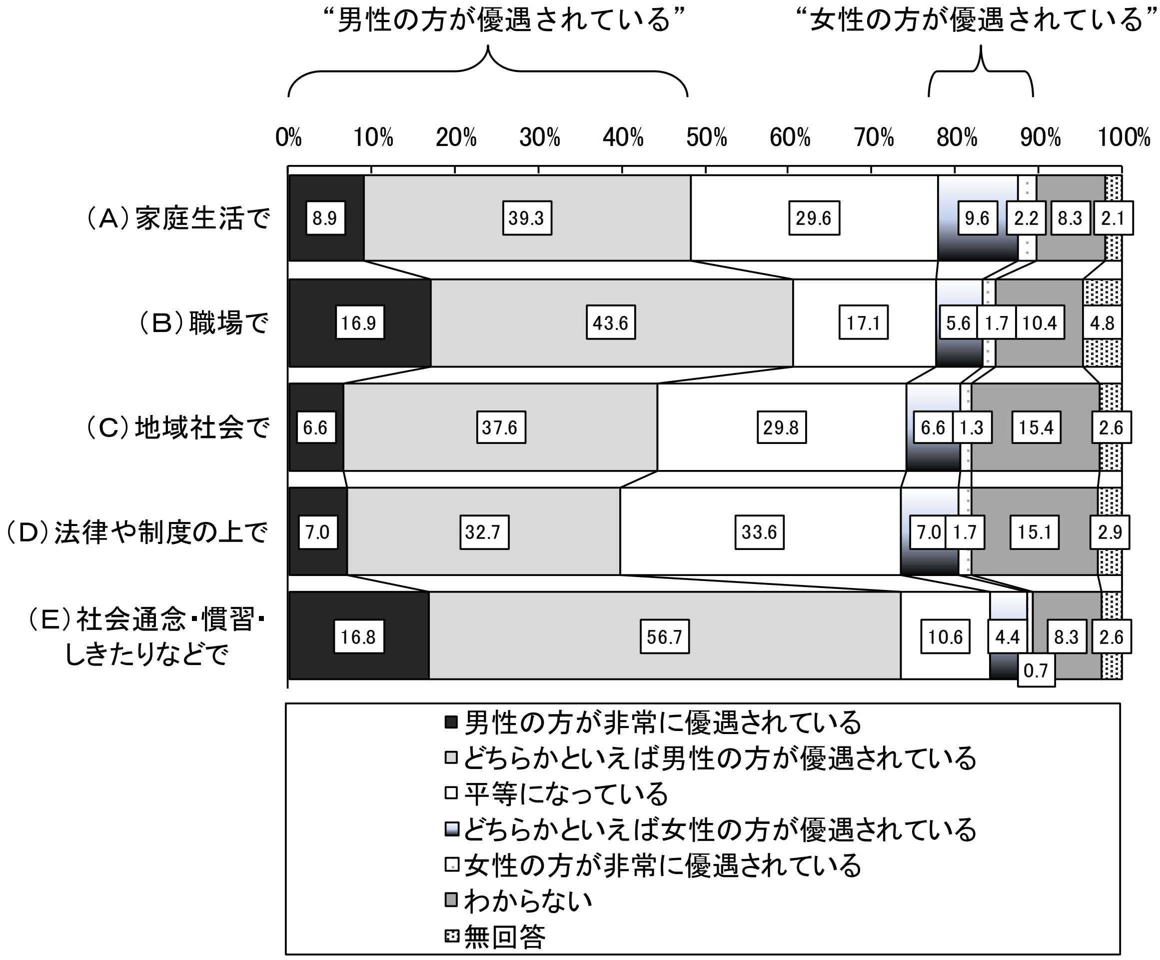
**「社会通念・慣習・しきたりなど」で 73.5%、「職場」で 60.5%が、“男性の方が優遇されている”と回答**

**全体では**、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の両者を合わせた“男性の方が優遇されている”は、「社会通念・慣習・しきたりなどで」が最も高く 73.5%、次いで「職場で」が 60.5%である。“男性の方が優遇されている”が最も低かったのは「法律や制度の上で」の 39.7%である。

「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は、「家庭生活で」が最も高く 11.8%である。

「平等になっている」は、「法律や制度の上で」が 33.6%で最も高く、「社会通念・慣習・しきたりなどで」が 10.6%と最も少ない。 **【図表 3-1 参照】**

図表 3-1　各分野の男女の地位（全体 n=1,136）



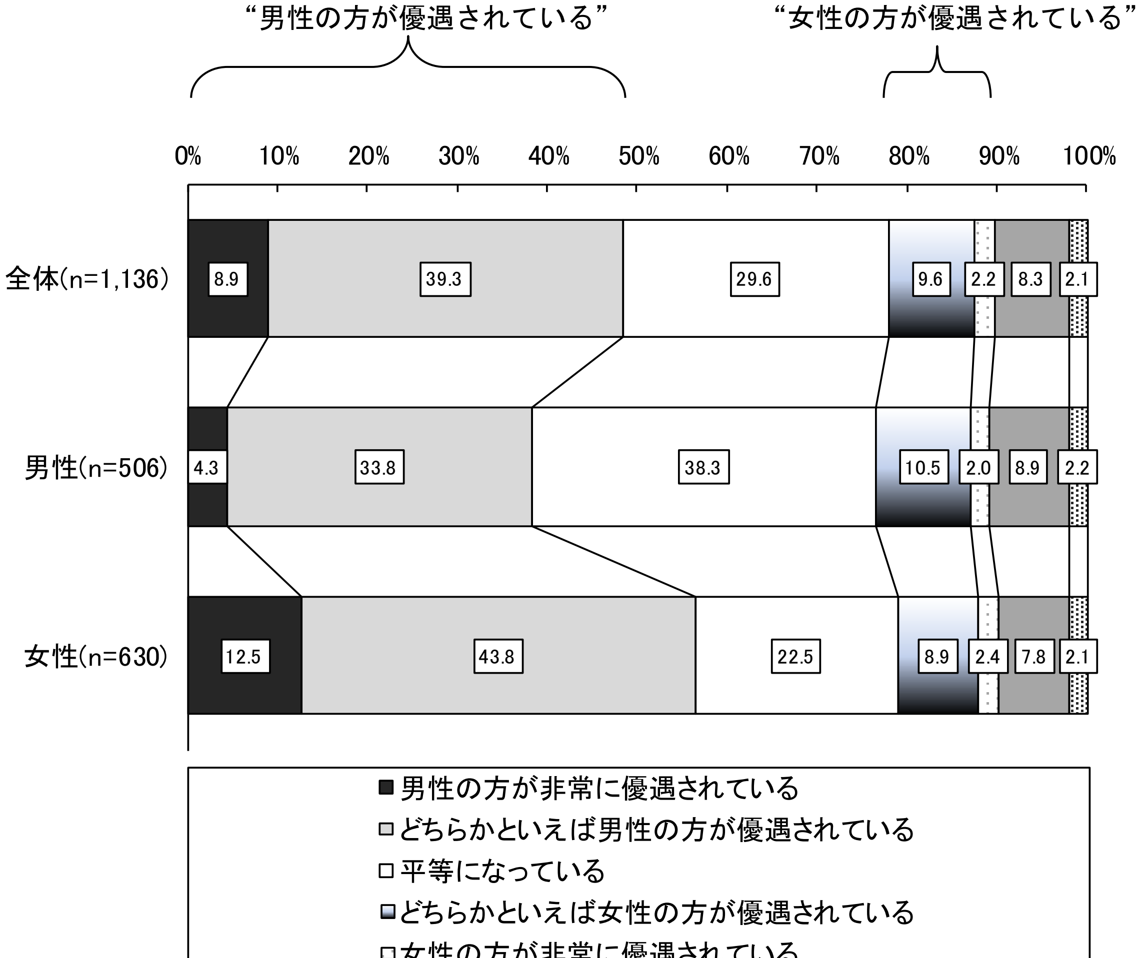
## （Ａ）家庭生活で

**全体の 48.2%、女性の 56.3%が「家庭生活」で“男性の方が優遇されている”と回答**

**全体では**、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の両者を合わせた“男性の方が優遇されている”が 48.2%である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は 11.8%である。また、「平等になっている」は 29.6%である。

**性別にみると**、男性では「平等になっている」が 38.3%で最も高いが、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 43.8%で最も高い。“男性の方が優遇されている”は、男性が 38.1%、女性が 56.3%で、女性の方が男性より 18.2 ポイント高い。　**【図表 3-2 参照】**

図表 3-2　各分野の男女の地位（Ａ）家庭生活で　（全体、性別）



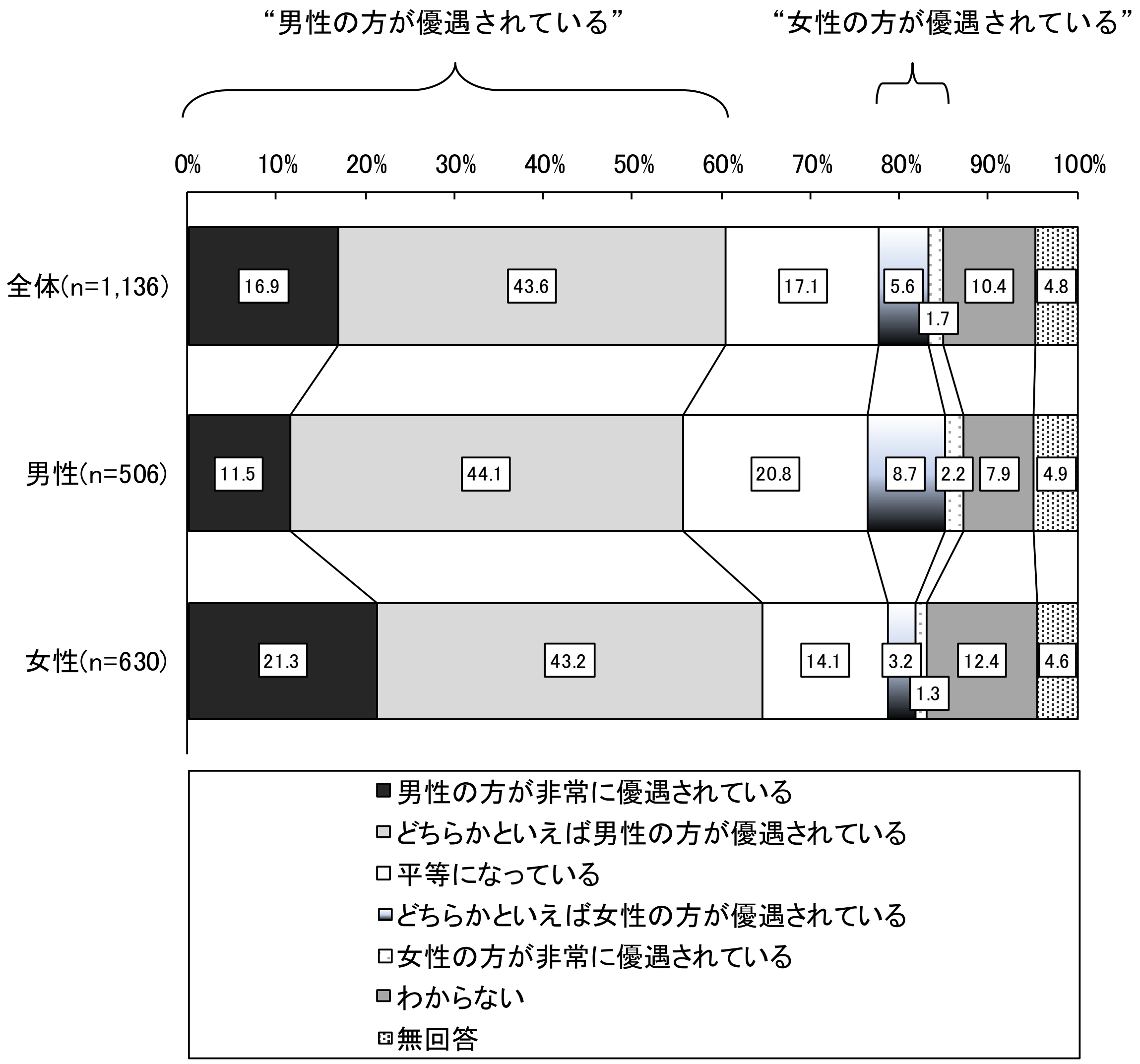
## （B）職場で

**全体の 60.5%、女性の 64.4%が「職場」で“男性の方が優遇されている”と回答**

**全体では**、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の両者を合わせた“男性の方が優遇されている”が 60.5%である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は 7.3%である。また、「平等になっている」は 17.1%である。

**性別にみると**、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（男性 44.1%、女性 43.2%）が最も高い。“男性の方が優遇されている”は、男性が 55.5%、女性が 64.4%で、女性の方が男性より 8.9 ポイント高い。 **【図表 3-3 参照】**

図表 3-3　各分野の男女の地位（B）職場で　（全体、性別）



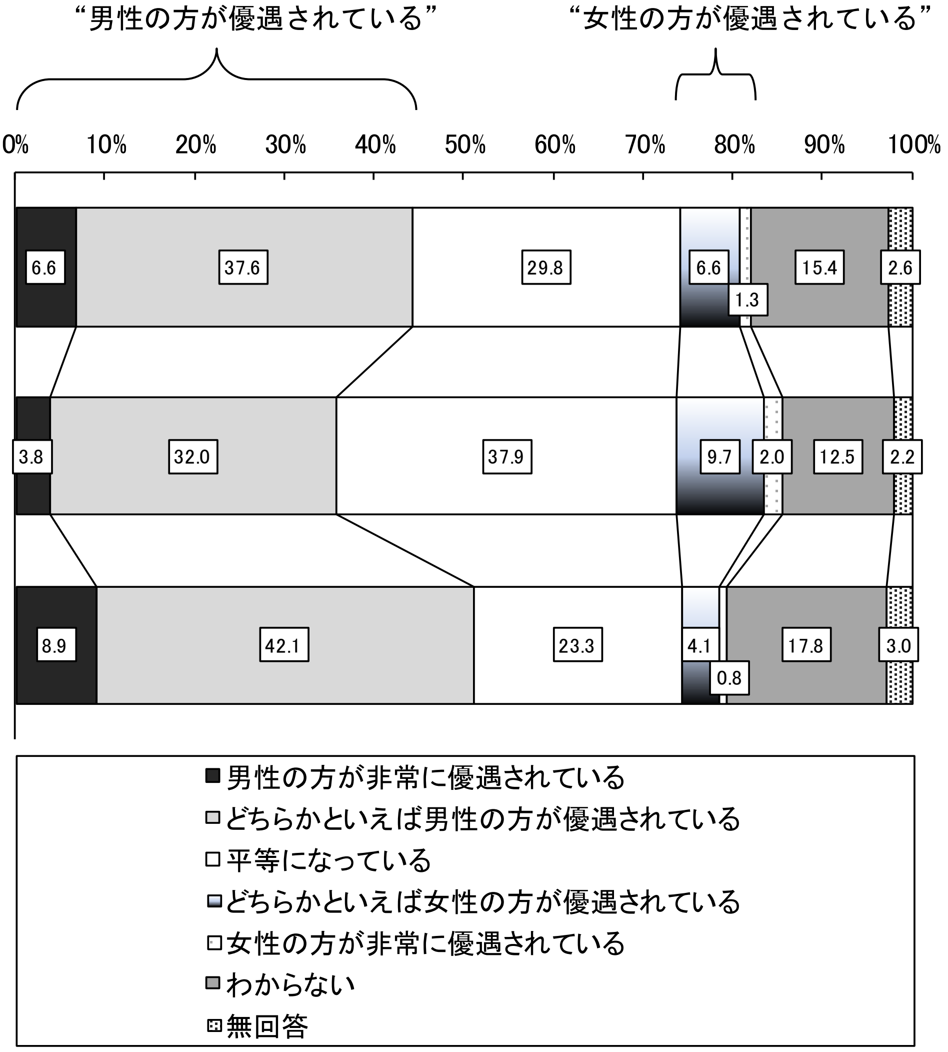
## （C）地域社会で

### 全体の 44.2%、女性の 51.0%が「地域社会」で“男性の方が優遇されている”と回答

**全体では**、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の両者を合わせた“男性の方が優遇されている”が 44.2%である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は 7.9%である。また、「平等になっている」は 29.8%である。

**性別にみると**、男性では「平等になっている」が 37.9%で最も高いが、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 42.1%で最も高い。“男性の方が優遇されている”は、男性が 35.8%、女性が 51.0%で、女性の方が男性より 15.2 ポイント高い。 【図表 3-4 参照】

図表 3-4　各分野の男女の地位（C）地域社会で　（全体、性別）



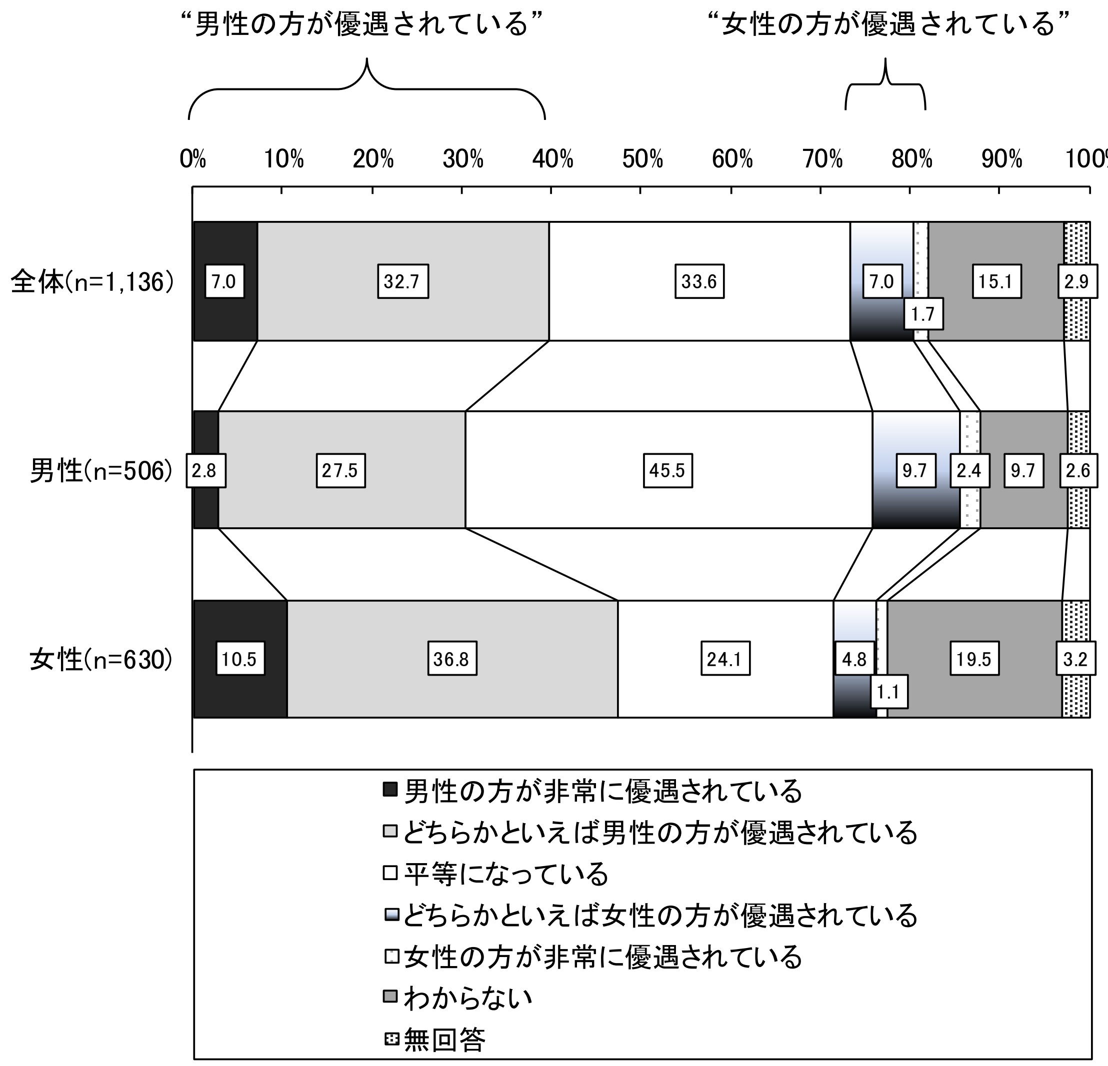
## （Ｄ）法律や制度の上で

**全体の 39.7%、女性の 47.3%が「法律や制度の上」で“男性の方が優遇されている”と回答**

**全体では**、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の両者を合わせた“男性の方が優遇されている”が 39.7%である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は 8.6%である。また、「平等になっている」は 33.6%である。

**性別にみると**、男性では「平等になっている」が 45.5%で最も高いが、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 36.8%で最も高い。“男性の方が優遇されている”は、男性が 30.2%、女性が 47.3%で、女性の方が男性より 17.1 ポイント高い。 【図表 3-5 参照】

図表 3-5　各分野の男女の地位（Ｄ）法律や制度の上で　（全体、性別）



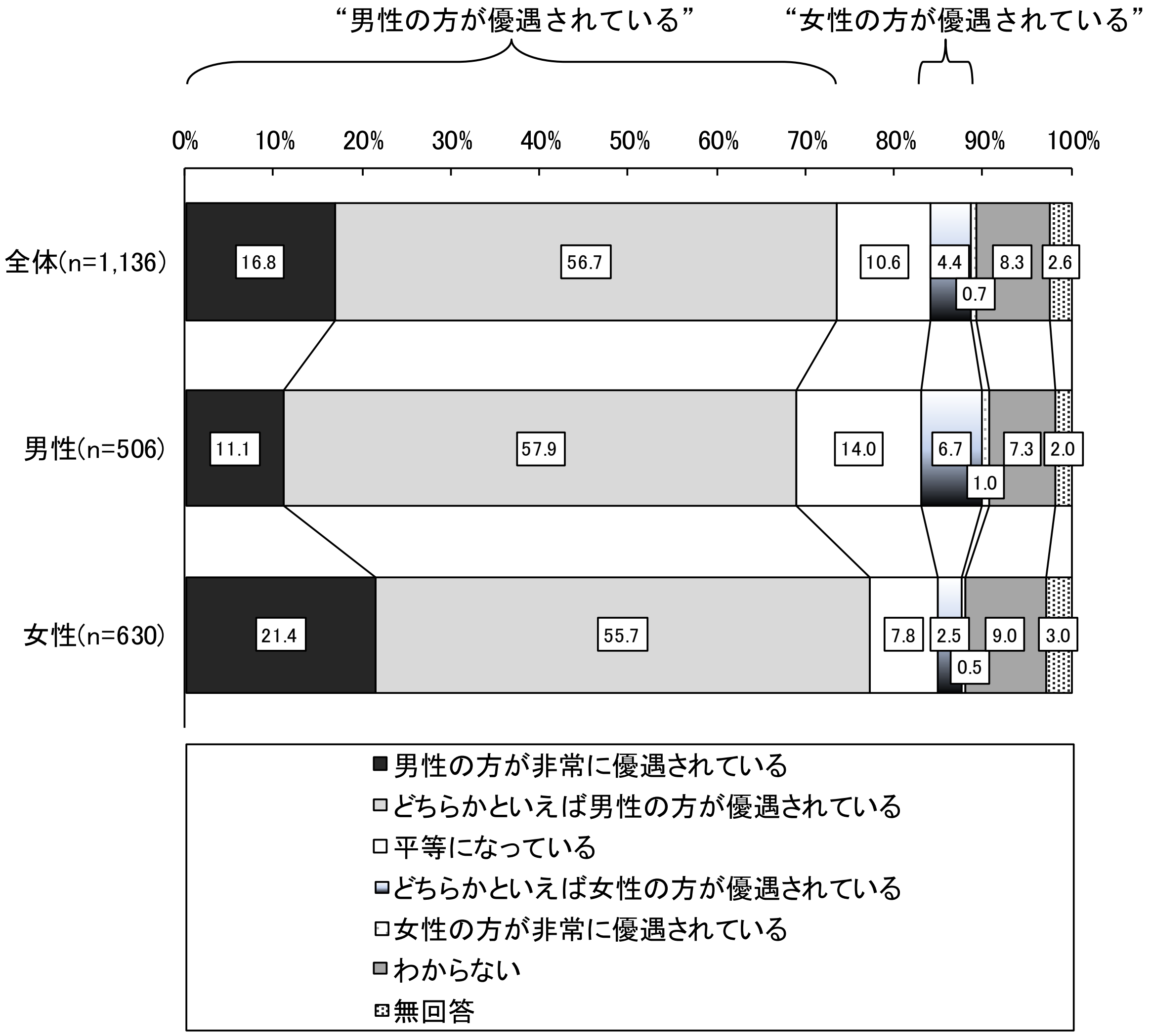
## （Ｅ）社会通念・慣習・しきたりなどで

**全体の 73.5%、女性の 77.1%が「社会通念・慣習・しきたりなど」で“男性の方が優遇されている”と回答**

**全体では**、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の両者を合わせた“男性の方が優遇されている”が 73.5%である。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の両者を合わせた“女性の方が優遇されている”は 5.1%である。また、「平等になっている」は 10.6%である。

**性別にみると**、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（男性 57.9%、女性 55.7%）が最も高い。“男性の方が優遇されている”は、男性が 69.0%、女性が 77.1%で、女性の方が男性より 8.2 ポイント高い。 **【図表 3-6 参照】**

図表 3-6　各分野の男女の地位（Ｅ）社会通念・慣習・しきたりなどで
（全体、性別）



## ２．男性像について

### (1) 男性像について

問４＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたがお考えの男性像についてお聞きします。次の（Ａ）～（Ｆ）の事項について、あてはまる番号を**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

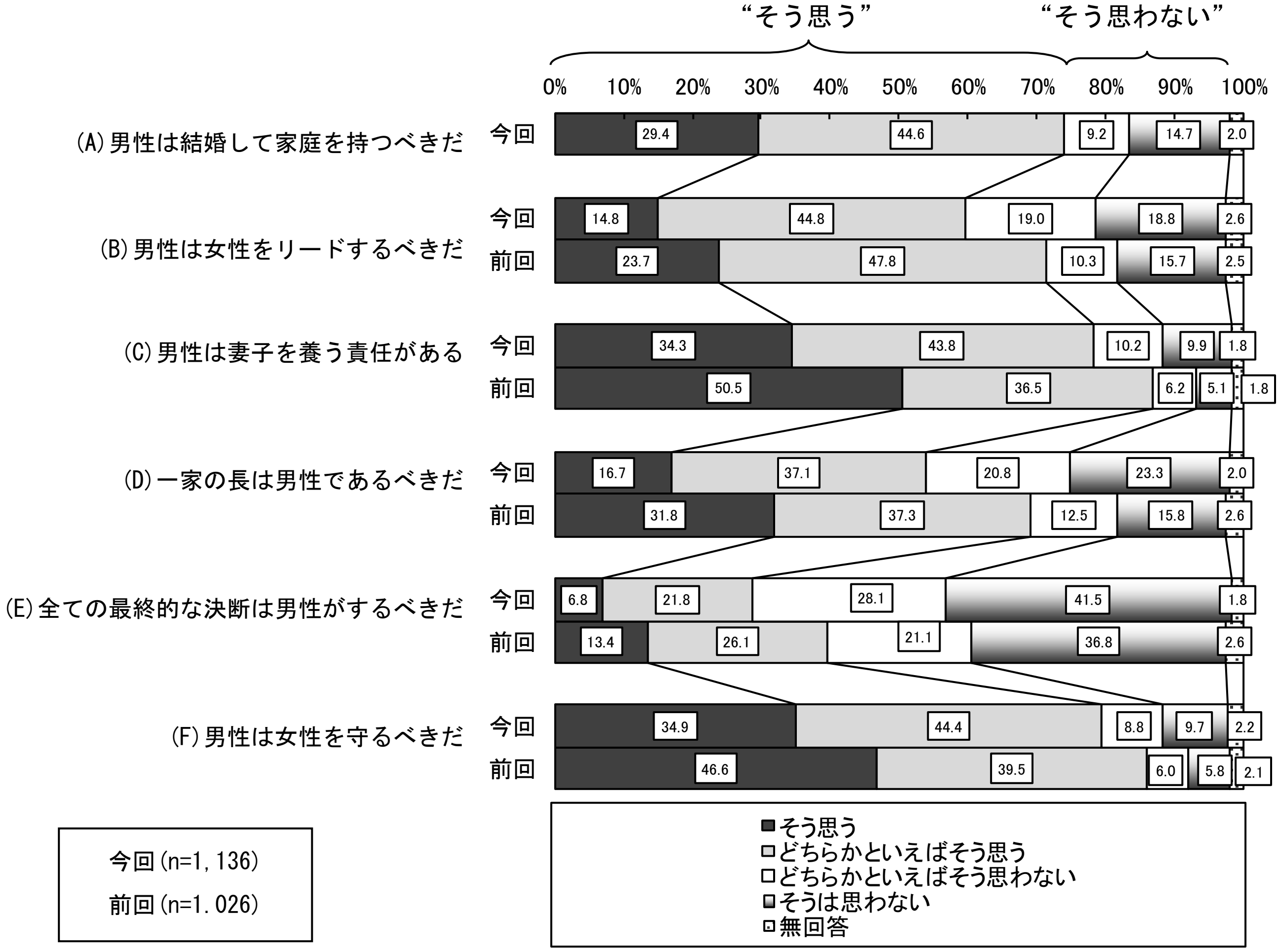
**“そう思う”が最も高かったのは、「男性は女性を守るべきだ」の 79.3%**

**全体では**、（A）～（F）の 6 つの男性像の中で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた“そう思う”が最も高かったのは、「男性は女性を守るべきだ」の 79.3%である。次いで、「男性は妻子を養う責任がある」の 78.1%、「男性は結婚して家庭を持つべきだ」の 74.0%である。

一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”が最も高いのは、「全ての最終的な決断は男性がするべきだ」の 69.5%である。

**前回調査と比較すると**、（B）～（F）の男性像全てにおいて“そう思う”は減少しており、“そう思う”の減少幅が最も大きいのは「一家の長は男性であるべきだ」（今回 53.9%、前回 69.1%）で、15.2 ポイント減少している。 【図表 4-1 参照】

図表 4-1　男性像（全体、前回比較）




※「男性は結婚して家庭を持つべきだ」は今回調査において新たに選択肢を追加。

**性別にみると**、「男性は結婚して家庭を持つべきだ」は、男性で「そう思う」と回答したのが40.1%であるのに対し、女性で「そう思う」と回答したのは20.8%であり、男性の方が19.3ポイント高い。

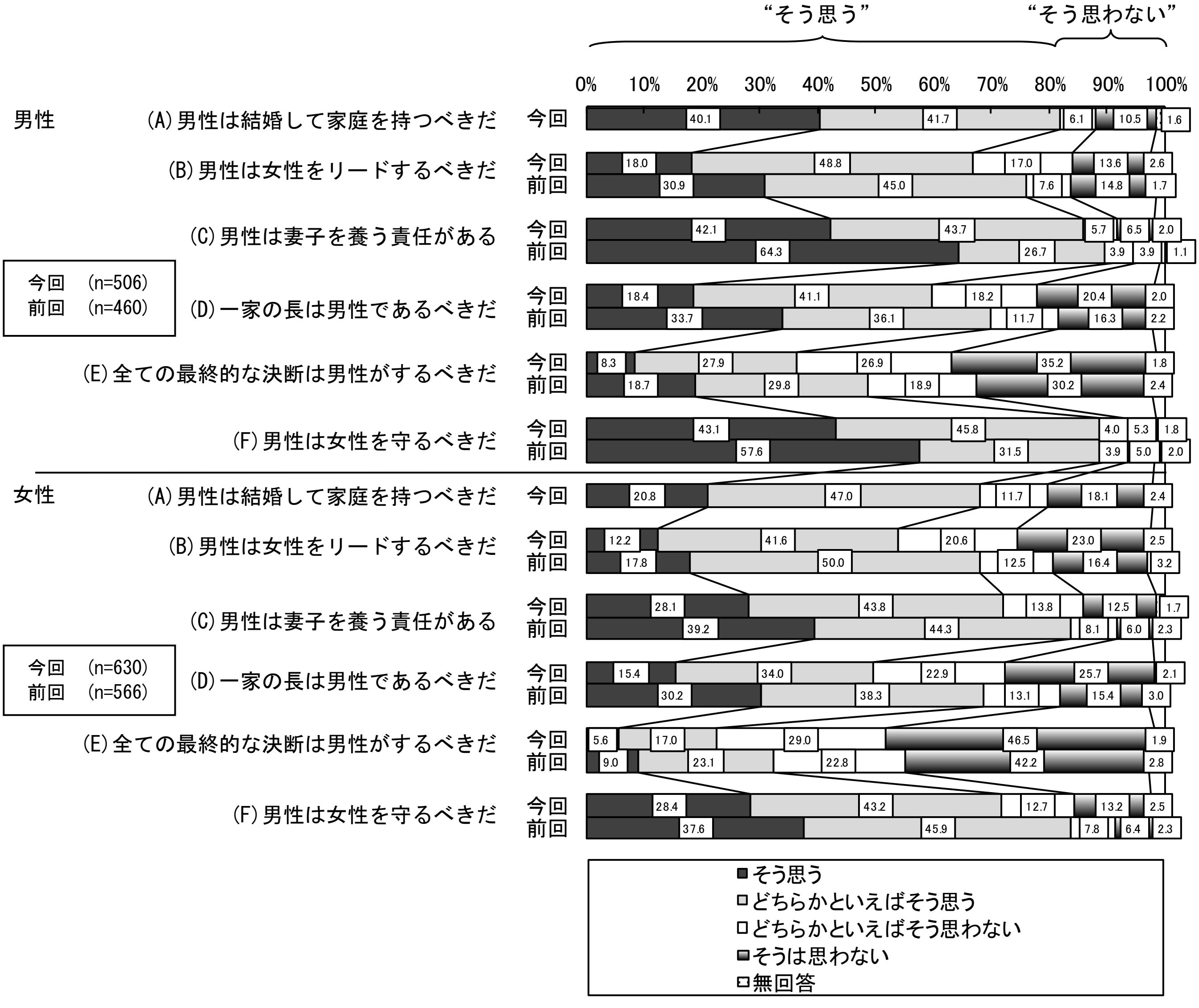
「男性は女性を守るべきだ」は、男性で「そう思う」と回答したのが43.1%であるのに対し、女性で「そう思う」と回答したのは28.4%であり、男性の方が14.7ポイント高い。

「男性は妻子を養う責任がある」は、男性で「そう思う」と回答したのが42.1%であるのに対し、女性で「そう思う」と回答したのは28.1%であり、男性の方が14.0ポイント高い。

一方、「全ての最終的な決断は男性がするべきだ」は、男性で「そうは思わない」と回答したのが35.2%であるのに対し、女性で「そうは思わない」と回答したのは46.5%であり、女性の方が11.3ポイント高い。

**前回調査と比較すると**、女性では（B）～（F）全ての項目において“そう思う”の割合が減少しており、最も減少幅が大きいのは「一家の長は男性であるべきだ」で19.2ポイント減である。一方、男性では（F）以外の項目で“そう思う”の割合が減少しており、最も減少幅が大きいのは「全ての最終的な決断は男性がするべきだ」で12.3ポイント減である。　**【図表4-2 参照】**

図表4-2　男性像（性別・前回比較）



## ３．男性の家庭や地域での生活について

### (1) 家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方について

問５　家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方についてお聞きします。

（１）＜**すべての方**にお聞きします。＞

次の（Ａ）～（Ｅ）の事項について、あなたの希望に最も近いものは何ですか。あてはまる番号を**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

**「掃除、洗濯、炊事などの家事」で38.1%が“女性がするべき”、「仕事」で44.8%が“男性がするべき”と回答**

**全体では**、すべての項目で「男女が同程度するべき」との回答が最も高い。特に、「家族の介護」が84.0%、「子どもの世話、しつけや教育」が81.7%、「地域活動」が79.9%である。

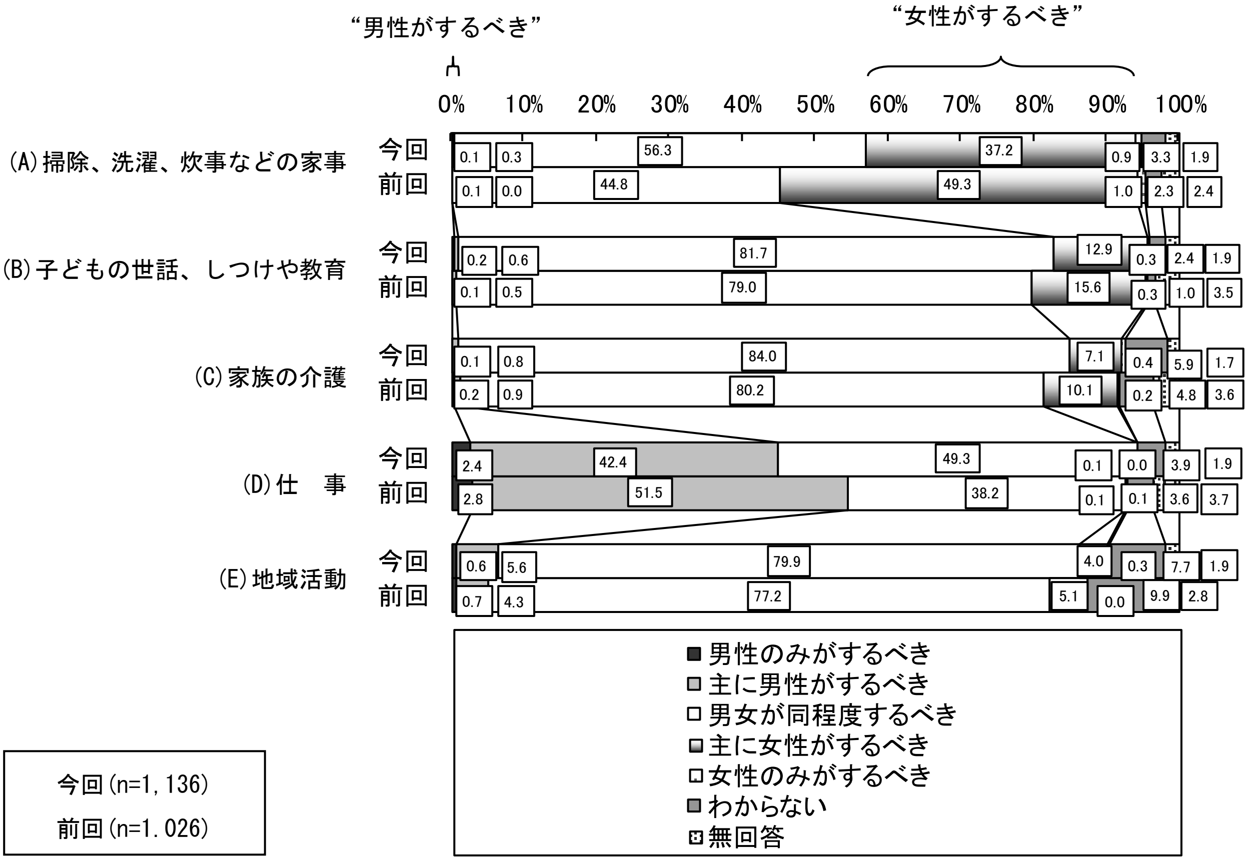
「掃除、洗濯、炊事などの家事」は、「主に女性がするべき」と「女性のみがするべき」の両者を合わせた“女性がするべき”が38.1%である。

「仕事」は「男性のみがするべき」と「主に男性がするべき」の両者を合わせた“男性がするべき”が44.8%である。

**前回調査と比較すると**、「掃除、洗濯、炊事などの家事」は“女性がするべき”が12.2ポイント減少し、「男女が同程度するべき」が11.5ポイント増加している。「仕事」は“男性がするべき”が9.5ポイント減少し、「男女が同程度するべき」が11.1ポイント増加している。

【図表5-1 参照】

図表5-1　家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方＜希望＞（全体、前回比較）



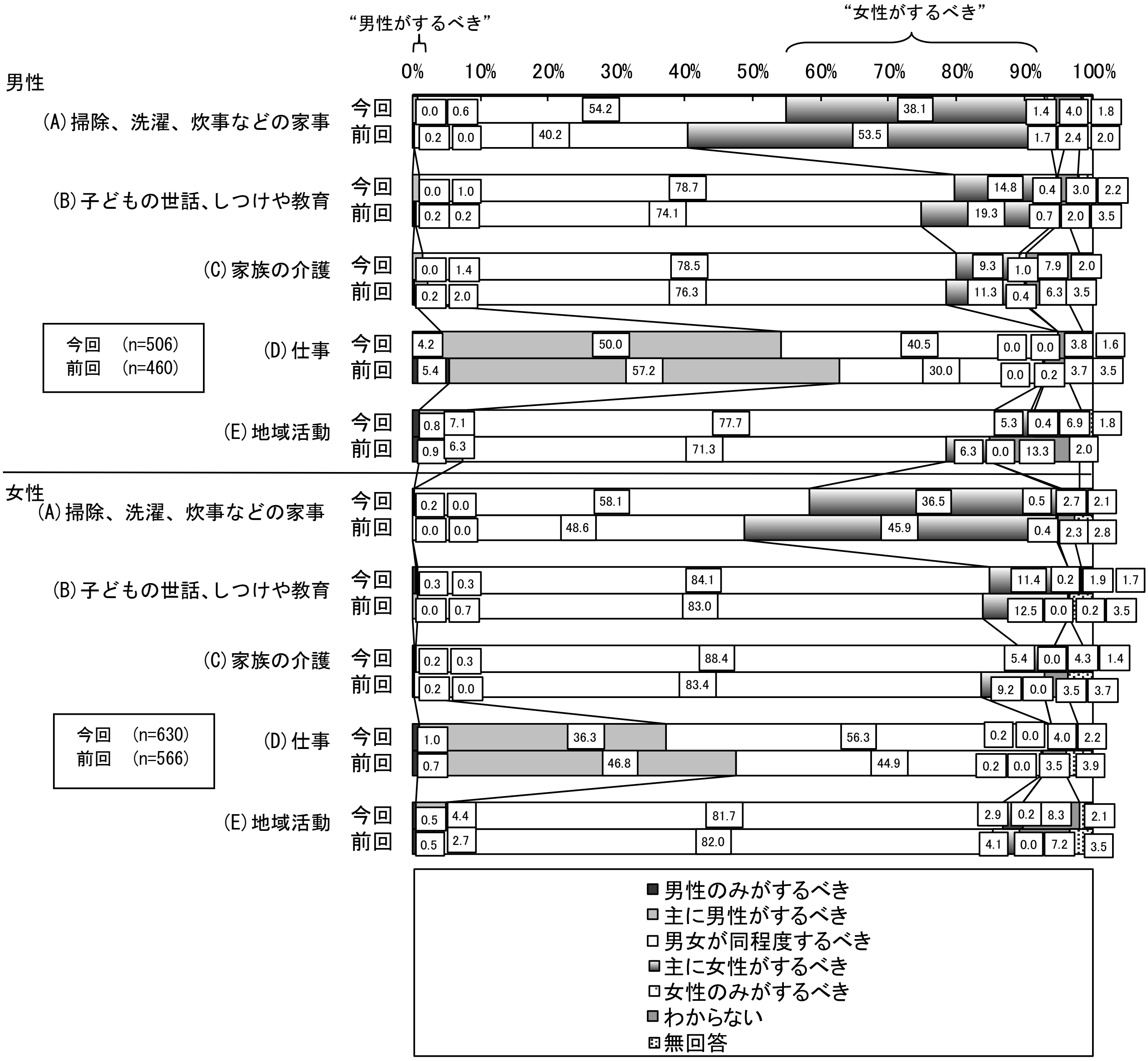
**性別にみると**、「掃除、洗濯、炊事などの家事」は、「男女が同程度するべき」と回答している男性が前回調査から 13.9 ポイント増加し 54.2%である。女性は前回調査から 9.5 ポイント増加して 58.1%である。

「仕事」は、「男性のみがするべき」と「主に男性がするべき」の両者を合わせた“男性がするべき”と回答している男性は 54.2%、女性は 37.3%であり、男性が女性より 16.8 ポイント高い。前回調査と比べると、“男性がするべき”との回答は男性で 8.5 ポイント、女性で 10.2 ポイント減少している。

「子どもの世話、しつけや教育」は、「男女が同程度するべき」と回答した男性が 78.7%、女性が 84.1%、「家族の介護」は、男性が 78.5%、女性が 88.4%、「地域活動」は、男性が 77.7%、女性が 81.7%である。全ての項目で男性より女性の方が「男女が同程度するべき」の回答が上回っている。

【図表 5-2 参照】

図表 5-2　家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方＜希望＞（性別、前回比較）



（２）＜**既婚（事実婚を含む）の方**にお聞きします。＞

次の（Ａ）～（Ｅ）の事項について、配偶者・パートナーとの現状に最も近いものは何ですか。あてはまる番号を**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

**「掃除、洗濯、炊事などの家事」で 74.0%が“女性がしている”、「仕事」で 47.0%が“男性がしている”との回答**

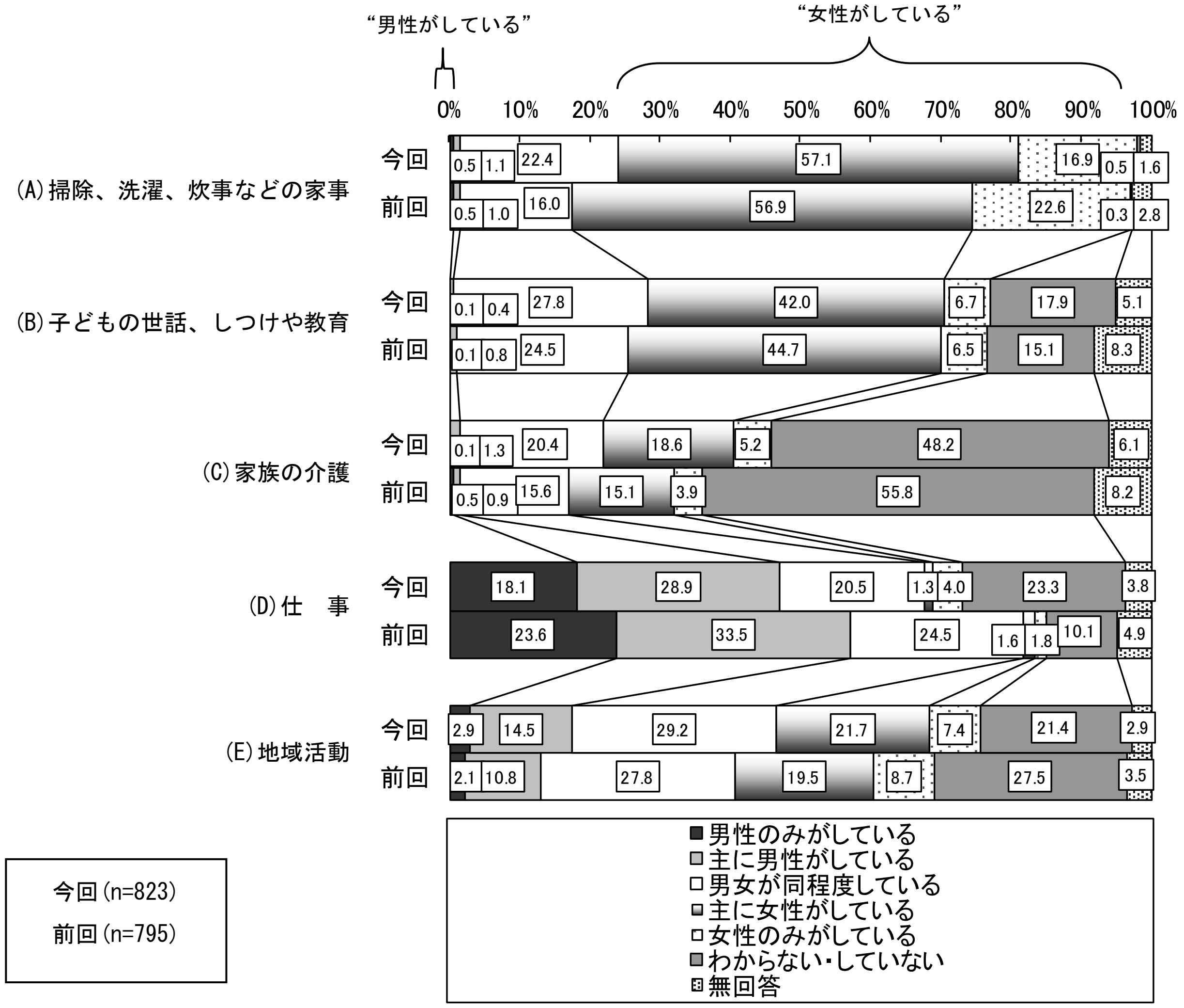
**全体では**、「掃除、洗濯、炊事などの家事」は、「女性のみがしている」と「主に女性がしている」の両者を合わせた“女性がしている”が 74.0%である。

「子どもの世話、しつけや教育」は、“女性がしている”が 48.7%である。

「仕事」は、「男性のみがしている」と「主に男性がしている」の両者を合わせた“男性がしている”が 47.0%である。

**前回調査と比較すると**、「仕事」は、“男性がしている”が 10.1 ポイント減少し、「わからない・していない」が 13.3 ポイント増加している。「仕事」以外の項目では「男女が同程度している」の割合が増加している。 **【図表 5-3 参照】**

図表 5-3　家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方＜現状＞（全体、前回比較）



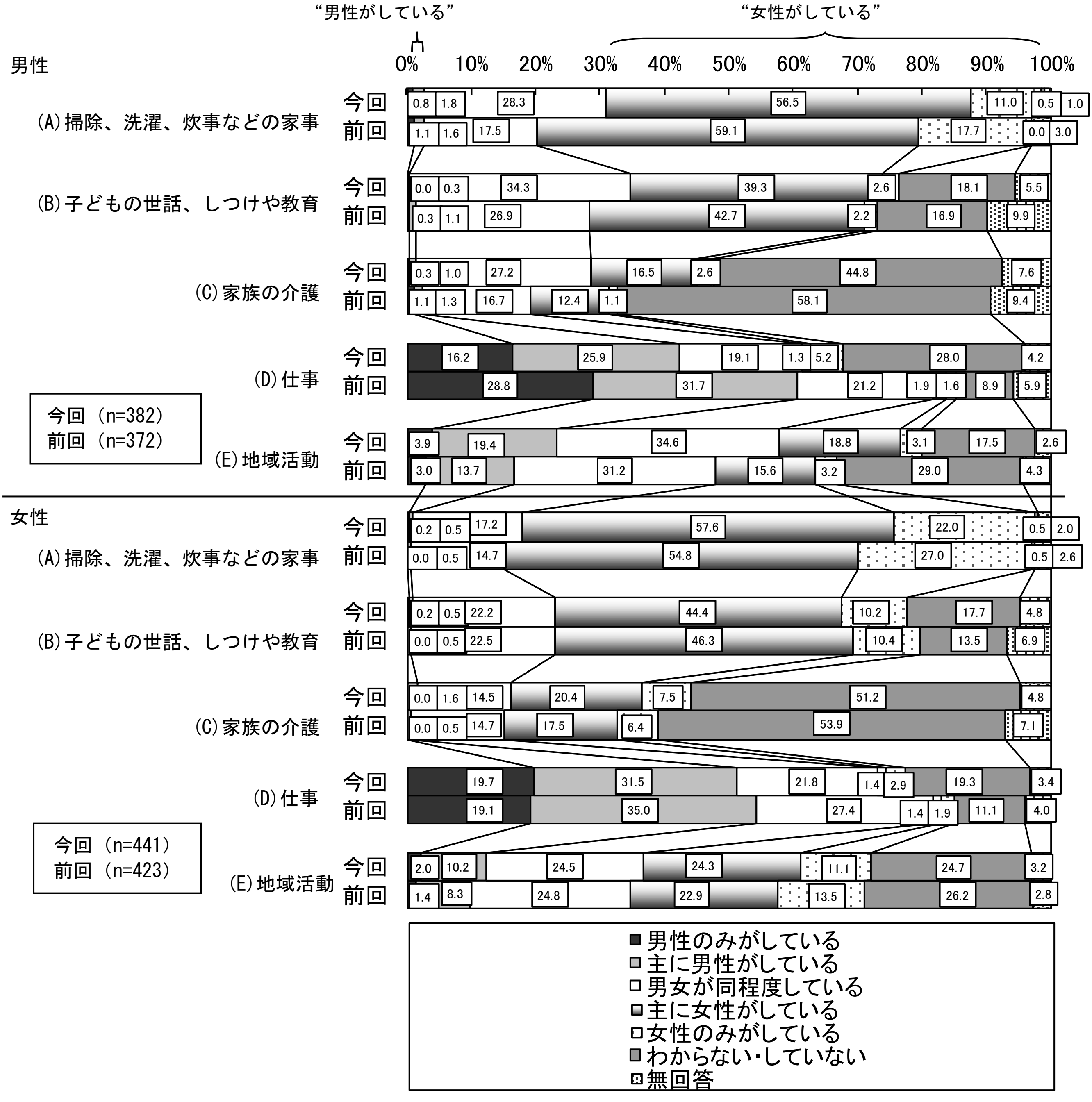
**性別にみると**、「掃除、洗濯、炊事などの家事」は、“女性がしている”と回答した男性が 67.5%、女性が 79.6%で、女性の方が 12.1 ポイント高い。「男女が同程度している」と回答した男性は、前回調査から 10.8 ポイント増えて 28.3%である。

「子どもの世話、しつけや教育」は、“女性がしている”と回答した男性が 41.9%、女性が 54.6%で、女性の方が 12.8 ポイント高い。

「家族の介護」は、「男女が同程度している」と回答した男性が 27.2%、女性が 14.5%で、男性の方が女性より 12.7 ポイント高い。女性では“女性がしている”が 27.9%であり、「男女が同程度している」(14.5%) よりも高い。

「仕事」は、“男性がしている”と回答した男性が 42.1%、女性が 51.2%で、女性の方が 9.1 ポイント高い。 **【図表 5-4 参照】**

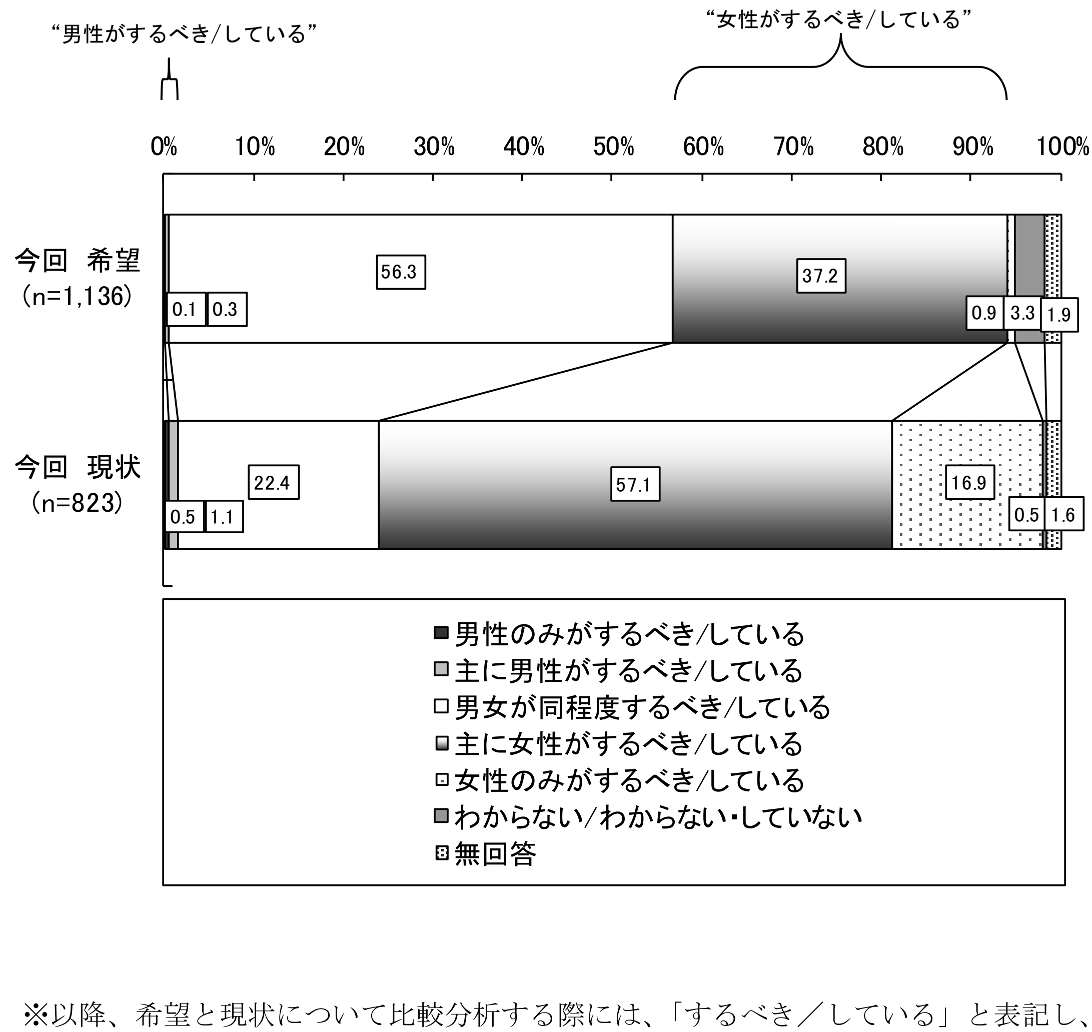
図表 5-4　家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方＜現状＞（性別、前回比較）



「**掃除、洗濯、炊事などの家事**」は、希望と現状を比較すると、「男女が同程度するべき／している」との回答は、希望が 56.3%、現状が 22.4%で、現状の方が 34.0 ポイント低い。

また、「主に女性がするべき／している」と「女性のみがするべき／している」の両者を合わせた“女性がするべき／している”との回答は、希望が 38.1%、現状が 74.0%で、現状の方が 35.9 ポイント高い。 **【図表 5-5 参照】**

**図表 5-5　掃除、洗濯、炊事などの家事＜希望と現状＞（全体）**




※以降、希望と現状について比較分析する際には、「するべき／している」と表記し、「するべき」は希望、「している」は現状を表す。

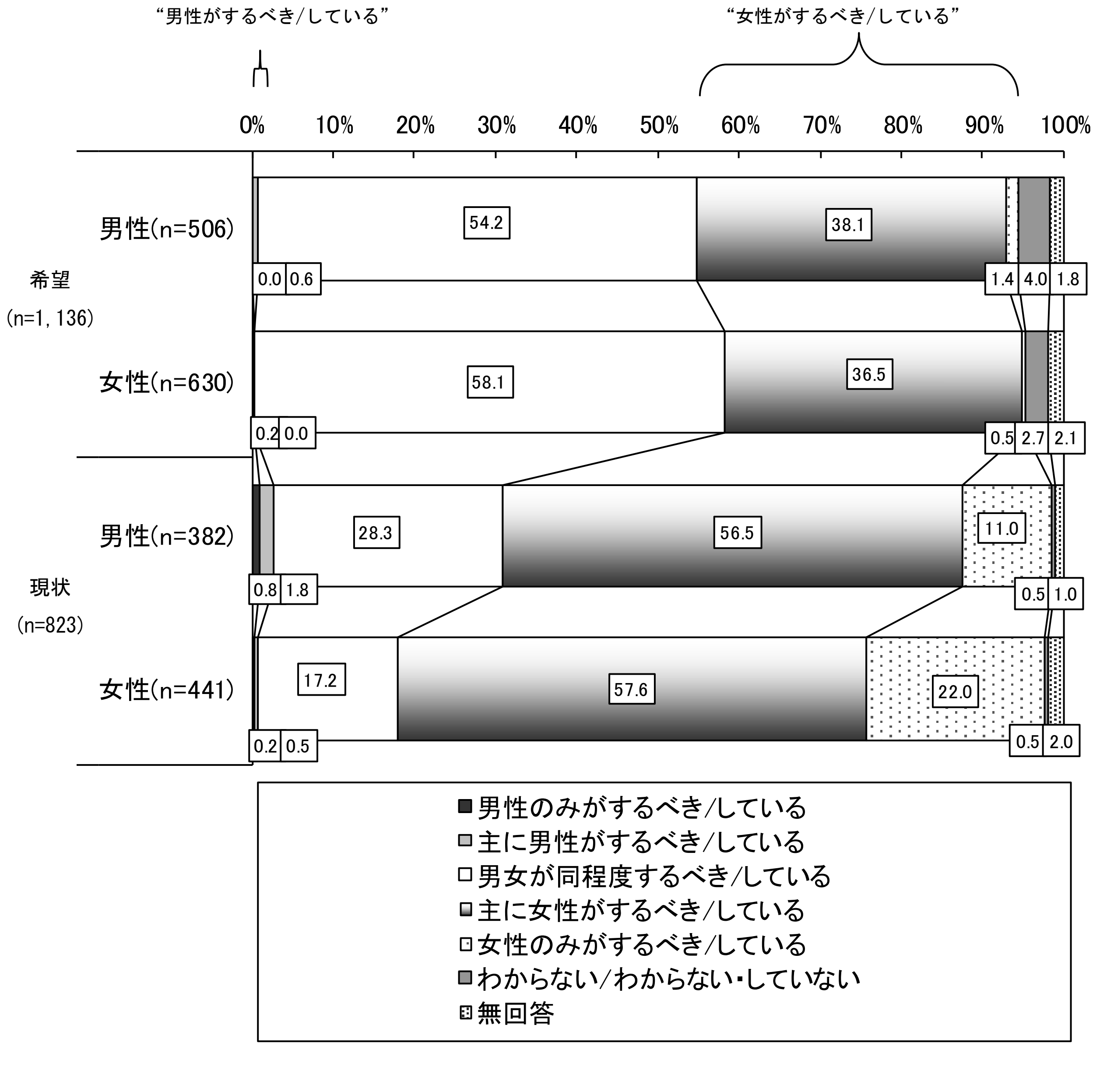
**性別にみると**、「男女が同程度するべき／している」との回答は、男性の希望が 54.2%、現状が 28.3%で、現状の方が 25.9 ポイント低い。女性の希望は 58.1%、現状が 17.2%で、現状の方が 40.9 ポイント低い。

「主に女性がするべき／している」との回答は、男性の希望が 38.1%、現状が 56.5%で、現状の方が 18.4 ポイント高い。女性の希望は 36.5%、現状が 57.6%で、現状の方が 21.1 ポイント高い。

「女性のみがするべき／している」との回答は、男性の希望が 1.4%、現状が 11.0%で、現状の方が 9.6 ポイント高い。女性の希望は 0.5%、現状が 22.0%で、現状の方が 21.5 ポイント高い。

【図表 5-6 参照】

図表 5-6　掃除、洗濯、炊事などの家事＜希望と現状＞（性別）



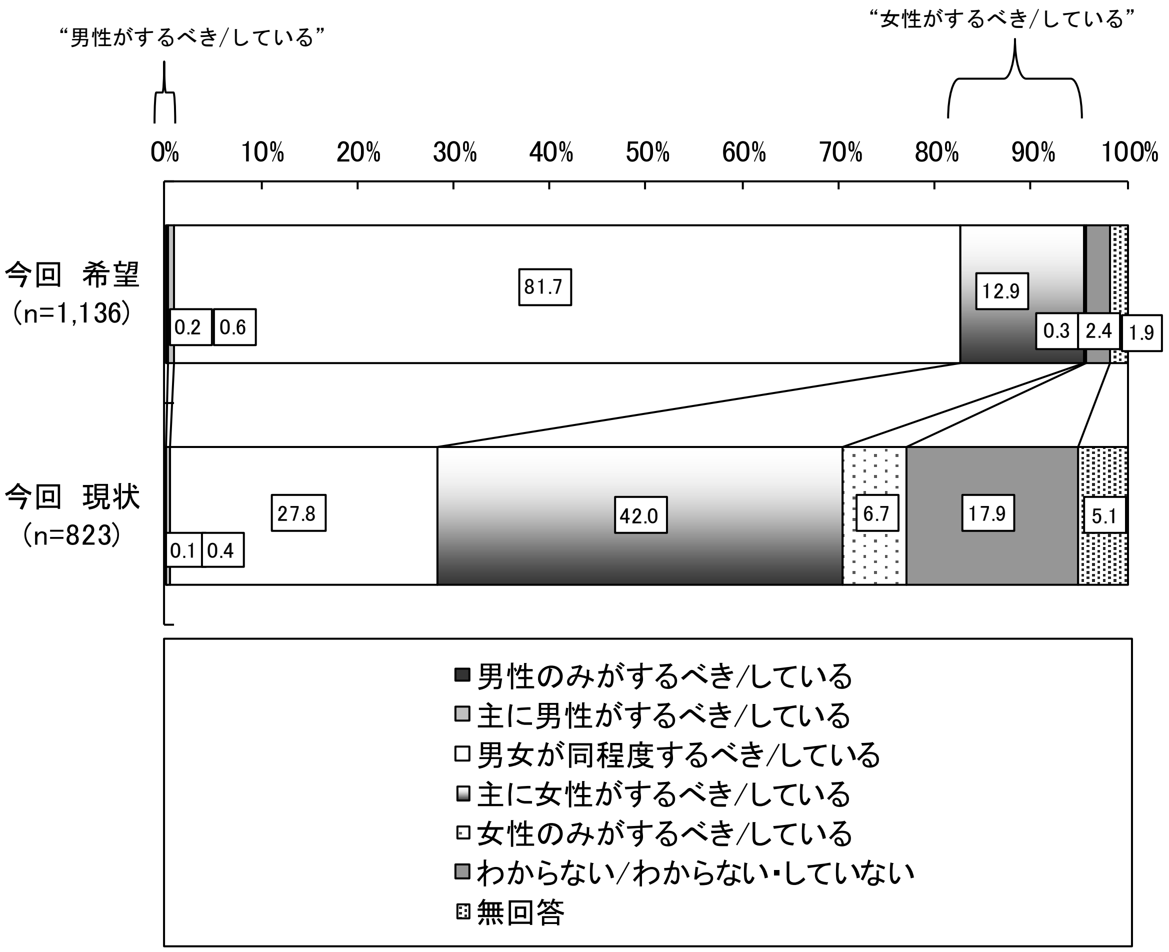
「**子どもの世話、しつけや教育**」は、希望と現状を比較すると、「男女が同程度するべき／している」との回答は、希望が 81.7%、現状が 27.8%で、現状の方が 53.9 ポイント低い。

「主に女性がするべき／している」と「女性のみがするべき／している」の両者を合わせた“女性がするべき／している”との回答は、希望が 13.2%、現状が 48.7%であり、現状の方が 35.5 ポイント高い。

現状では「わからない・していない」と回答したのが 17.9%である。

【図表 5-7 参照】

図表 5-7　子どもの世話、しつけや教育＜希望と現状＞（全体）



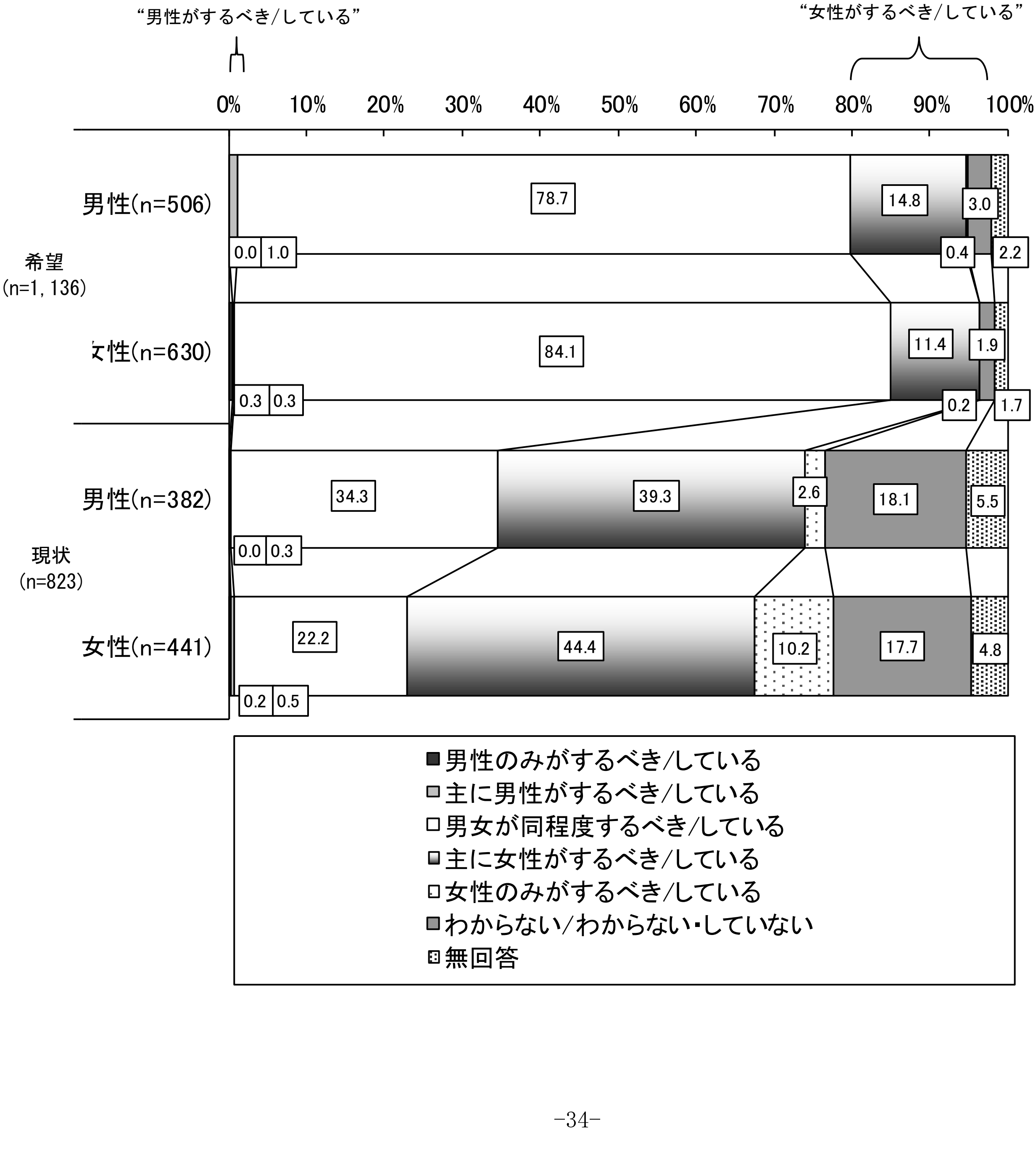
**性別にみると**、「男女が同程度するべき／している」との回答は、男性の希望が 78.7%、現状が 34.3%で、現状の方が 44.4 ポイント低い。女性の希望は 84.1%、現状が 22.2%で、現状の方が 61.9 ポイント低い。

「主に女性がするべき／している」との回答は、男性の希望が 14.8%、現状が 39.3%で、現状の方が 24.4 ポイント高い。女性の希望は 11.4%、現状が 44.4%で、現状の方が 33.0 ポイント高い。

「女性のみがするべき／している」との回答は、男性の希望と現状に大きな差は見られないが、女性の希望は 0.2%、現状が 10.2%で、現状の方が 10.0 ポイント高い。

「わからない／わからない・していない」との回答は、男性の希望が 3.0%、現状が 18.1%である。女性の希望は 1.9%、現状が 17.7%である。 **【図表 5-8 参照】**

図表 5-8　子どもの世話、しつけや教育＜希望と現状＞（性別）

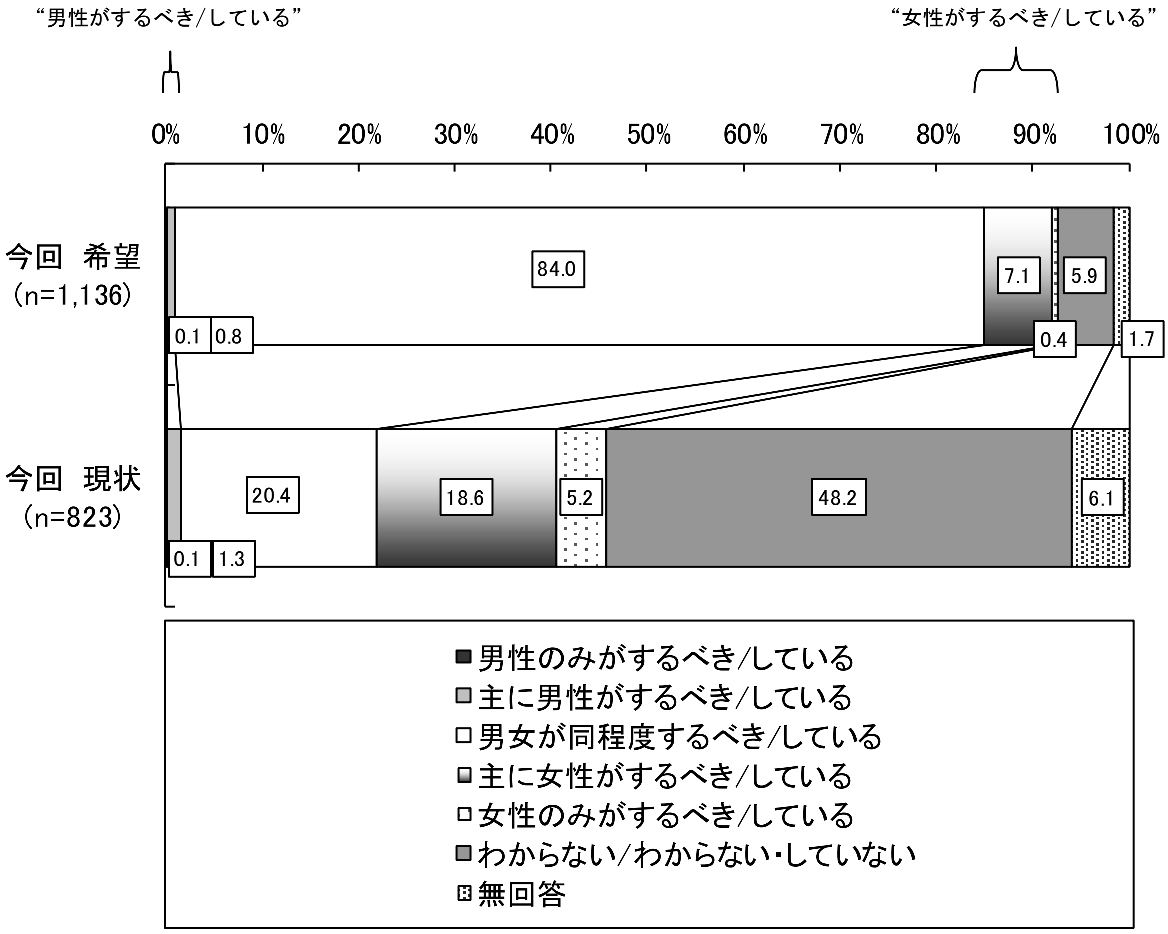


「**家族の介護**」は、希望と現状を比較すると、「男女が同程度するべき」との回答は、希望が84.0%、現状が20.4%であり、現状の方が63.6ポイント低い。

「主に女性がするべき／している」と「女性のみがするべき／している」の両者を合わせた“女性がするべき／している”との回答は、希望が7.6%、現状が23.8%であり、現状の方が16.2ポイント高い。

現状では「わからない・していない」と回答したのが48.2%である。　　　　【図表5-9 参照】

図表5-9　家族の介護＜希望と現状＞（全体）

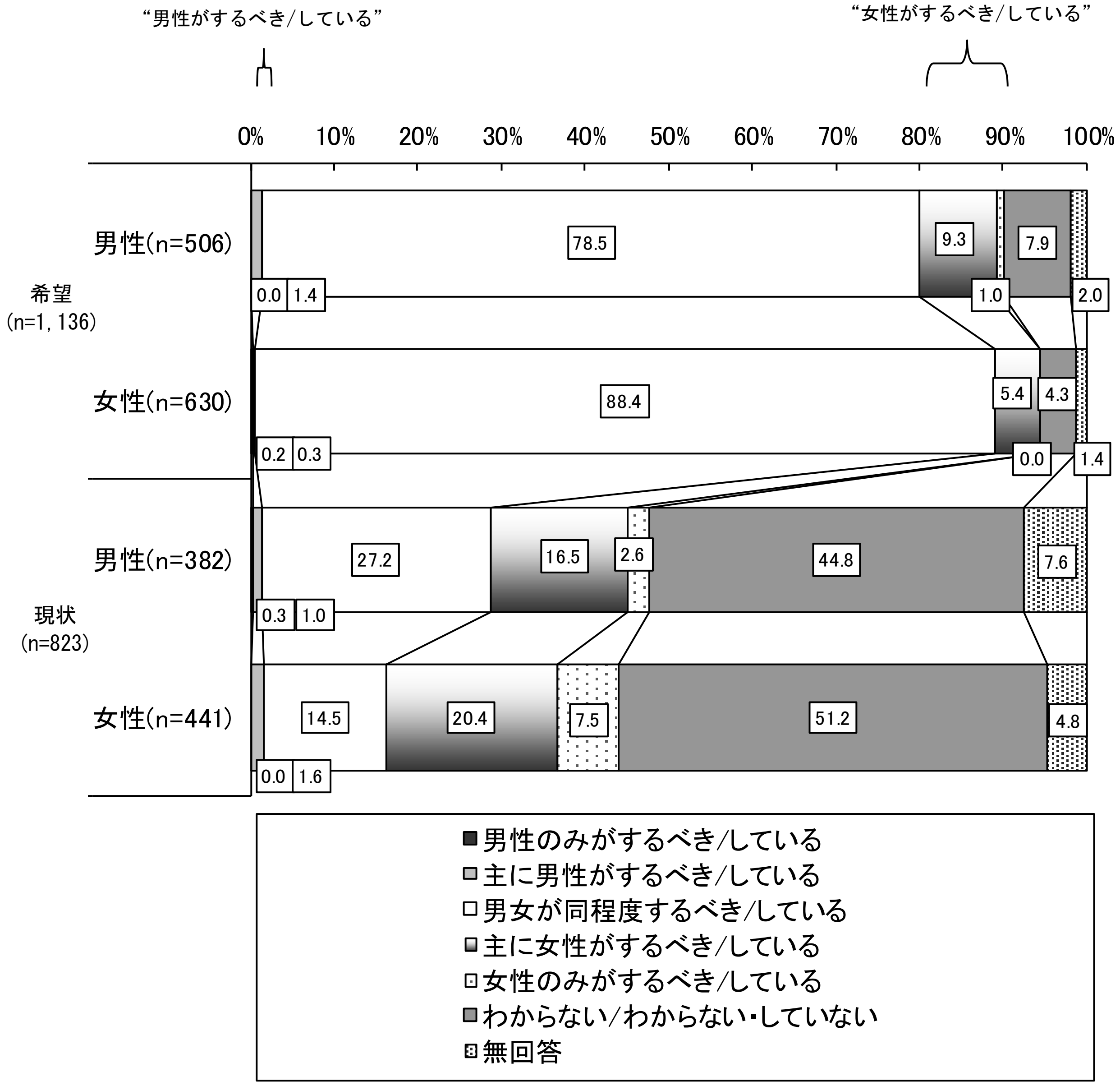


**性別にみると**、「男女が同程度するべき／している」との回答は、男性の希望が 78.5%、現状が 27.2%であり、現状の方が 51.2 ポイント低い。女性の希望は 88.4%、現状が 14.5%であり、現状の方が 73.9 ポイント低い。

「主に女性がするべき／している」との回答は、男性の希望が 9.3%、現状が 16.5%であり、現状の方が 7.2 ポイント高い。女性の希望は 5.4%、現状が 20.4%で、現状の方が 15.0 ポイント高い。

「わからない／わからない・していない」との回答は、男性の希望が 7.9%、現状が 44.8%である。女性の希望は 4.3%、現状が 51.2%である。 **【図表 5-10 参照】**

図表 5-10　家族の介護＜希望と現状＞（性別）



「**仕事**」は、希望と現状を比較すると、「男女が同程度するべき／している」との回答は希望が49.3%、現状が20.5%であり、現状の方が28.8ポイント低い。

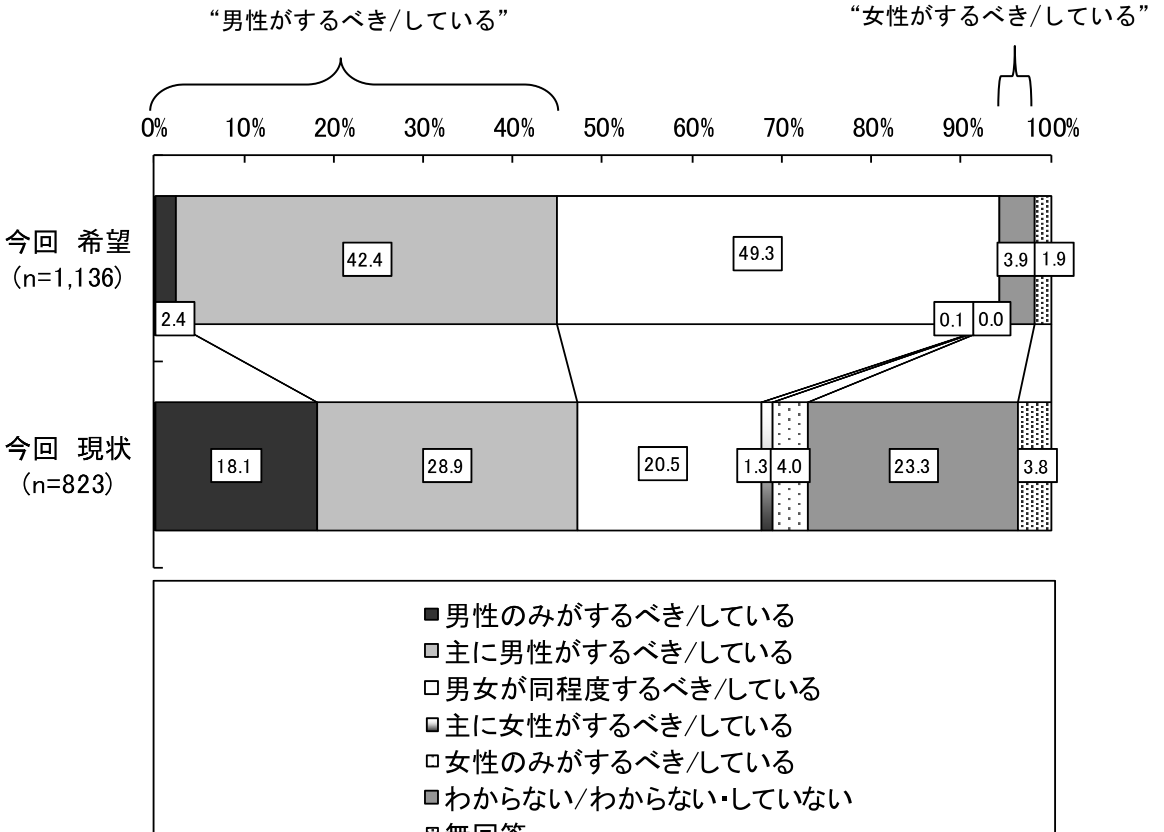
「男性のみがするべき／している」との回答は、希望が 2.4%、現状が 18.1%で、現状の方が15.7ポイント高い。

「主に男性がするべき／している」との回答は、希望が42.4%で、現状が28.9%で、現状の方が13.5ポイント低い。

「男性のみがするべき／している」と「主に男性がするべき／している」の両者を合わせた“男性がするべき/している”の割合でみると、希望が 44.8%、現状が 47.0%であり、希望と現状で大きな差は見られない。

現状では「わからない・していない」と回答したのが23.3%である。**【図表5-11 参照】**

図表5-11　仕事＜希望と現状＞（全体）



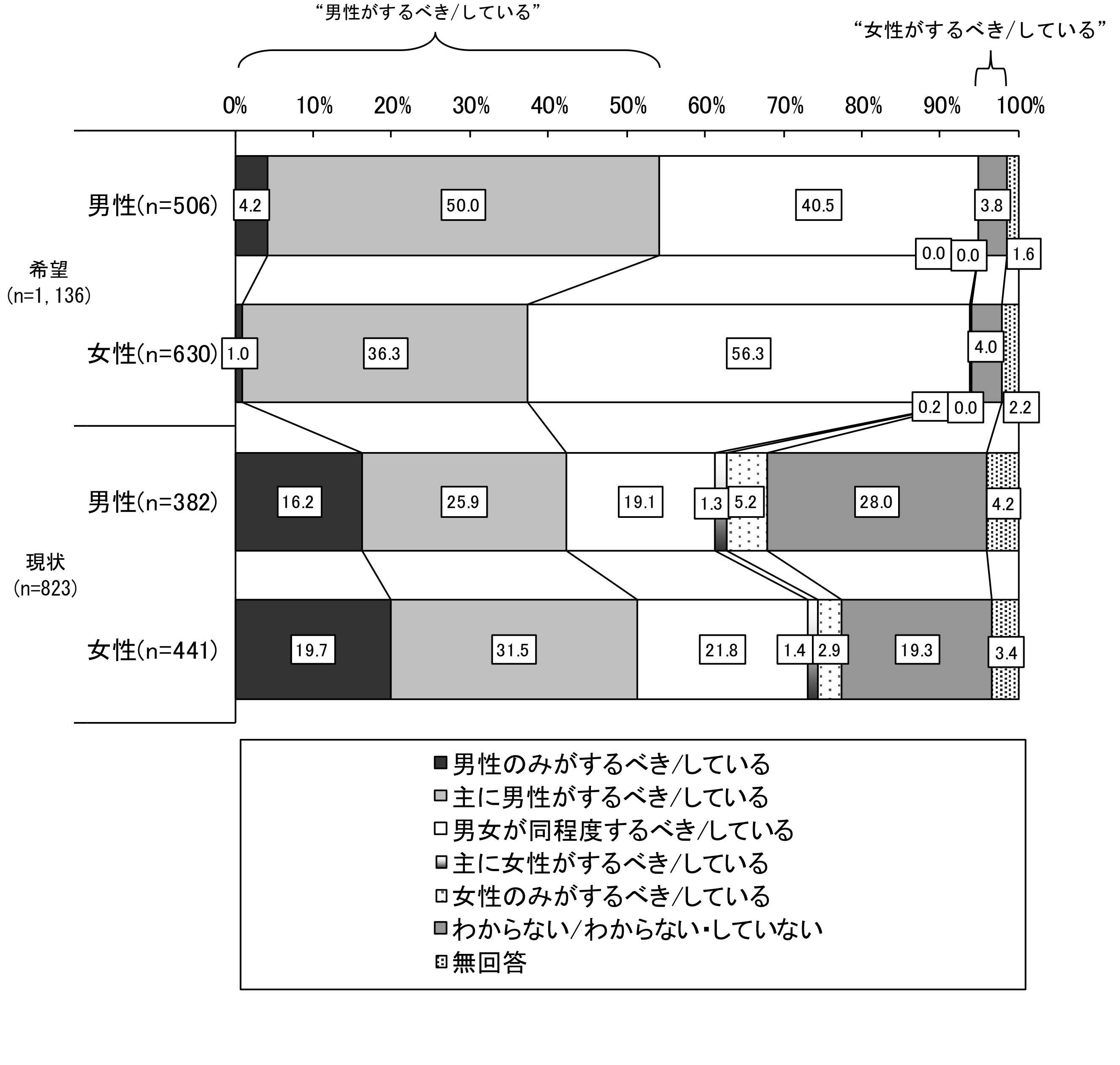
**性別にみると**、「男女が同程度するべき／している」との回答は、男性の希望が 40.5%、現状が 19.1%で、現状の方が 21.4 ポイント低い。女性においては希望が 56.3%、現状が 21.8%で、現状の方が 34.6 ポイント低い。

「男性のみがするべき／している」との回答は、男性の希望が 4.2%、現状が 16.2%で、現状の方が 12.1 ポイント高い。女性においては希望が 1.0%、現状が 19.7%で、現状の方が 18.8 ポイント高い。

「主に男性がするべき／している」との回答は、男性の希望が 50.0%、現状が 25.9%で、現状の方が 24.1 ポイント低い。女性においては、希望が 36.3%、現状が 31.5%で、現状の方が 4.8 ポイント低い。

「わからない／わからない・していない」との回答は、男性の希望が 3.8%、現状が 28.0%である。女性の希望が 4.0%、現状が 19.3%である。 **【図表 5-12 参照】**

**図表 5-12 仕事＜希望と現状＞（性別）**



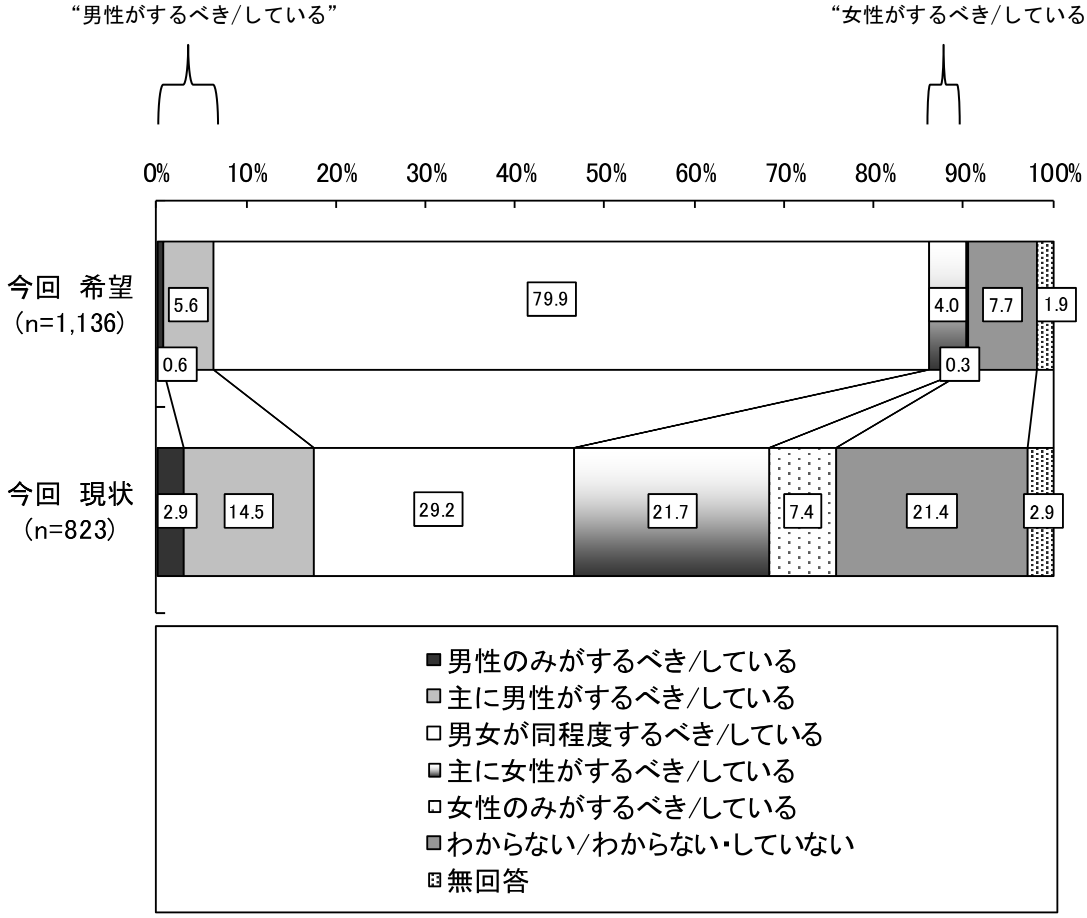
「**地域活動**」は、希望と現状を比較すると、「男女が同程度するべき／している」との回答は、希望が 79.9%、現状が 29.2%で、現状の方が 50.8 ポイント低い。

「男性のみがするべき／している」と「主に男性がするべき／している」の両者を合わせた“男性がするべき／している”との回答は、希望が 6.3%、現状が 17.4%であり、現状の方が 11.1 ポイント高い。

「主に女性がするべき／している」と「女性にのみがするべき／している」の両者を合わせた“女性がするべき／している”との回答は、希望が 4.2%、現状が 29.2%であり、現状の方が 24.9 ポイント高い。

現状では「わからない・していない」と回答したのが 21.4%である。**【図表 5-13 参照】**

**図表 5-13　地域活動＜希望と現状＞（全体）**



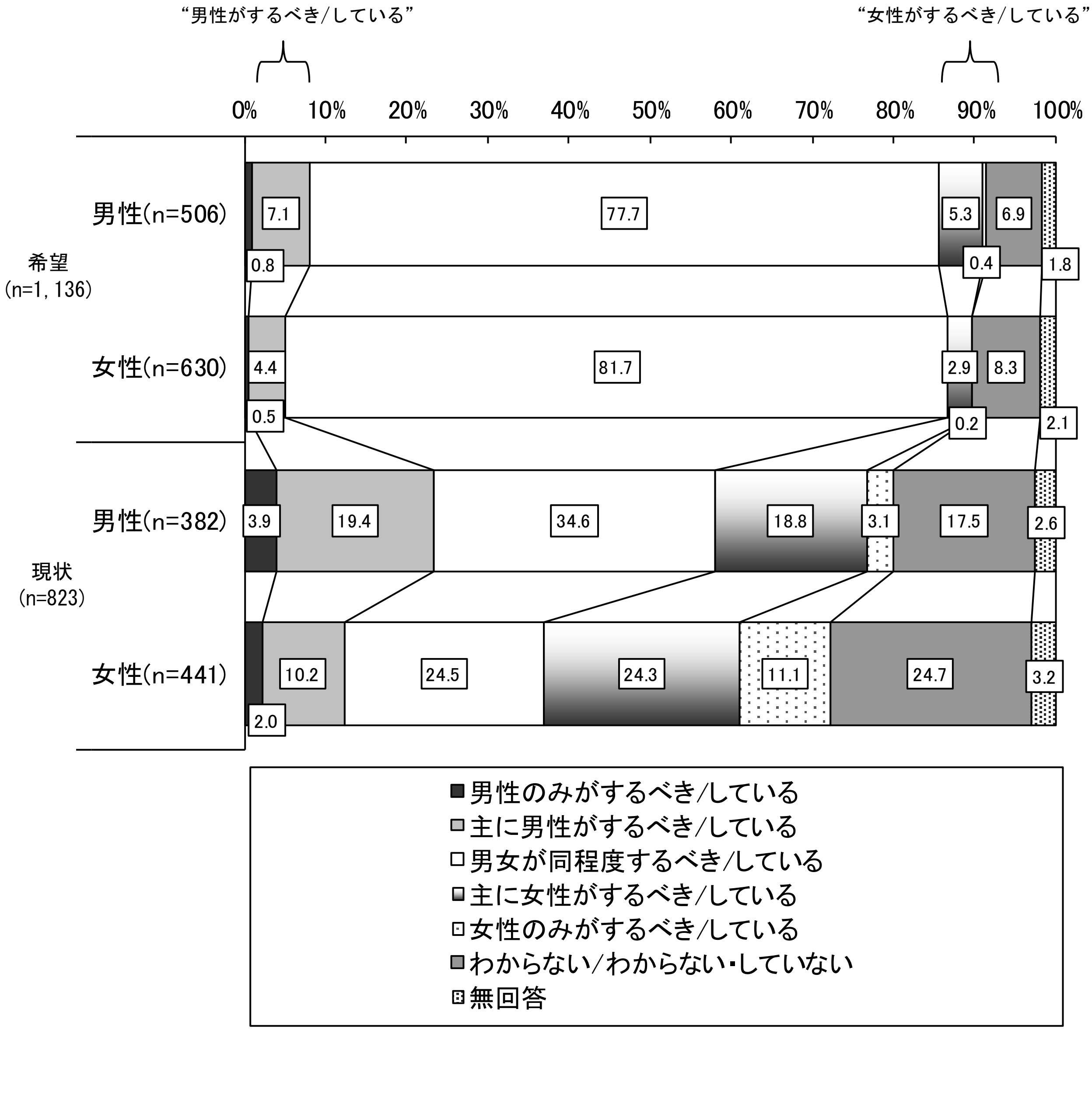
**性別にみると**、「男女が同程度するべき／している」との回答は、男性の希望が 77.7%、現状が 34.6%であり、現状の方が 43.1 ポイント低い。女性の希望は 81.7%、現状が 24.5%であり、現状の方が 57.3 ポイント低い。

「主に男性がするべき／している」との回答は、男性の希望が 7.1%、現状が 19.4%で、現状の方が 12.3 ポイント高い。女性の希望は 4.4%、現状が 10.2%で、現状の方が 5.8 ポイント高い。

「主に女性がするべき／している」との回答は、男性の希望が 5.3%、現状が 18.8%で、現状の方が 13.5 ポイント高い。女性においては、希望が 2.9%、現状が 24.3%で、現状の方が 21.4 ポイント高い。

「わからない／わからない・していない」との回答は、男性の希望が 6.9%、現状が 17.5%である。女性の希望は 8.3%、現状が 24.7%である。 **【図表 5-14 参照】**

図表 5-14　地域活動＜希望と現状＞（性別）



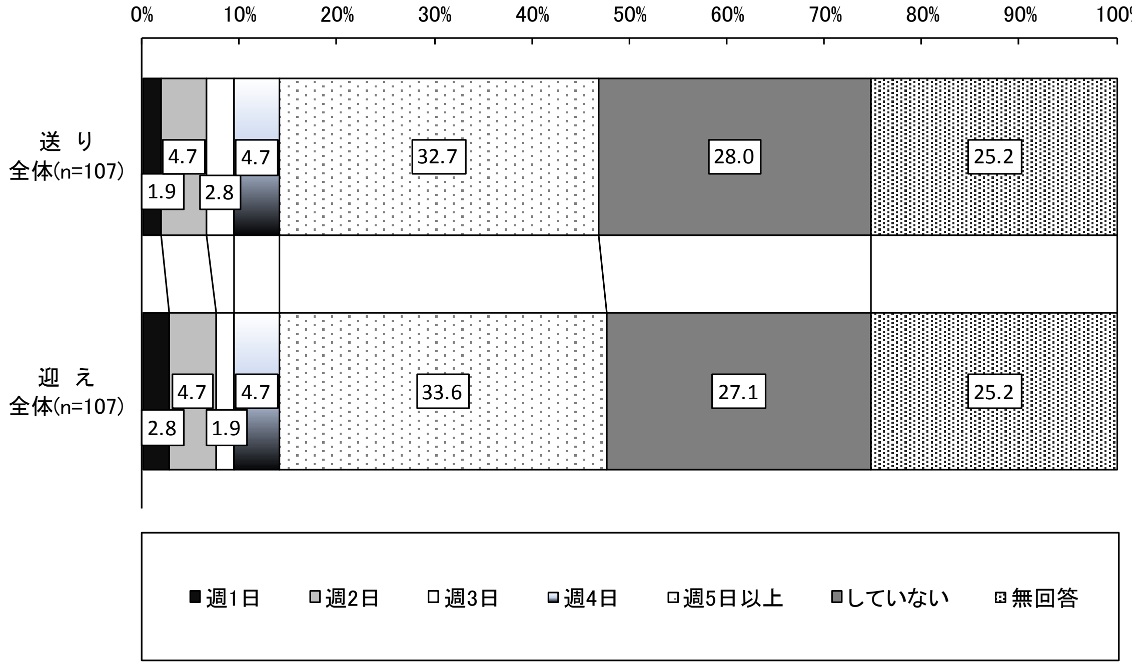
（３）＜**既婚（事実婚を含む）の方のうち、お子さん（就学前児）が保育所・幼稚園等に入所・入園している方**にお聞きします。＞

あなたは普段、週何日くらいお子さんを保育所・幼稚園等へ送迎していますか。あてはまる番号を**１つずつ**選んで〇をつけて下さい。

全体では､｢週 5 日以上｣送迎しているとの回答が最も高く､送りが 32.7%､迎えが 33.6%である。次いで「していない」との回答は、送りが 28.0%、迎えが 27.1%である

【図表 5-15 参照】

図表 5-15　子どもの送迎（全体）



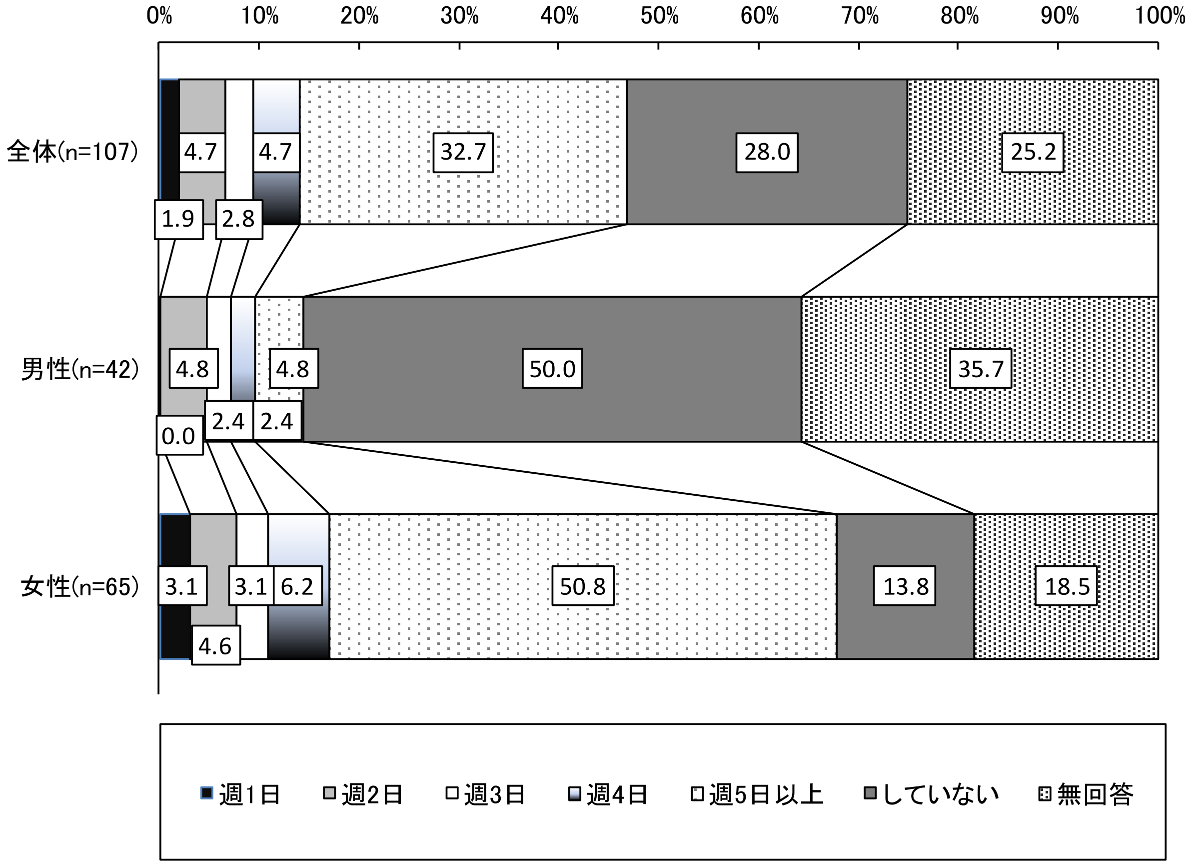
送　り

**全体では**、「週５日以上」と回答した割合が 32.7%で最も高く、次いで「していない」が 28.0%である。

**性別にみると**、「週５日以上」と回答した女性は 50.8%、「していない」と回答した女性は 13.8%である。

男性は該当者数が 50 人未満のため参考値にとどめるが、「週５日以上」と回答した男性は 4.8%、「していない」と回答した男性は 50.0%である。　**【図表 5-16 参照】**

図表 5-16　子どもの送迎＜送り＞（全体、性別）



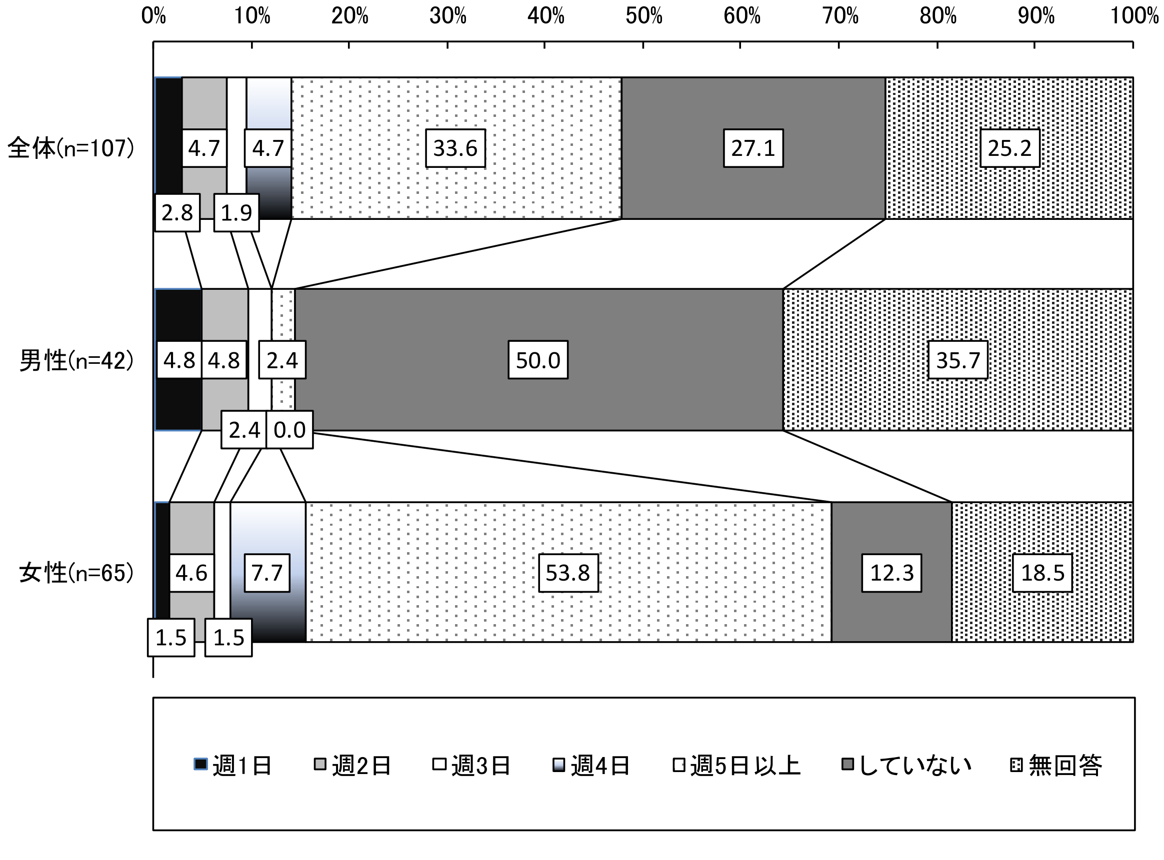
迎　え

**全体では**、「週 5 日以上」と回答した割合が 33.6%で最も高く、次いで「していない」が 27.1%である。

**性別にみると**、「週 5 日以上」と回答した女性は 53.8%、「していない」と回答した女性は 12.3%である。

男性は該当者数が 50 人未満のため参考値にとどめるが、「週 5 日以上」と回答した男性は 2.4%、「していない」と回答した男性は 50.0%である。　**【図表 5-17 参照】**

図表 5-17　子どもの送迎＜迎え＞（全体、性別）



## ⑵ 男性の生きづらさについて

問６＜**すべての方**にお聞きします。＞

（１）あなたは、普段の仕事や生活の中で「男性は生きづらい」と思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

※男性は自分のことを、女性は「男性は生きづらい」と思うかをお答え下さい。

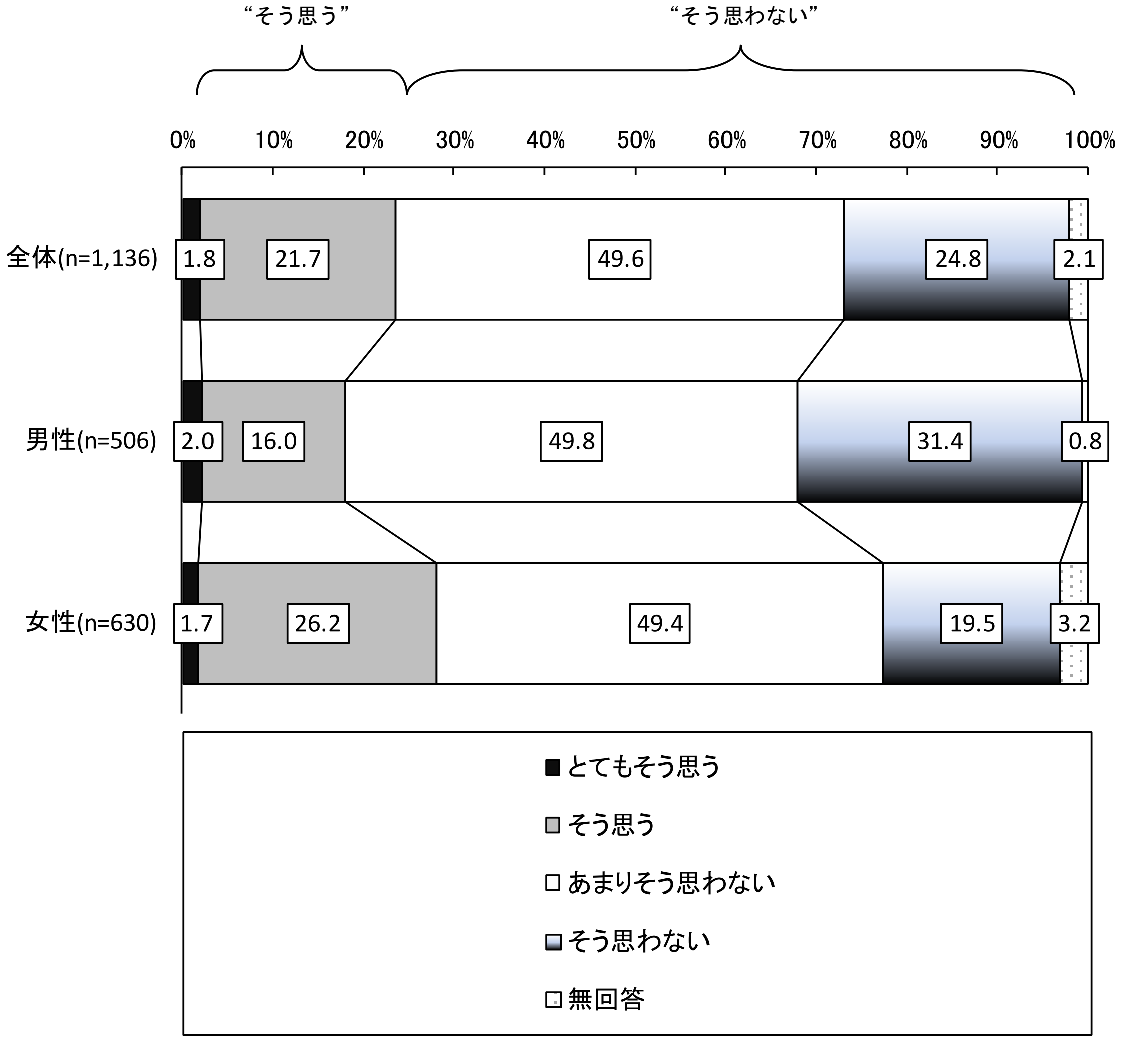
### “そう思わない”が、全体の 74.4%

**全体では**、「とてもそう思う」と「そう思う」の両者を合わせた“そう思う”は 23.5%である。一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の両者を合わせた“そう思わない”は 74.4%である。“そう思わない”の方が“そう思う”より 50.9 ポイント高い。

**性別にみると**、“そう思う”は男性が 18.0%、女性が 27.9%で、女性の方が 10.0 ポイント高い。一方、“そう思わない”は男性が 81.2%、女性が 68.9%で、男性の方が 12.3 ポイント高い。

【図表 6-1 参照】

図表 6-1　男性の生きづらさについて（全体、性別）



（２）＜**問６（１）で１または２を選んだ方**にお聞きします。＞

その要因は何ですか。あてはまる番号を**すべて**選んで○をつけて下さい。

※男性は自分のことを、女性はその要因と思うことをお答え下さい。

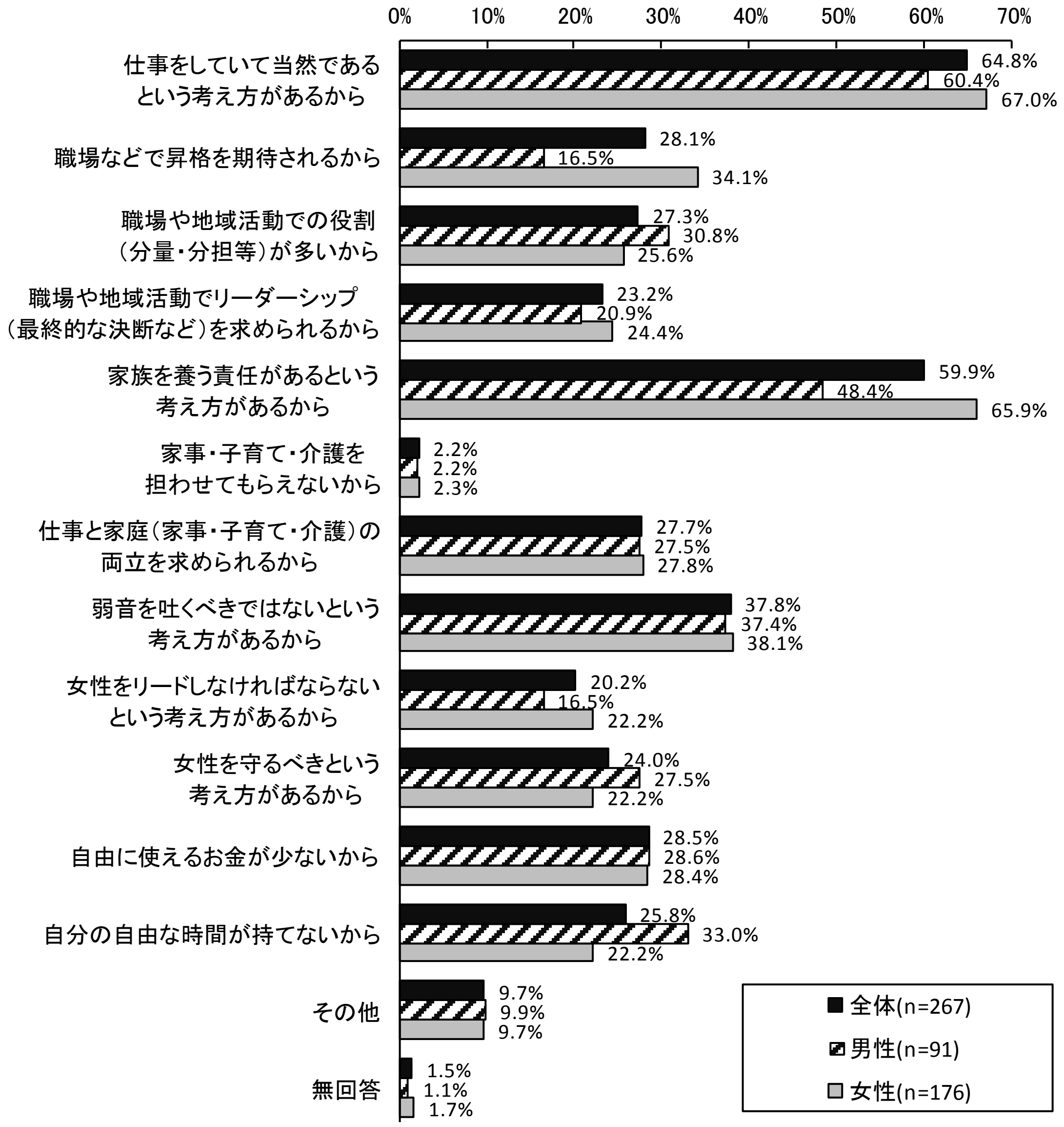
## 「仕事をしていて当然であるという考え方があるから」が全体の 64.8%と最も割合が高い

**全体では**、「仕事をしていて当然であるという考え方があるから」（64.8%）が最も割合が高く、次いで、「家族を養う責任があるという考え方があるから」（59.9%）、「弱音を吐くべきではないという考え方があるから」（37.8%）である。

**性別にみると**、男女ともに上位 3 位の回答は同じである。男女で回答した割合の差が最も大きかったのは「職場などで昇格を期待されるから」（男性 16.5%、女性 34.1%）で、女性の方が 17.6 ポイント高い。「家族を養う責任があるという考え方があるから」（男性 48.4%、女性 65.9%）も、同じく女性の方が 17.6 ポイント高い。

【図表 6-2 参照】

図表 6-2　男性の生きづらさの要因（全体、性別）



## (3) 男性が普段の生活のなかでもっとほしいと感じている時間

問７＜**男性の方**にお聞きします。＞

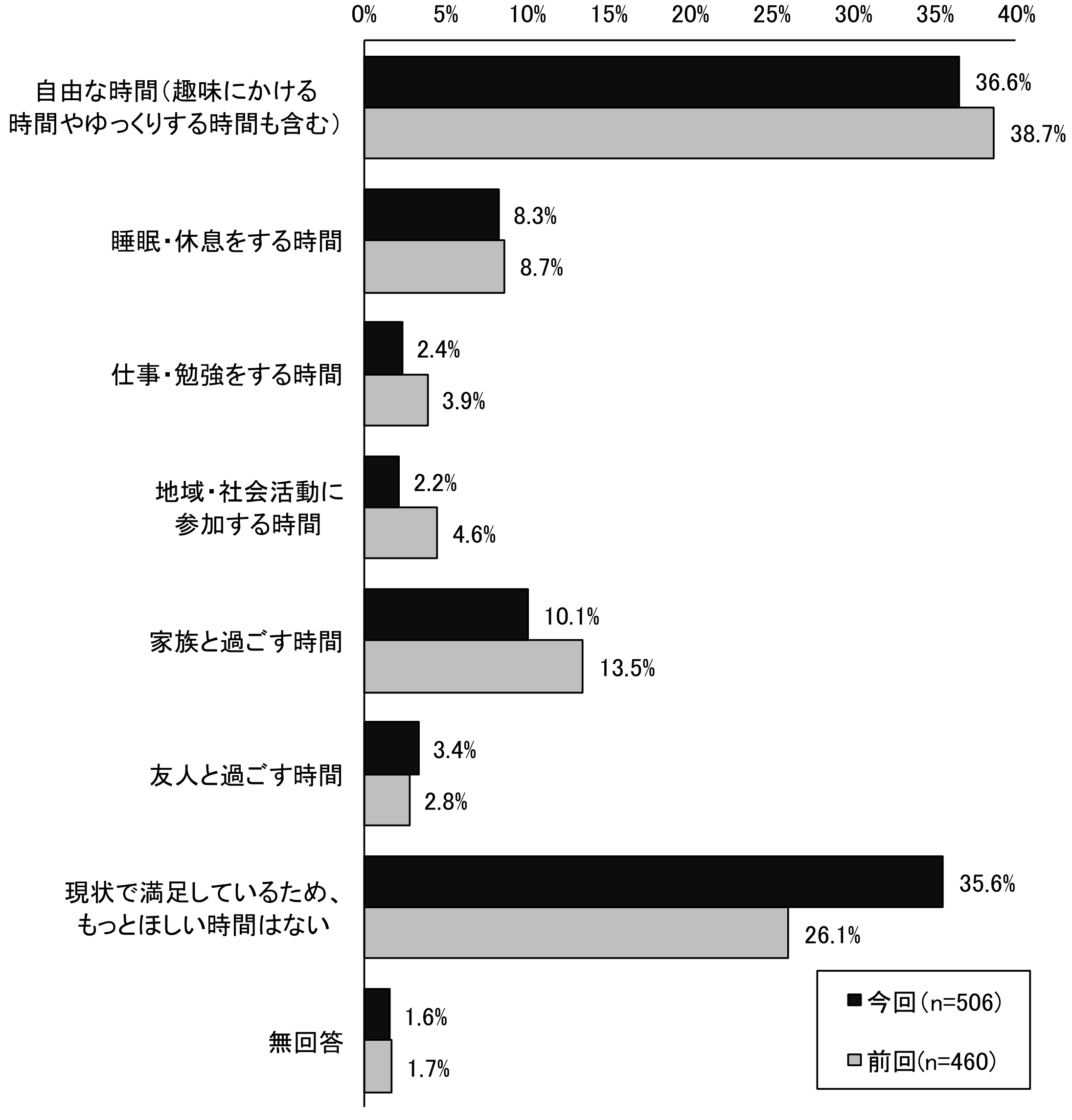
あなたは、普段の生活のなかで、どのような時間がもっとほしいと思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

### 「自由な時間（趣味にかける時間やゆっくりする時間も含む）」が 36.6%と最も高い

男性がもっとほしいと感じている時間は、「自由な時間（趣味にかける時間やゆっくりする時間も含む）」（36.6%）が最も高い。「現状で満足しているため、もっとほしい時間はない」は 35.6%である。

**前回調査と比較すると**、「現状で満足しているため、もっとほしい時間はない」との回答が 9.5 ポイント増加している。 【図表 7-1 参照】

図表 7-1　男性が普段の生活のなかでもっとほしいと感じている時間（男性のみ、前回比較）



**年代別にみると**、「自由な時間（趣味にかける時間やゆっくりする時間も含む）」と回答したのは、30 歳代が 52.0%と最も割合が高く、40 歳代で 50.0%、50 歳代で 45.6%である。特に 30 歳代では前回調査より 11.2 ポイント増加している。

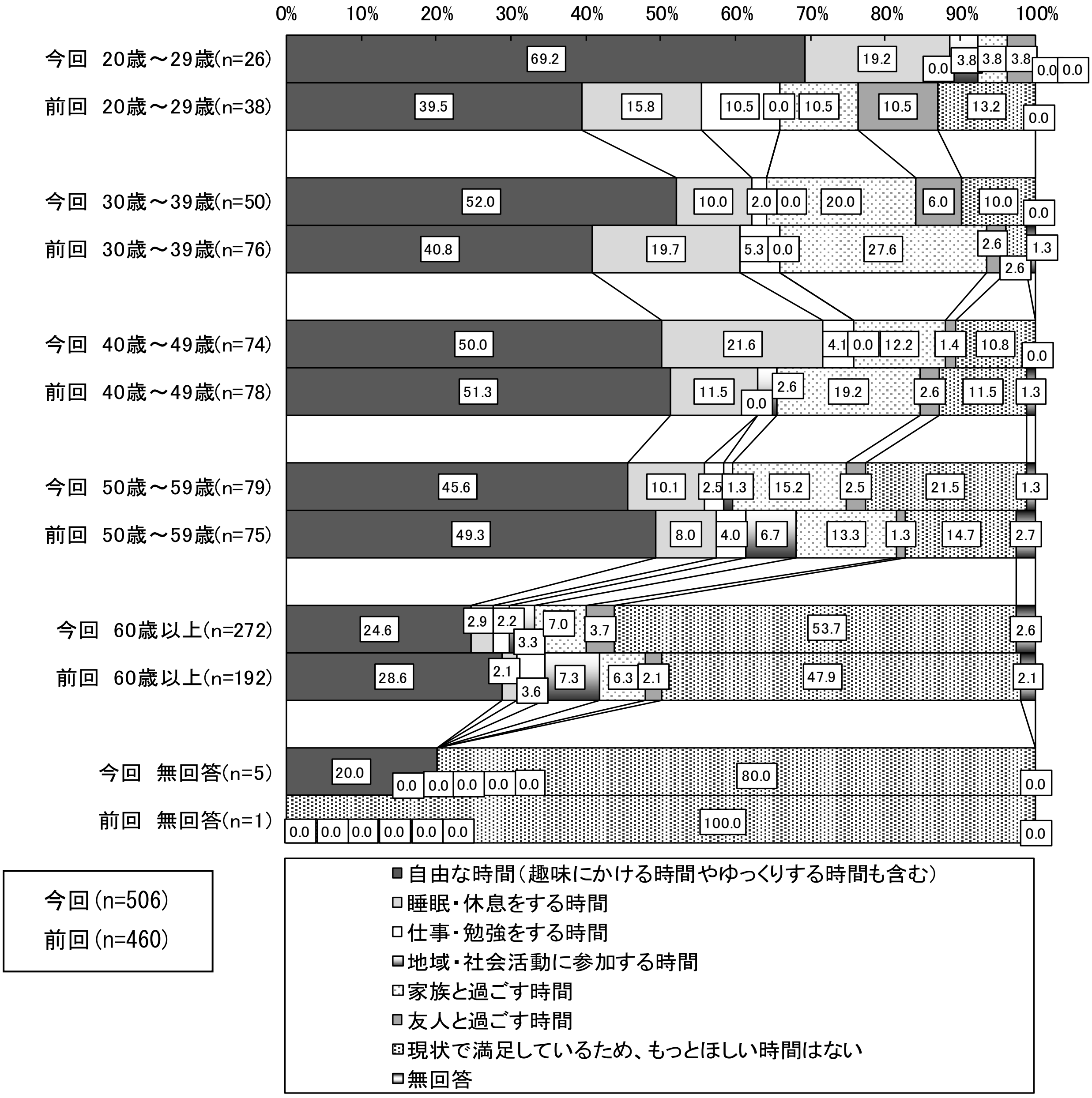
「家族と過ごす時間」と回答したのは、30 歳代で 20.0%と最も割合が高く、次いで 50 歳代で 15.2%、40 歳代で 12.2%である。

「現状で満足しているため、もっとほしい時間はない」と回答したのは、60 歳以上で 53.7%と最も割合が高く、前回調査から 5.8 ポイント増加している。次いで 50 歳代（21.5%）であり、前回よりも 6.9 ポイント増加している。

40 歳代では「睡眠・休息をする時間」が前回より 10.1 ポイント増加している。

なお、20 歳代は該当者数が 50 人未満のため分析の対象から除いている。　【図表 7-2 参照】

図表 7-2　男性が普段の生活のなかでもっとほしいと感じている時間
（年代別、男性のみ、前回比較）

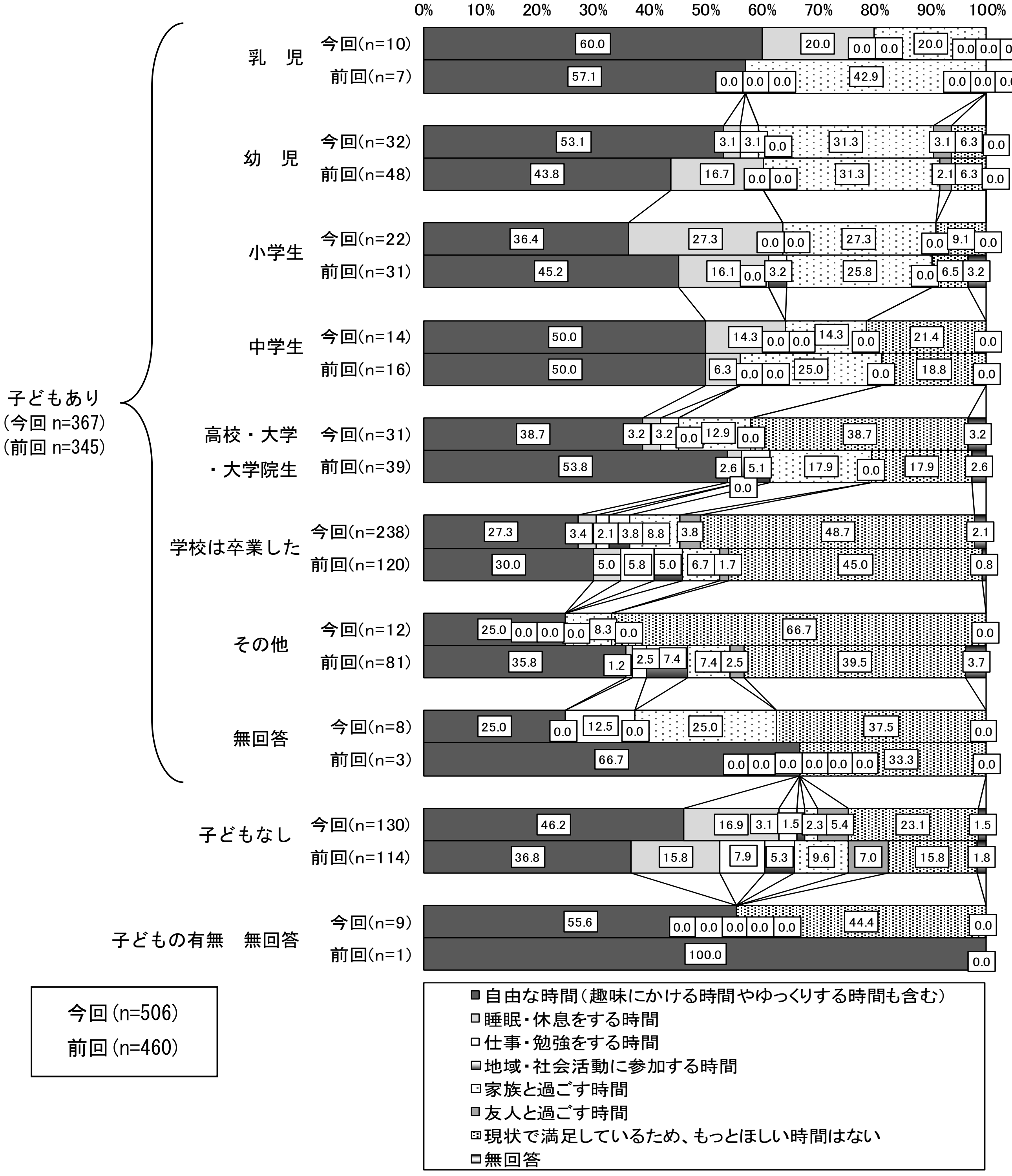


**子どもの有無別にみると**、末子が「高校・大学・大学院生」以下の男性では、該当者数は少ないが、末子が小さいほど「家族と過ごす時間」がほしいと回答する傾向が見られる。

一方、「現状で満足しているため、もっとほしい時間はない」と回答したのは、「学校は卒業した」子どもをもつ父親が 48.7%と最も高く、末子が大きくなる程増加する傾向が見られる。

【図表 7-3 参照】

図表 7-3　男性が普段の生活のなかでもっとほしいと感じている時間
（子どもの有無、男性のみ、前回比較）



## ４．男性が家事、育児、介護、地域活動を行うことについて
### (1) 男性が掃除、洗濯、炊事などの家事を担うために必要なこと

問８＜**すべての方**にお聞きします。＞

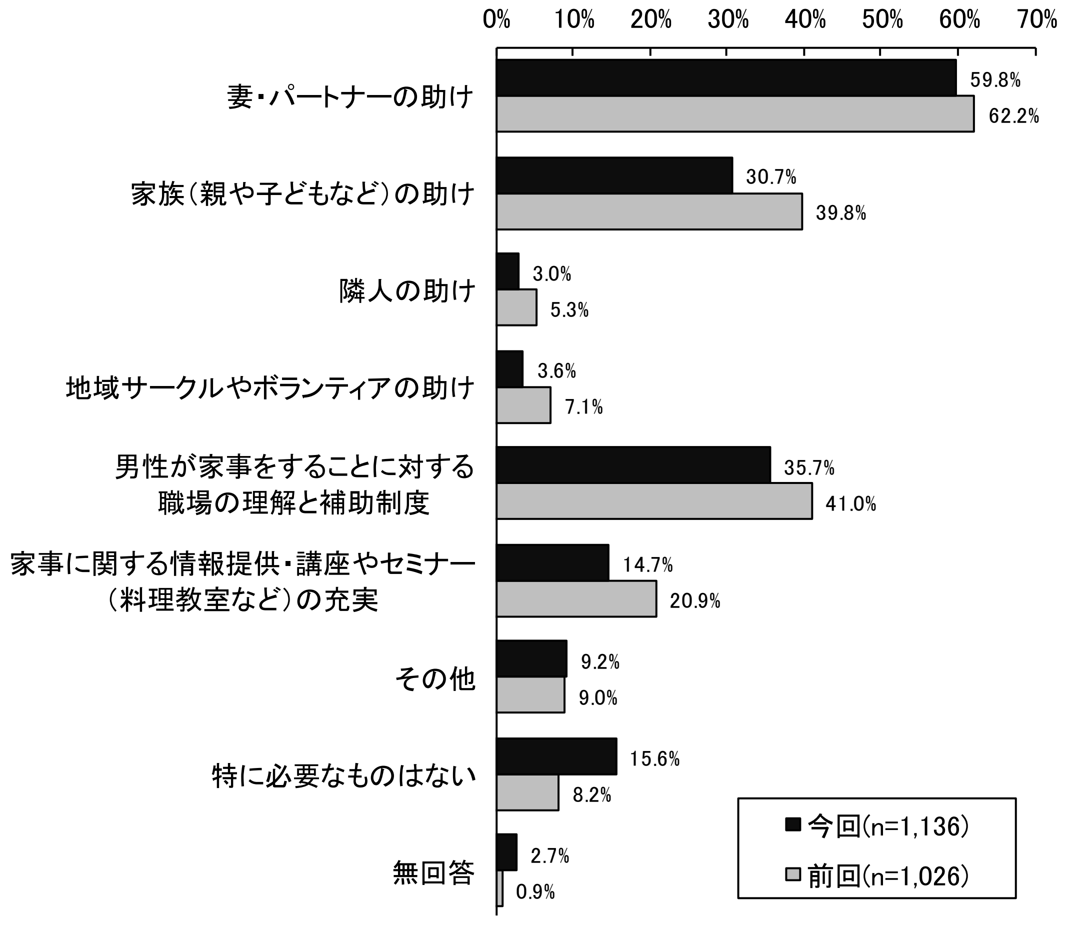
あなたは、男性が**掃除、洗濯、炊事などの家事**を担うために、何が必要だとお考えですか。あてはまる番号を**すべて**選んで○をつけて下さい。

**「妻・パートナーの助け」が 59.8%と最も割合が高い**

**全体では**、「妻・パートナーの助け」(59.8%) が最も割合が高く、次いで、「男性が家事をすることに対する職場の理解と補助制度」(35.7%)、「家族(親や子どもなど)の助け」(30.7%) である。

**前回調査と比較すると**、「家族(親や子どもなど)の助け」が 9.0 ポイント、「家事に関する情報提供・講座やセミナー(料理教室など)の充実」が 6.2 ポイント減少している。一方、「特に必要なものはない」が 7.4 ポイント増加している。 【図表 8-1 参照】

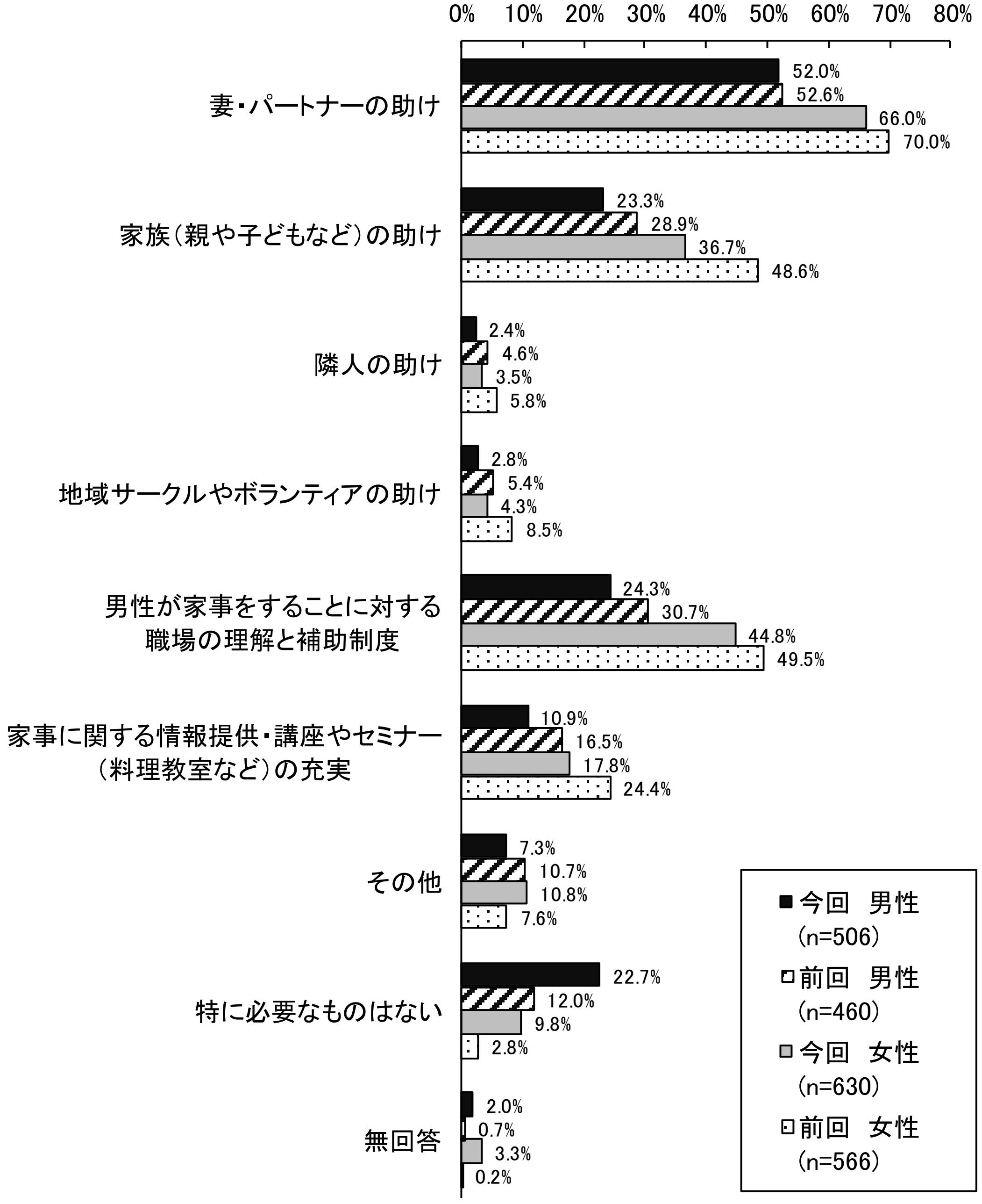
図表 8-1　男性が炊事、洗濯、掃除などの家事を担うために必要なこと（全体、前回比較）



**性別にみると**、男女ともに「妻・パートナーの助け」（男性 52.0%、女性 66.0%）、「男性が家事をすることに対する職場の理解と補助制度」（男性 24.3%、女性 44.8%）、「家族（親や子どもなど）の助け」（男性 23.3%、女性 36.7%）の順で割合が高い。

**前回調査と比較すると**、女性で最も変化が大きかったのは「家族（親や子どもなど）の助け」で、11.9 ポイント減少している。一方、男性で最も変化が大きかったのは「特に必要なものはない」で、10.8 ポイント増加している。【図表 8-2 参照】

図表 8-2　男性が掃除、洗濯、炊事などの家事を担うために必要なこと（性別、前回比較）



## (2) 男性が育児を担うために必要なこと

問９＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、男性が**育児**を担うために、何が必要だとお考えですか。あてはまる番号を**<u>すべて</u>**選んで○をつけて下さい。

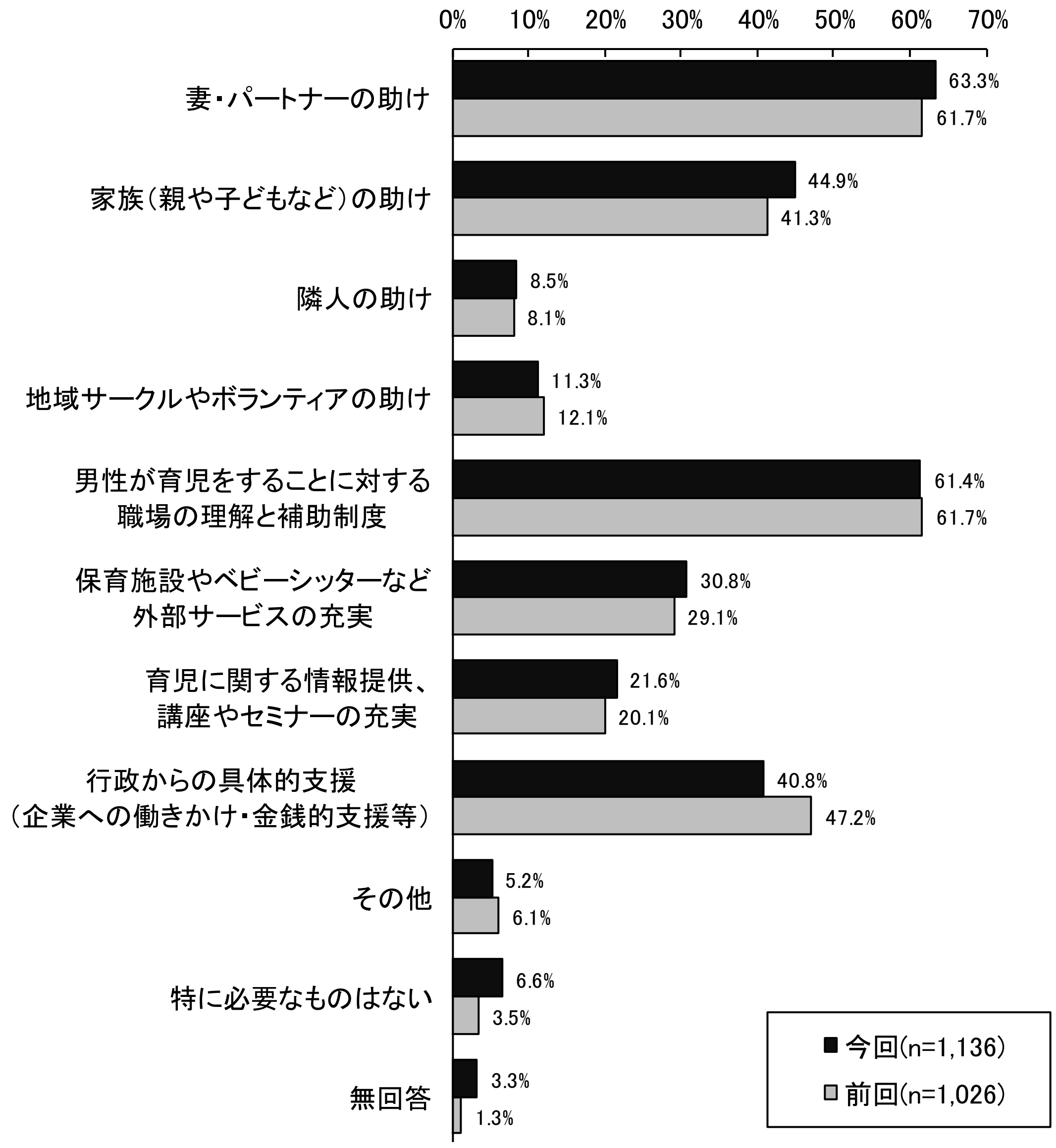
### 「妻・パートナーの助け」が63.3%と最も割合が高い

**全体では**、「妻・パートナーの助け」（63.3%）が最も割合が高く、次いで、「男性が育児をすることに対する職場の理解と補助制度」（61.4%）、「家族（親や子どもなど）の助け」（44.9%）である。

**前回調査と比較すると**、「行政からの具体的支援（企業への働きかけ・金銭的支援等）」が 6.3 ポイント減少している。

【図表 9-1 参照】

図表 9-1　男性が育児を担うために必要なこと（全体、前回比較）

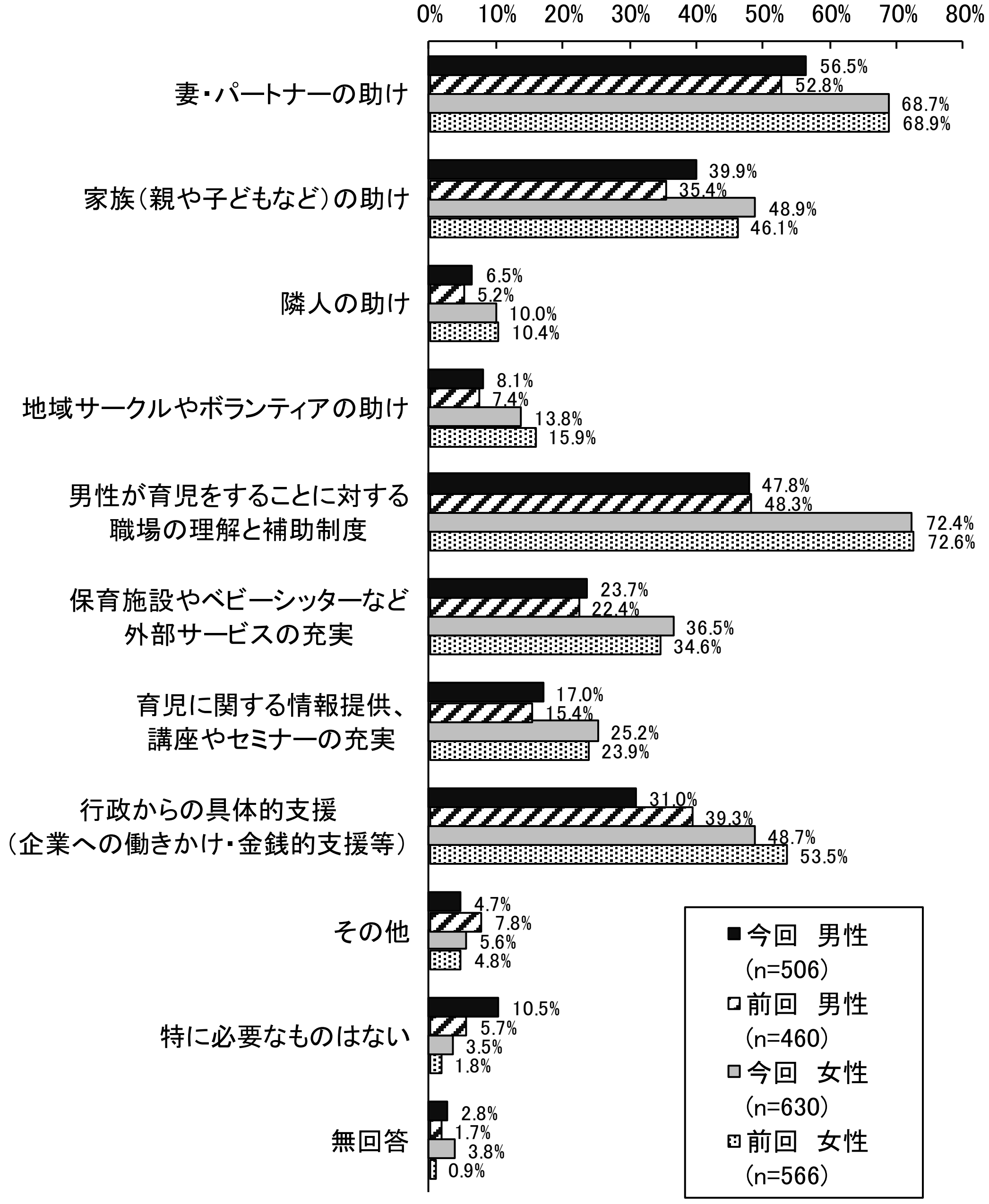


**性別にみると**、男性では、「妻・パートナーの助け」が 56.5%で最も高く、次いで、「男性が育児をすることに対する職場の理解と補助制度」が 47.8%、「家族（親や子どもなど）の助け」が 39.9%である。

一方、女性では、「男性が育児をすることに対する職場の理解と補助制度」が 72.4%で最も高く、次いで、「妻・パートナーの助け」が 68.7%、「家族（親や子どもなど）の助け」が 48.9%である。

**前回調査と比較すると**、「行政からの具体的支援（企業への働きかけ・金銭的支援等)」は、男性が 8.3 ポイント減少している。 【図表 9-2 参照】

図表 9-2　男性が育児を担うために必要なこと（性別・前回比較）



## (3) 男性が育児休業を取ることについて

問１０　育児を支援する制度である「（育児・介護休業法上の）育児休業」についてお聞きします。

（１）＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、男性が育児休業を取ることについて、どのように思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

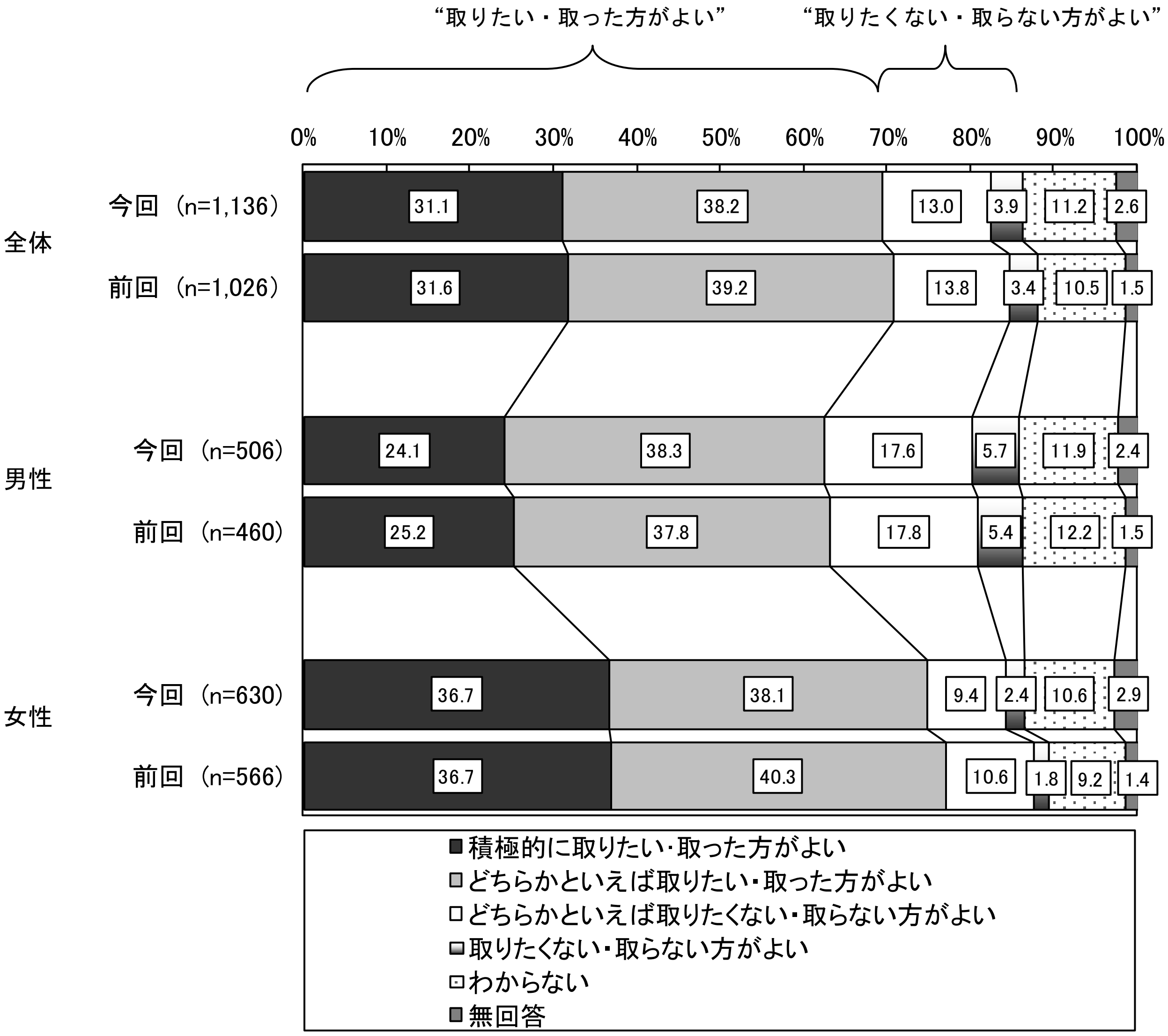
### “取りたい・取った方がよい”との回答は 69.3%

**全体では**、「積極的に取りたい・取った方がよい」と「どちらかといえば取りたい・取った方がよい」の両者を合わせた“取りたい・取った方がよい”との回答が 69.3%である。

**性別にみると**、“取りたい・取った方がよい”と回答した男性は 62.5%である。一方、女性では 74.8%であり、女性の方が男性より 12.3 ポイント高い。

**前回調査と比較すると**、大きな変化は見られない。　【図表 10-1 参照】

図表 10-1　男性が育児休業を取ることについて（全体、性別、前回比較）

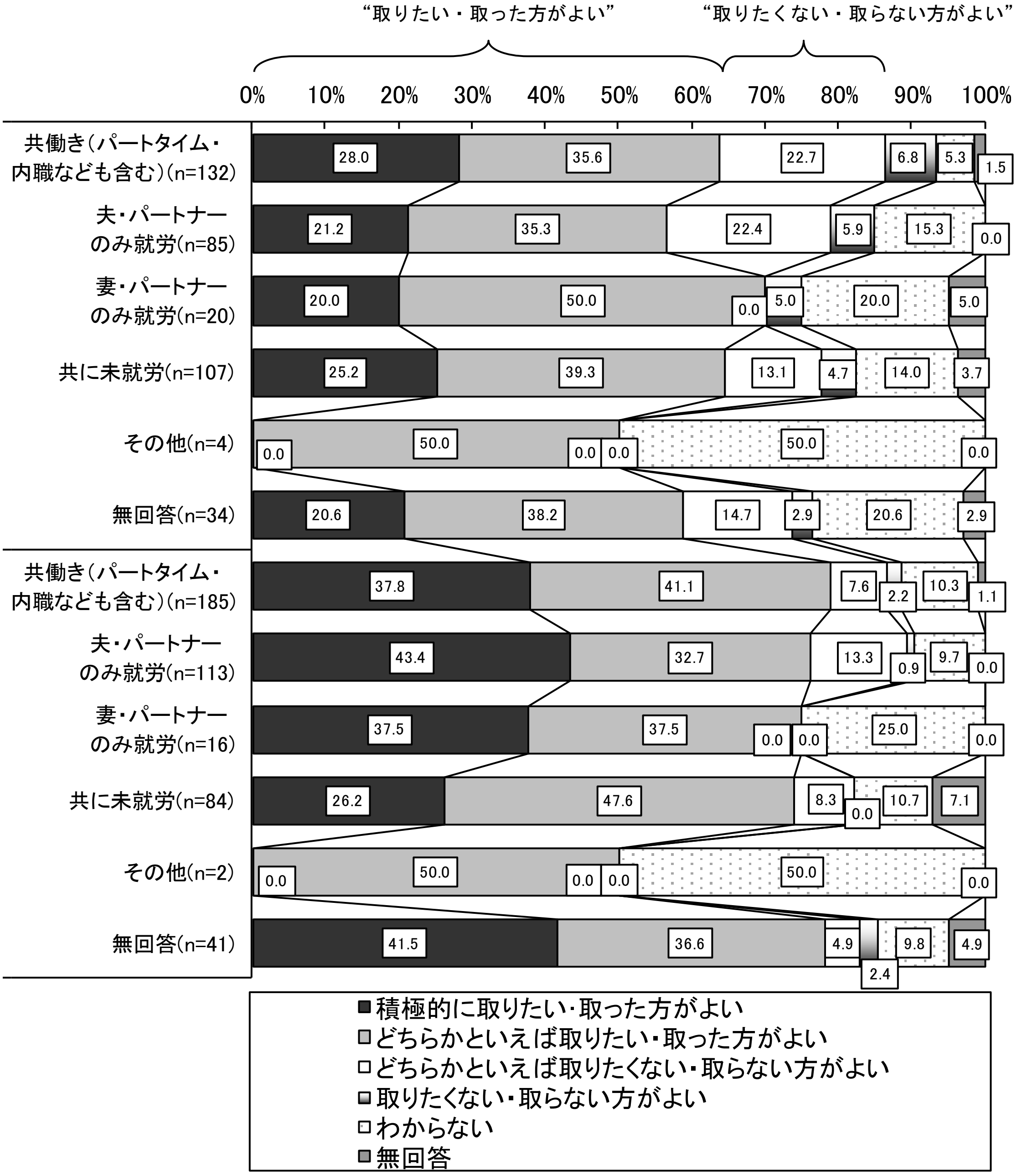


**性別・配偶者の就労状況別にみると**、「積極的に取りたい・取った方がよい」と回答したのは、男性では「共働き（パートタイム・内職なども含む)」(28.0%)、女性では「夫・パートナーのみが就労している」(43.4%) の割合が最も高い。

「積極的に取りたい・取った方がよい」と「どちらかといえば取りたい・取った方がよい」の両者を合わせた“取りたい・取った方がよい”は、女性では「共働き（パートタイム・内職なども含む)」が 78.9%と最も割合が高く、次いで、「夫・パートナーのみ就労」が 76.1%である。

【図表 10-2 参照】

図表 10-2　男性が育児休業を取ることについて（性別、配偶者の就労状況）



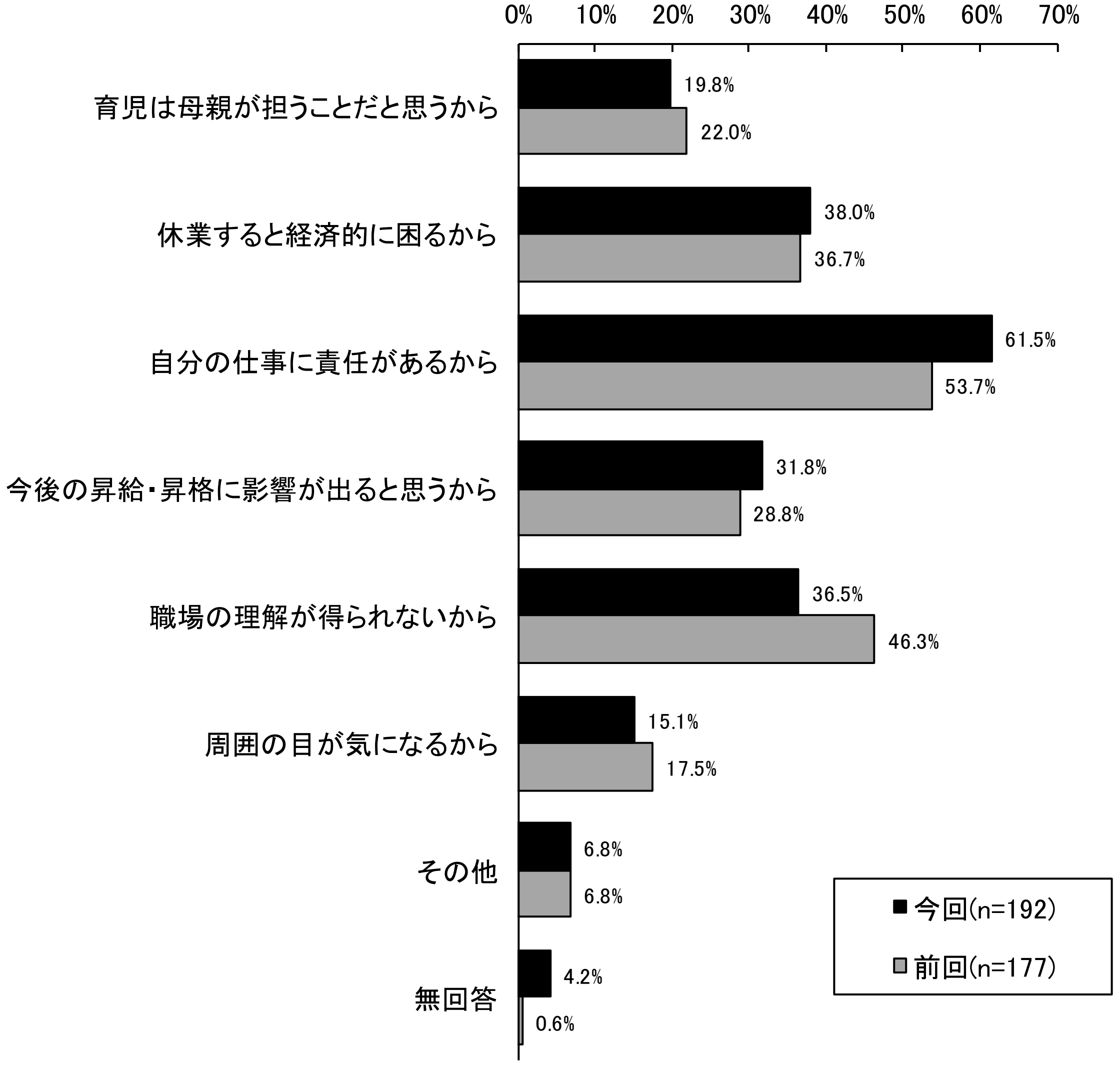
（２）＜**問１０（１）で３、４を選んだ方**にお聞きします。＞
あなたは、どうして男性が育児休業を取りたくない、または取らない方がよいと思いますか。
あてはまる番号を**すべて**選んで○をつけて下さい。

### 「自分の仕事に責任があるから」が 61.5%と最も割合が高い

**全体では**、「自分の仕事に責任があるから」（61.5%）が最も割合が高く、次いで、「休業すると経済的に困るから」（38.0%）、「職場の理解が得られないから」（36.5%）、である。

**前回調査と比較すると**、「自分の仕事に責任があるから」との回答が 7.8 ポイント増加している。一方、「職場の理解が得られないから」は 9.9 ポイント減少している。　　　　　【図表 10-3 参照】

図表 10-3　男性が育児休業を取りたくない、または取らない方がよいと思う理由
（全体、前回比較）



**性別にみると**、男女ともに「自分の仕事に責任があるから」が最も高く、男性が 64.4%、女性が 56.8%であり、男性の方が 7.7 ポイント高い。

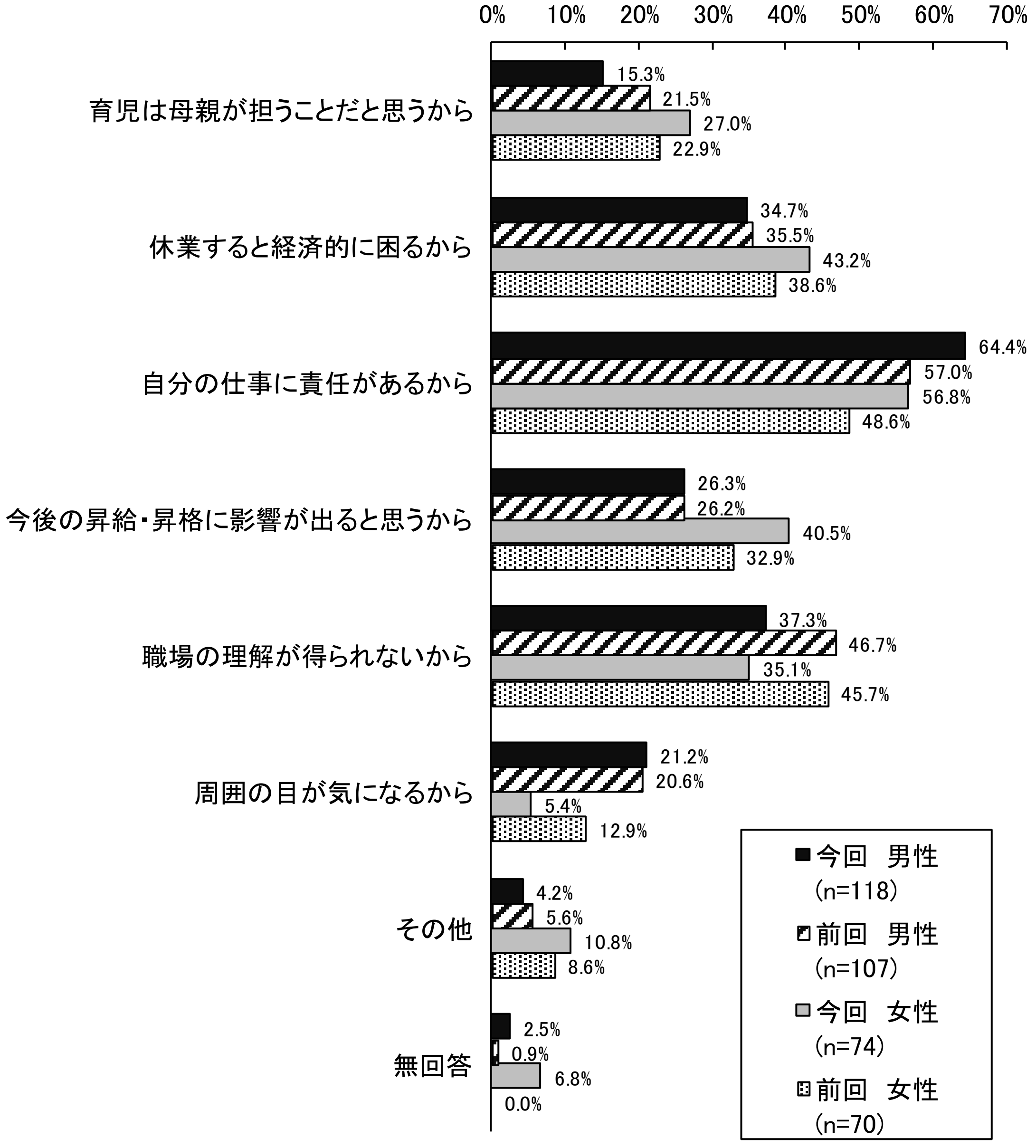
次いで、男性では「職場の理解が得られないから」(37.3%) である。一方、女性では「休業すると経済的に困るから」(43.2%) である。

男女で回答した割合の差が大きかったのは「周囲の目が気になるから」(男性 21.2%、女性 5.4%) で、男性の方が 15.8 ポイント高い。また、「今後の昇給・昇格に影響が出ると思うから」(男性 26.3%、女性 40.5%) は、女性の方が 14.3 ポイント高かった。

**前回調査と比較すると**、「自分の仕事に責任があるから」は前回より男性が 7.4 ポイント、女性が 8.2 ポイント増加している。一方、「職場の理解が得られないから」は前回より男性が 9.4 ポイント、女性が 10.6 ポイント減少している。 **【図表 10-4 参照】**

図表 10－4　男性が育児休業を取りたくない、または取らない方がよいと思う理由

（性別、前回比較）



## (4) 男性が家族の介護を担うために必要なこと

問１１＜**すべての方**にお聞きします。＞

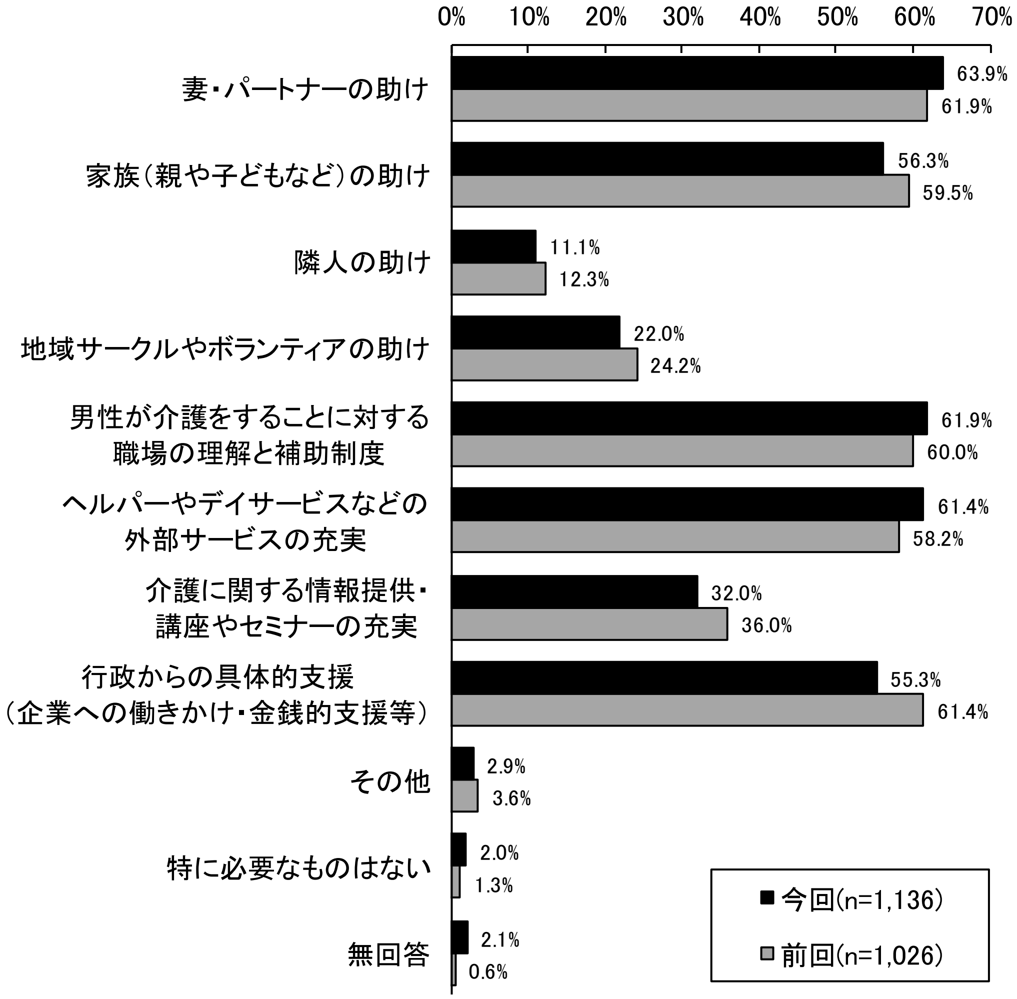
あなたは、男性が**家族の介護**を担うために、何が必要だとお考えですか。あてはまる番号を**すべて**選んで〇をつけて下さい。

**「妻・パートナーの助け」が 63.9%と最も割合が高い**

**全体では**、「妻・パートナーの助け」(63.9%)が最も割合が高く、次いで、「男性が介護をすることに対する職場の理解と補助制度」(61.9%)、「ヘルパーやデイサービスなどの外部サービスの充実」(61.4%)である。

**前回調査と比較すると**、「行政からの具体的支援(企業への働きかけ・金銭的支援等)」との回答が 6.1 ポイント減少している。 【図表 11-1 参照】

図表 11-1　男性が家族の介護に参加するために必要と考えること(全体、前回比較)



**性別にみると**、男性では「妻・パートナーの助け」が 58.9%と最も高く、「ヘルパーやデイサービスなどの外部サービスの充実」（53.6%）、「家族（親や子どもなど）の助け」（51.4%）と続く。

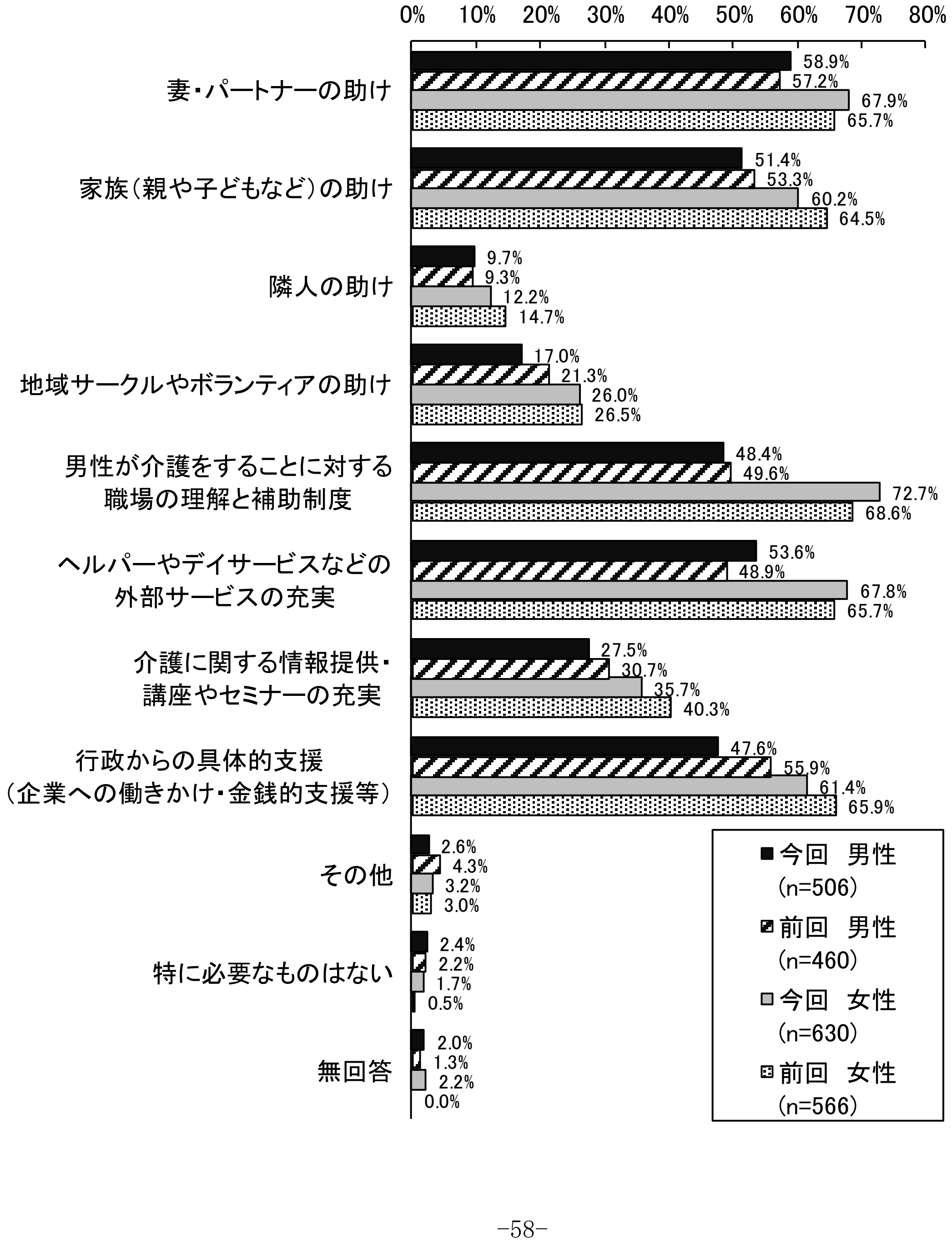
一方、女性では、「男性が介護をする事に対する職場の理解と補助制度」が 72.7%で最も高く、「妻・パートナーの助け」(67.9%)、「ヘルパーやデイサービスなどの外部サービスの充実」(67.8%)の順である。

回答した割合の男女差が最も大きかったのは「男性が介護をする事に対する職場の理解と補助制度」で、男性が 48.4%、女性が 72.7%であり、女性の方が 24.3 ポイント高い。

**前回調査と比較すると**、「行政からの具体的支援（企業への働きかけ・金銭的支援等)」は前回より男性が 8.2 ポイント減少している。

【図表 11-2 参照】

図表 11-2　男性が家族の介護に参加するために必要と考えること（性別、前回比較）



## (5) 男性が介護休業を取ることについて

問１２　介護を支援する制度である「（育児・介護休業法上の）介護休業」についてお聞きします。
（１）**＜すべての方**にお聞きします。＞
あなたは、男性が介護休業を取ることについて、どのように思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

### “取りたい・取った方がよい”との回答は 76.6%

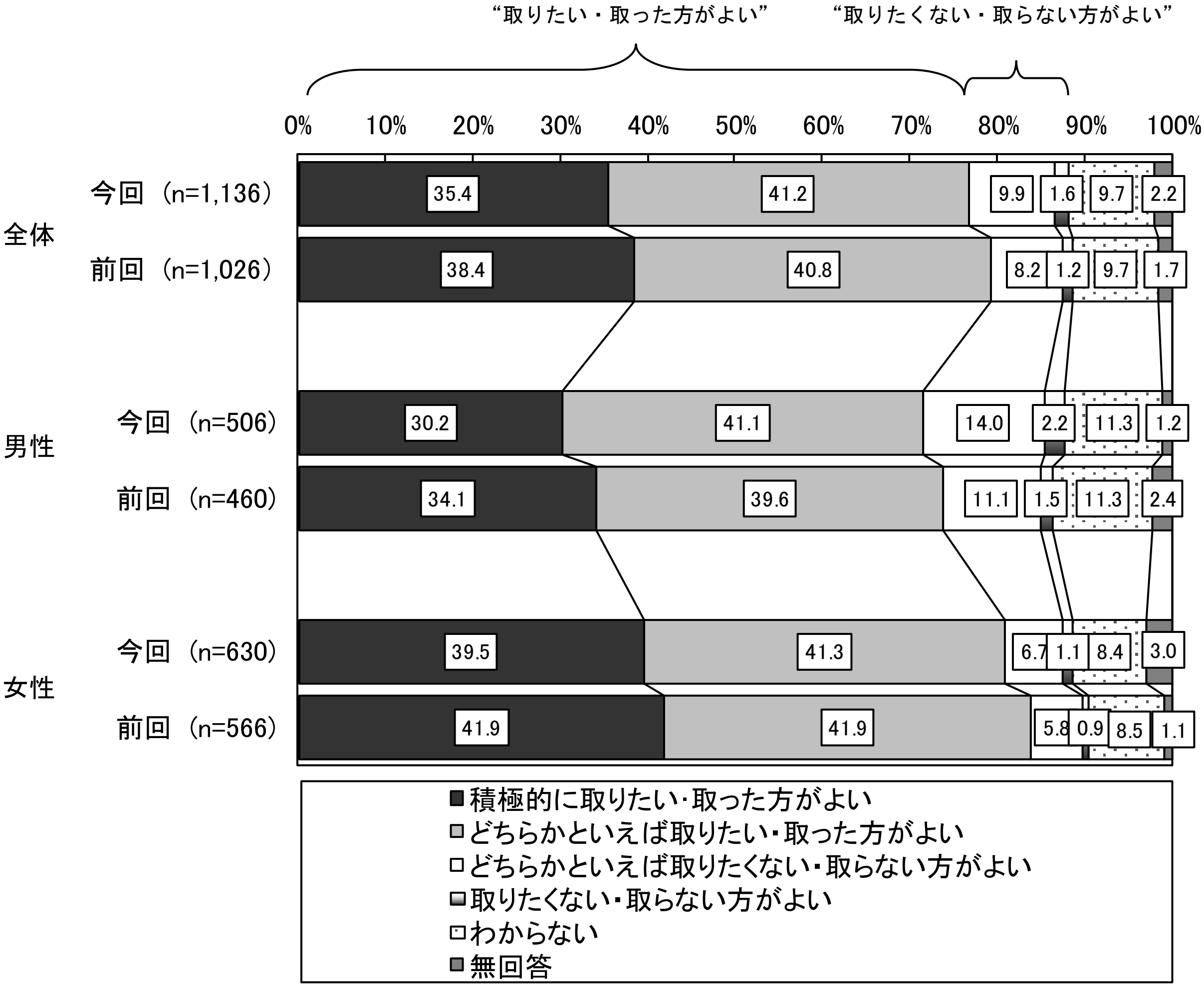
**全体では**、「積極的に取りたい・取った方がよい」と「どちらかといえば取りたい・取った方がよい」の両者を合わせた“取りたい・取った方がよい”と回答したのは 76.6%である。

**性別にみると**、“取りたい・取った方がよい”は、男性が 71.3%、女性が 80.8%であり、女性の方が 9.4 ポイント高い。

「どちらかといえば取りたくない・取らない方がよい」と「取りたくない・取らない方がよい」の両者を合わせた“取りたくない・取らない方がよい”と回答したのは、男性が 16.2%に対し、女性は 7.8%で、男性の方が 8.4 ポイント高い。

**前回調査と比較すると**、大きな変化は見られない。　【図表 12-1 参照】

図表 12-1　男性が介護休業を取ることについて（全体、性別、前回比較）



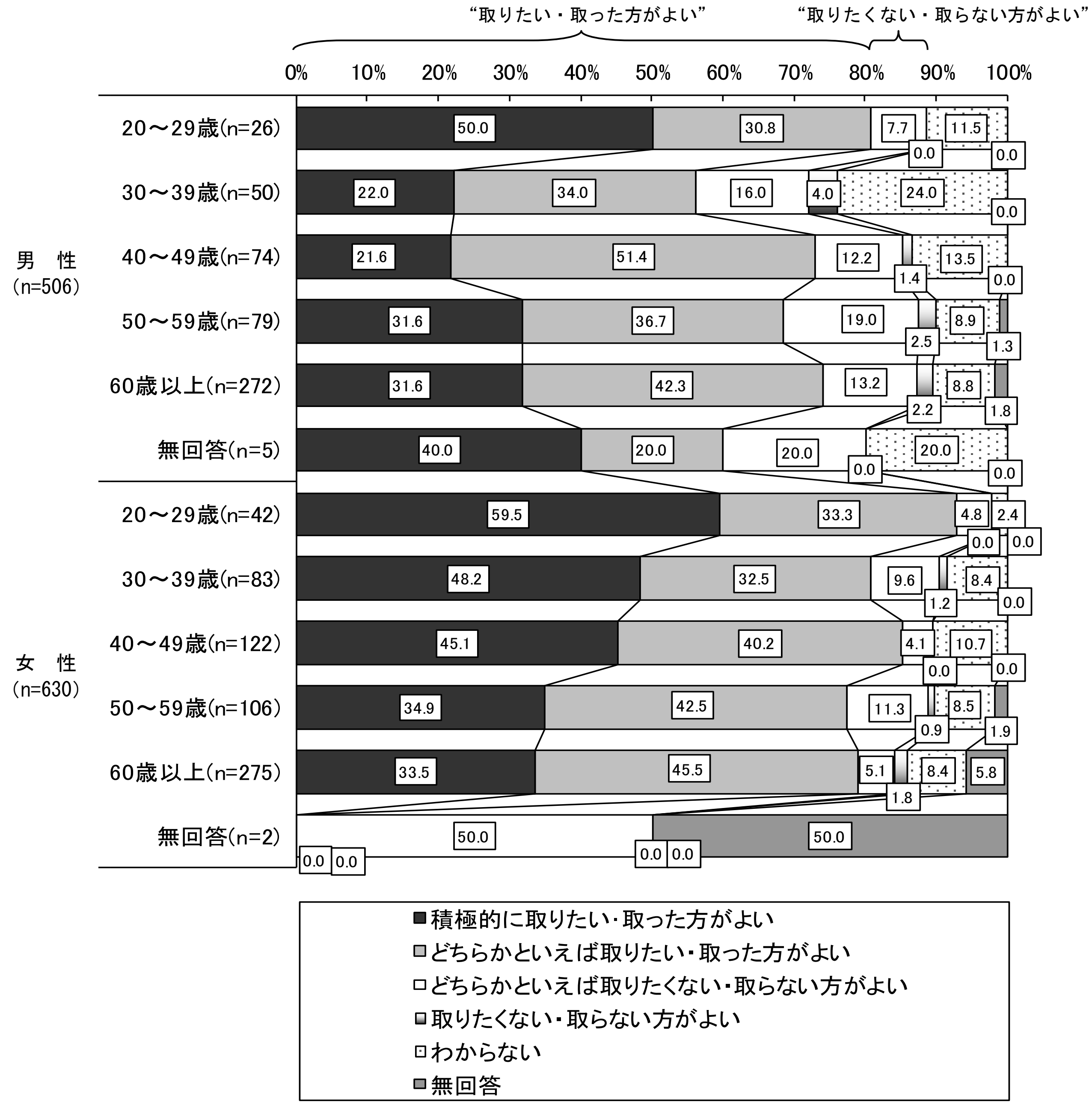
**性別・年代別にみると**、介護休業を“取りたい・取った方がよい”と回答した割合が最も高いのは、男性では 60 歳以上（73.9%）と 40 歳代（73.0%）でほぼ同率である。女性では 40 歳代（85.2%）が最も割合が高く、次いで 30 歳代（80.7%）である。最も割合が低いのは、男性は 30 歳代（56.0%）、女性は 50 歳代（77.4%）である。女性は全ての年代で 75%を超えている。

「積極的に取りたい・取った方がよい」との回答は、男性では 50 歳代と 60 歳以上がともに 31.6%と最も割合が高い。女性では年齢が下がるほど割合が高くなる傾向がみられ、30 歳代が 48.2%と最も割合が高い。

一方、「どちらかといえば取りたくない・取らない方がよい」と回答した割合が高いのは、男女ともに 50 歳代で、男性が 19.0%、女性が 11.3%である。

なお、20 歳代は該当者数が 50 人未満のため分析の対象から除いている。　【図表 12-2 参照】

図表 12-2　男性が介護休業を取ることについて（性別、年代別）



（２）＜**問１２（１）で３、４を選んだ方**にお聞きします。＞

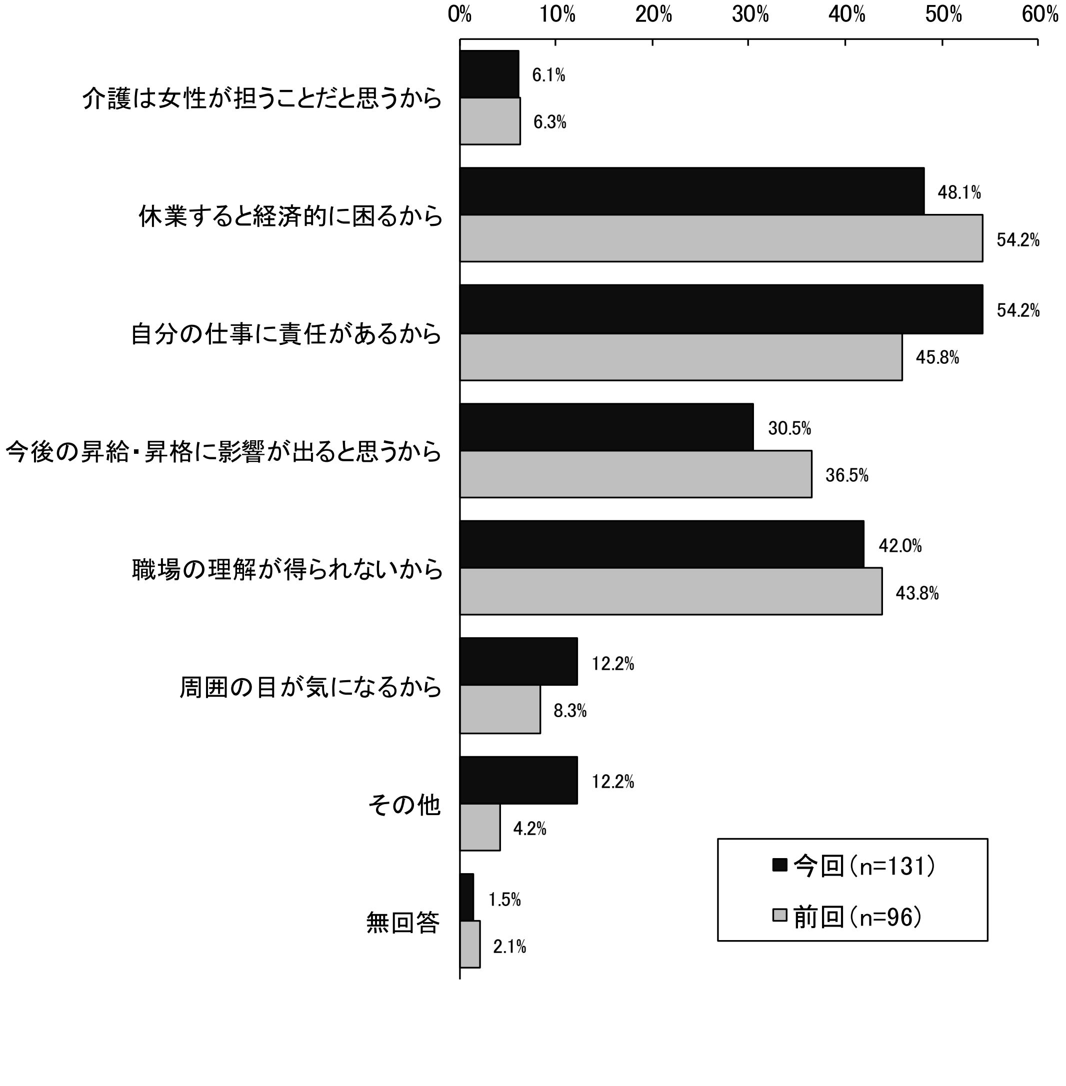
あなたは、どうして男性が介護休業を取りたくない、または取らない方がよいと思いますか。あてはまる番号を**すべて**選んで○をつけて下さい。

## 「自分の仕事に責任があるから」が 54.2%と最も割合が高い

**全体では**、「自分の仕事に責任があるから」（54.2%）が最も割合が高く、次いで、「休業すると経済的に困るから」（48.1%）、「職場の理解が得られないから」（42.0%）である。

**前回調査と比較すると**、「自分の仕事に責任があるから」との回答が 8.4 ポイント増加している。一方、「休業すると経済的に困るから」は、6.1 ポイント減少している。また、「今後の昇給・昇格に影響が出ると思うから」も 5.9 ポイント減少している。　　　　　　　　　　　【図表 12-3 参照】

図表 12-3　男性が介護休業を取りたくない、取らない方がよいと思う理由（全体、前回比較）



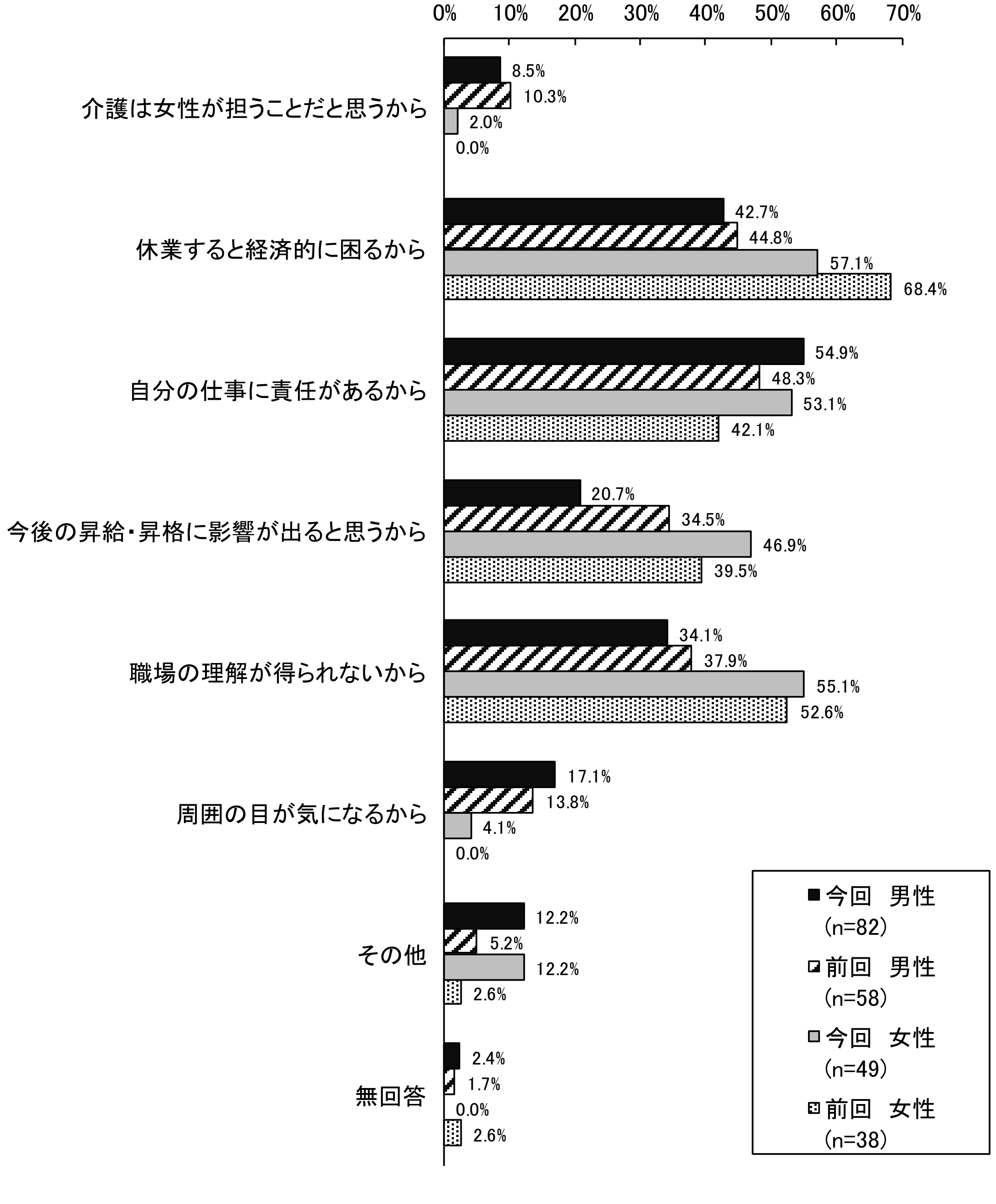
**性別にみると**、男性では、「自分の仕事に責任があるから」が 54.9%で最も高く、次いで、「休業すると経済的に困るから」（42.7%）、「職場の理解が得られないから」（34.1%）である。

一方、女性は該当者数が少ないので参考値にとどめるが、「休業すると経済的に困るから」が最も高く 57.1%であり、次いで、「職場の理解が得られないから」（55.1%）、「自分の仕事に責任があるから」（53.1%）である。

**前回調査と比較すると**、男性では「今後の昇給・昇格に影響が出ると思うから」が 13.8 ポイント減少し、「自分の仕事に責任があるから」が 6.6 ポイント増加している。女性では「休業すると経済的に困るから」が 11.3 ポイント減少し、「自分の仕事に責任があるから」が 11.0 ポイント、「今後の昇給・昇格に影響が出ると思うから」が 7.5 ポイント増加している。

【図表 12-4 参照】

図表 12-4　男性が介護休業を取りたくない、取らない方がよいと思う理由（性別、前回比較）



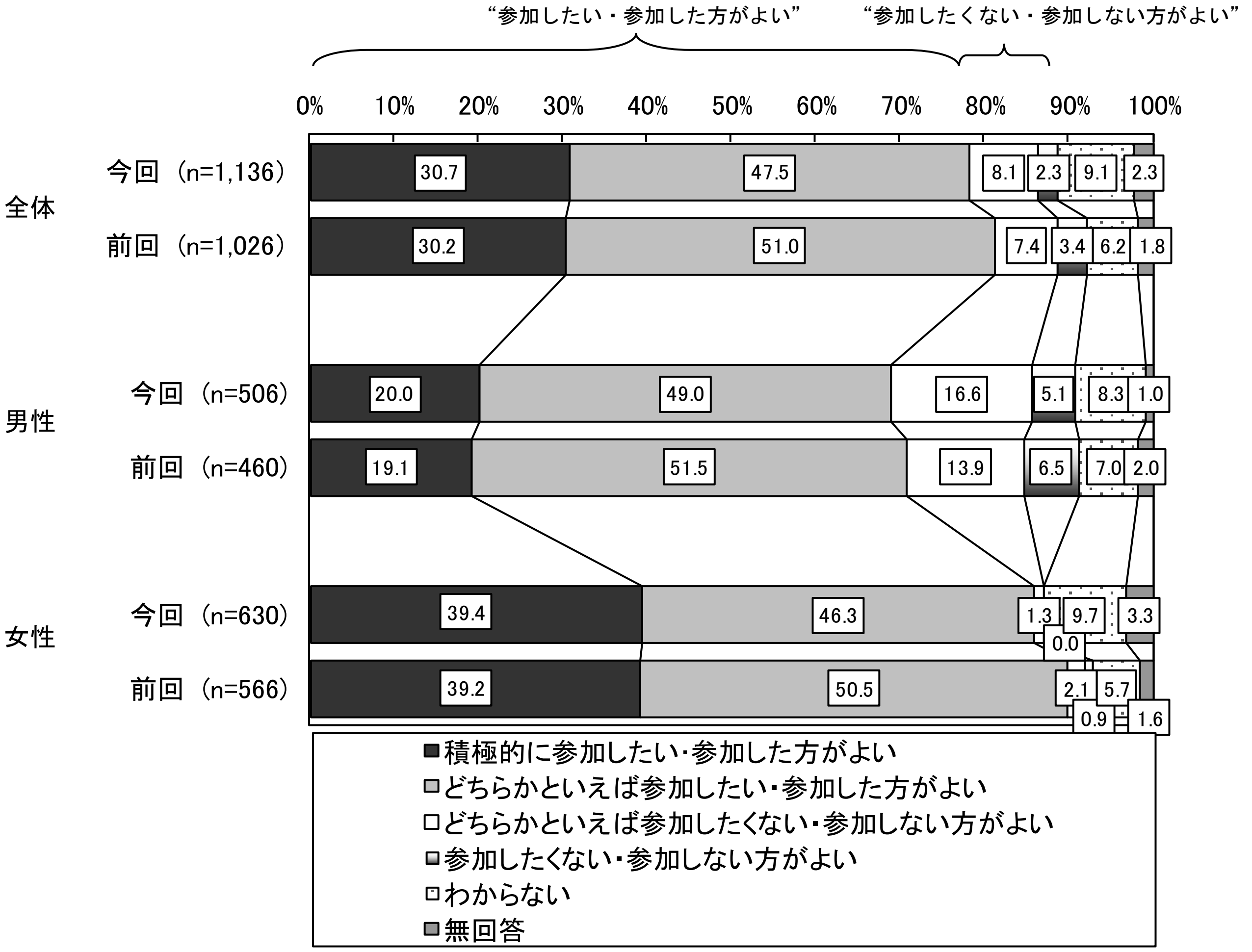
## (6) 男性が地域活動に参加することについて

問１３　男性が地域活動に参加することについてお聞きします。
（１）＜**すべての方**にお聞きします。＞
あなたは、男性が地域活動に参加することについて、どのように思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

### “参加したい・参加した方がよい”との回答は 78.3%である

**全体では**、「積極的に参加したい・参加した方がよい」と「どちらかといえば参加したい・参加した方がよい」の両者を合わせた“参加したい・参加した方がよい”と回答したのは 78.3%である。
**性別にみると**、“参加したい・参加した方がよい”と回答したのは、男性が 69.0%、女性が 85.7%であり、女性の方が男性より 16.7 ポイント高い。
「どちらかといえば参加したくない・参加しない方がよい」と回答したのは、男性が 16.6%、女性が 1.3%であり、男性の方が 15.3 ポイント高い。
**前回調査と比較すると**、大きな変化は見られなかった。　【図表 13-1 参照】

図表 13-1　男性が地域活動に参加することについて（全体、性別、前回比較）

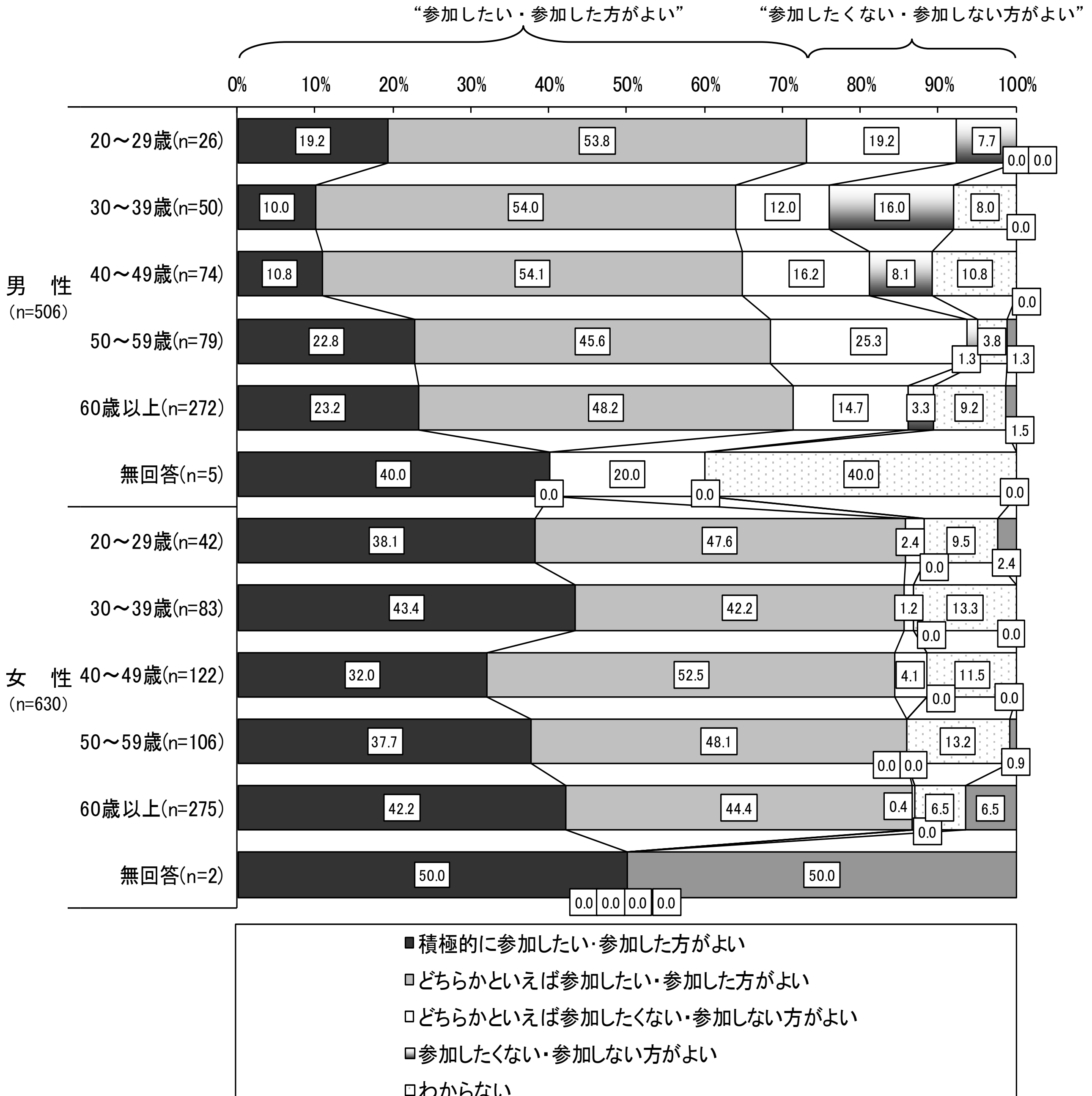


**性別・年代別にみると**、男性で「積極的に参加したい･参加した方がよい」と「どちらかといえば参加したい･参加した方がよい」の両者を合わせた“参加したい・参加した方がよい”との回答は、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向がみられ、60 歳以上が 71.3%と最も高かった。

女性で“積極的に参加したい･参加した方がよい”は 60 歳以上が 86.5%で最も高く、次いで 50 歳代が 85.8%で、30 歳代が 85.5%、40 歳代が 84.4%と、どの年代でも高い割合である。

なお、20 歳代は該当者数が 50 人未満のため分析の対象から除いている。　**【図表 13-2 参照】**

図表 13-2　男性が地域活動に参加することについて（性別、年代別）



（２）<**すべての方**にお聞きします。>

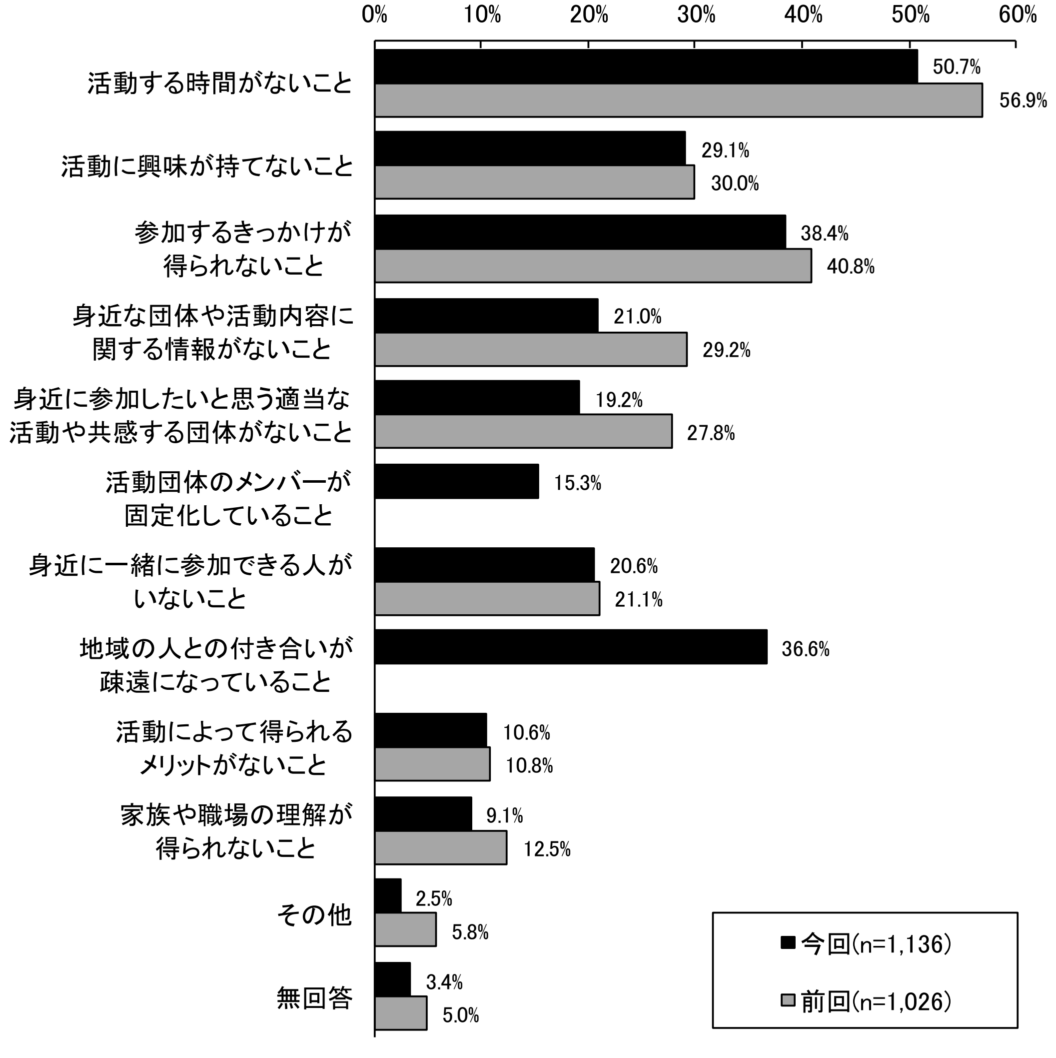
あなたは、男性が地域活動に積極的に参加する際に苦労すること、また参加できない要因となることはどんなことだと思いますか。あてはまる番号を**３つまで**選んで〇をつけて下さい。

## 「活動する時間がないこと」が 50.7%と最も割合が高い

**全体では**、「活動する時間がないこと」（50.7%）が最も割合が高く、次いで、「参加するきっかけが得られないこと」（38.4%）、「地域の人との付き合いが疎遠になっていること」（36.6%）である。

**前回調査と比較すると**、「身近に参加したいと思う適当な活動や共感する団体がないこと」は 8.6 ポイント、「身近な団体や活動内容に関する情報がないこと」は 8.3 ポイント、「活動する時間がないこと」が 6.2 ポイント減少している。
【図表 13-3 参照】

図表 13-3　男性が地域活動に積極的に参加する際に苦労すること、また参加できない要因
（全体、前回比較）




※「活動団体のメンバーが固定化していること」「地域の人との付き合いが疎遠になっていること」は今回調査において新たに選択肢を追加。

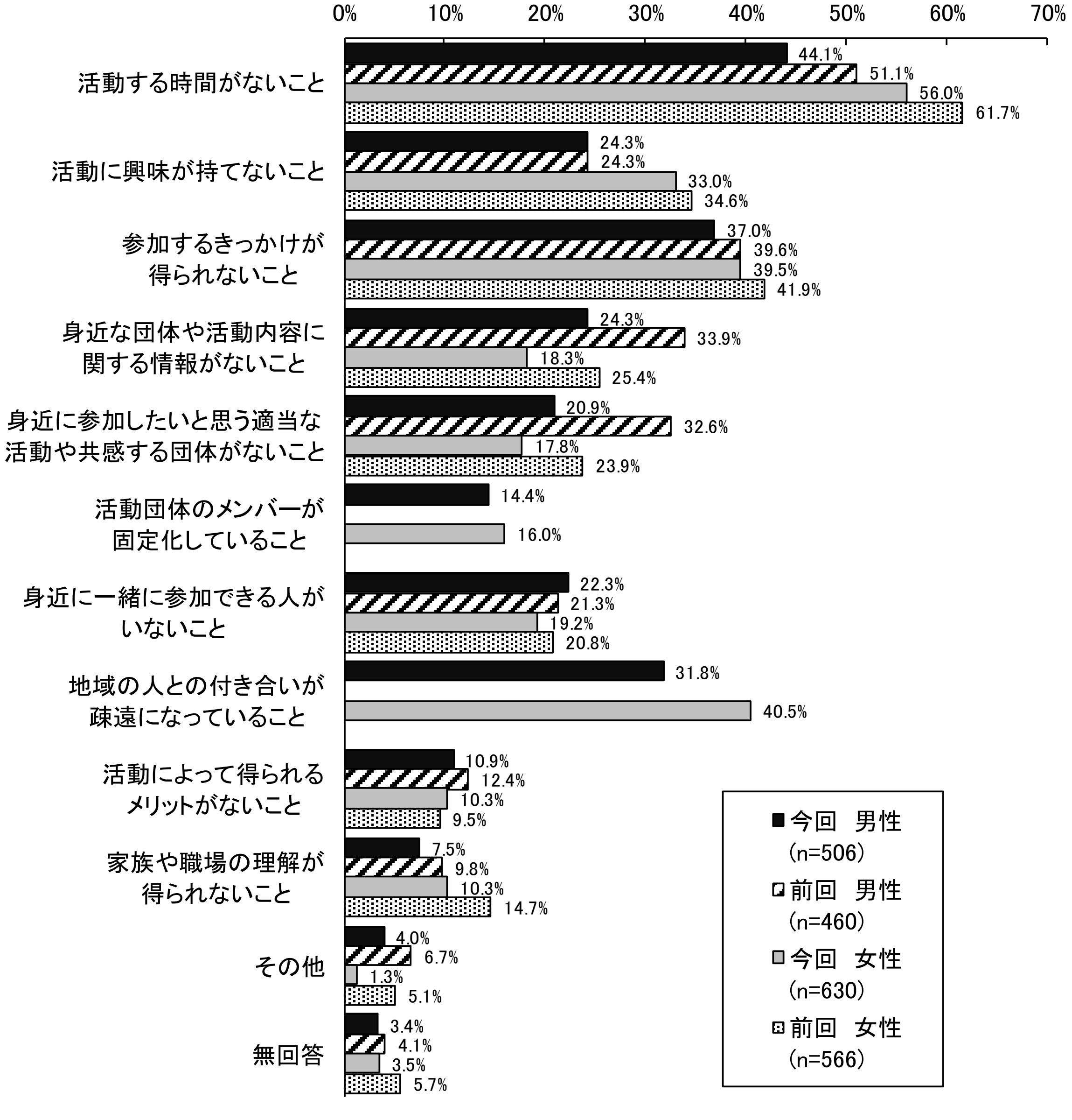
**性別にみると**、男女ともに、「活動する時間がないこと」が最も高く、男性が 44.1%、女性が 56.0%である。

次に高いのは、男性では「参加するきっかけが得られないこと」(37.0%)である。女性では「地域の人との付き合いが疎遠になっていること」(40.5%)である。

続いて、男性では「地域の人との付き合いが疎遠になっていること」(31.8%)、女性では「参加するきっかけが得られないこと」(39.5%)である。

**前回調査と比較すると**、「活動する時間がないこと」は男性が 7.0 ポイント、女性が 5.6 ポイント減少している。「身近な団体や活動内容に関する情報がないこと」は男性が 9.6 ポイント、女性が 7.2 ポイント減少している。「身近に参加したいと思う適当な活動や共感する団体がないこと」は男性が 11.7 ポイント、女性が 6.1 ポイント減少している。 【図表 13-4 参照】

図表 13-4 男性が地域活動に積極的に参加する際に苦労すること、また参加できない要因
(性別、前回比較)



## ５．「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の実現について

### （1）男性が家事、育児、介護、地域活動等に積極的に参画するために必要なこと

問１４＜**すべての方**にお聞きします。＞

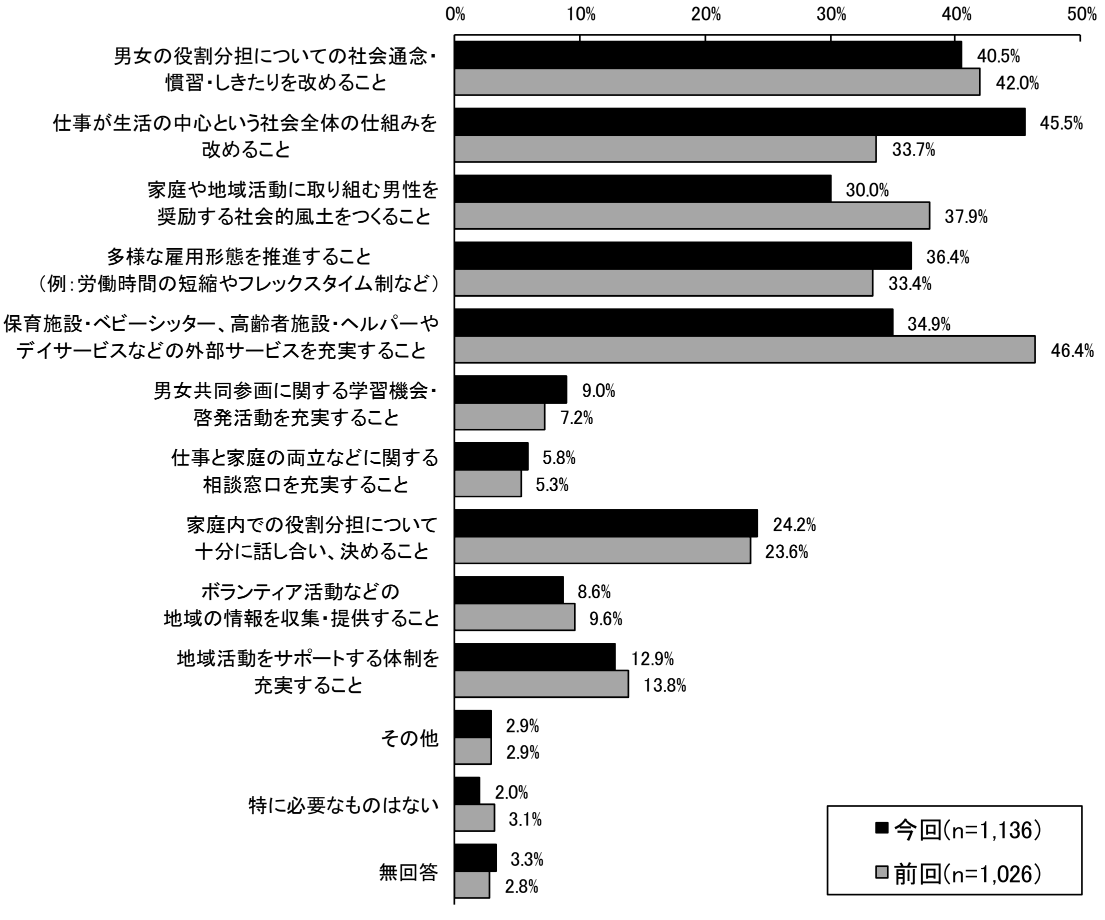
あなたは、男性が、家事、育児、介護、地域活動等に積極的に参画していくために、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思う番号を**３つまで**選んで○をつけて下さい。

**「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」が 45.5%と最も割合が高い**

**全体では**、「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」（45.5%）が最も割合が高く、次いで、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりを改めること」（40.5%）、「多様な雇用形態を推進すること（例：労働時間の短縮やフレックスタイム制など）」（36.4%）である。

**前回調査と比較すると**、「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」が 11.8 ポイント増加し、「保育施設・ベビーシッター、高齢者施設・ヘルパーやデイサービスなどの外部サービスを充実すること」が 11.4 ポイント、「家庭や地域活動に取り組む男性を奨励する社会的風土をつくること」が 7.9 ポイント減少している。 【図表 14-1 参照】

図表 14-1　男性が家事、育児、介護、地域活動等に積極的に参画するために必要なこと（全体、前回比較）



**性別にみると**、男女ともに「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」が最も高く、男性が 46.6%、女性が 44.6%である。

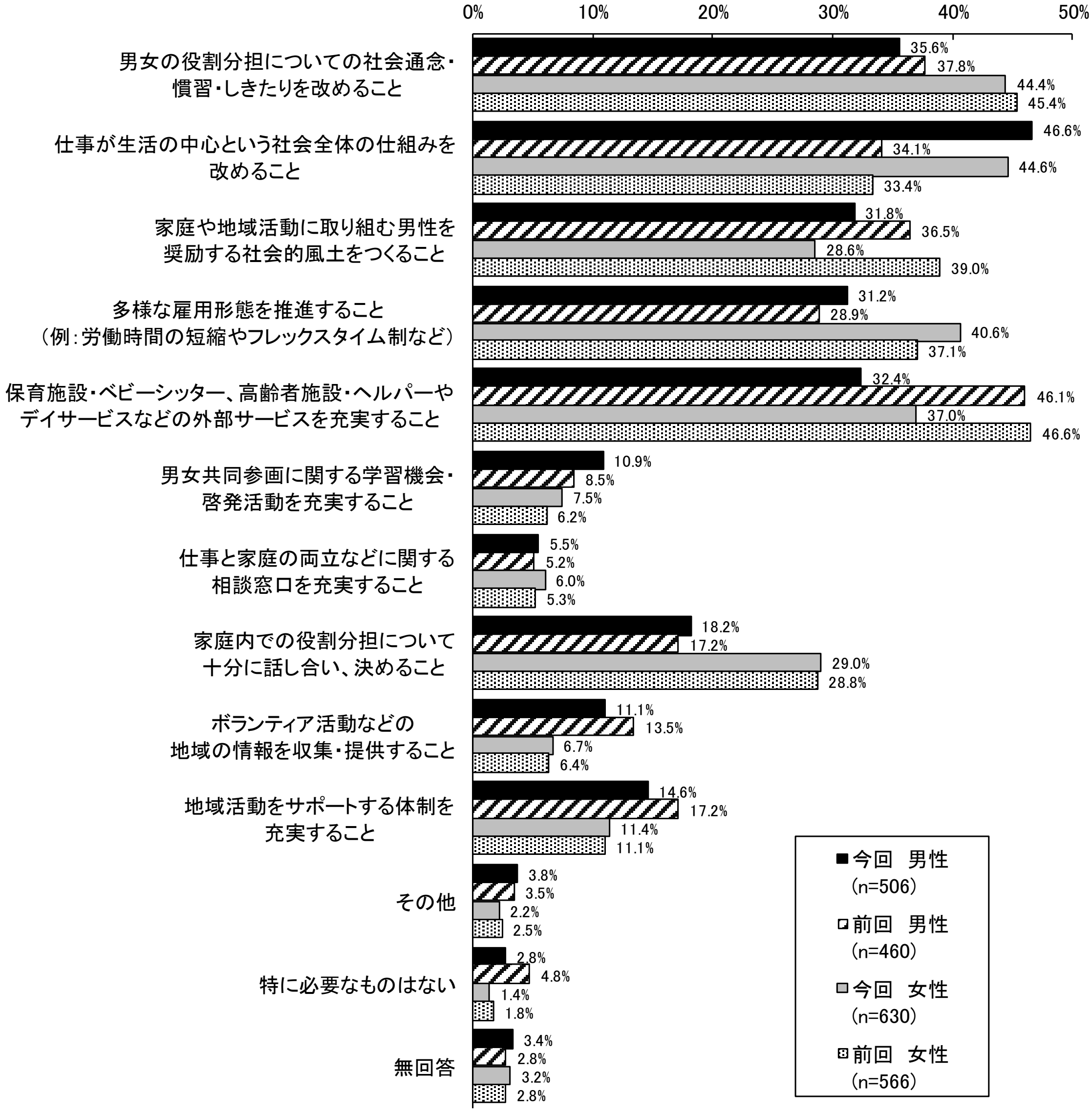
次いで、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりを改めること」が高く、男性が 35.6%、女性が 44.4%である。

回答した割合の男女差が最も大きかったのは「家庭内での役割分担について十分に話し合い、決めること」で、男性が 18.2%、女性が 29.0%であり、女性の方が 10.9 ポイント高い。

**前回調査と比較すると**、「保育施設・ベビーシッター、高齢者施設・ヘルパーやデイサービスなどの外部サービスを充実すること」は男性が 13.7 ポイント、女性が 9.6 ポイント減少し、「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」は男性が 12.5 ポイント、女性が 11.2 ポイント増加している。女性では「家庭や地域活動に取り組む男性を奨励する社会的風土をつくること」も 10.4 ポイント減少している。

【図表 14-2 参照】

図表 14-2　男性が家事、育児、介護、地域活動等に積極的に参画するために必要なこと
（全体、性別、前回比較）



## ＜自由意見＞

男性のライフスタイルについて、寄せられた自由意見のなかから、年代別に掲載する。

注：【　】内は就労形態を示している。

### 〔1〕男性

＜20歳～24歳＞

・〔男性は仕事、女性は家事育児〕基本的には賛成であるが男性でも家事育児に向いている人、女性でも仕事の方が向いている人もいると思います。全て平等にではなくお互いに相手を認めて、話し合い、できることをしていくようにし、介護等、できない場合は、ヘルパーさん等の助けを借りるようにすれば良いと思います。【学生】

＜25歳～29歳＞

・勤めている職場が、ＷＬＢ（ワーク・ライフ・バランス）に力を入れており、子どもの行事への参加等もし易くなっているので、その他、多くの企業もＷＬＢに注力して世間が男性が休みをとることに寛容な社会になるといいと思う。【正規の社（職）員】

・長時間労働を是とし、美徳とする風潮を変えなければいけないと思いますが、変わらないと思います。【正規の社（職）員】

・男性が家事、育児に参加することへの抵抗感は、以前ほどないように思います。ただ、長時間勤務を強いられる職場は私の周りでも多いように感じます。残業時間が長い場所では、家庭での時間を持つことも難しいです。そこを変えていかなければ、社会のあり方は変わっていかないと思います。【正規の社（職）員】

・家庭を第一に考える人を理解してくれる人がいない。【正規の社（職）員】

＜30歳～34歳＞

・現在の社会通念に男性は仕事、女性は家事という考えが根底にあり、それにより「男性のライフスタイル」のあるべき姿が作られているとは思うが、雇用者が収益をあげる経済原則にしたがえば、出産などの期間がない男性を優遇してもおかしくはない。合理性に基づいて社会通念が形成されており、現状を変革させなければ男女同参画がなしえないという考えは、一部あやまりかもしれない。万人が納得する男女平等の姿を論じあうことが重要と考える。【正規の社（職）員】

・依然として男性が働き、女性が家事という考えが根底にはあり、それを変える必要がある。【正規の社（職）員】

・土日も仕事を持ち帰り、常に仕事に追われている。たまの休みは趣味に使い、家事や地域活動になかなか参加できない。【正規の社（職）員】

＜35歳～39歳＞

・育児休業を取れる社会になってほしいと思います。【正規の社（職）員】

・男女平等の名の元、職場でも女性をサポートする風土は醸成されているが、男性が自身の時間を使うための雰囲気はあまりない。女性は許容されるが、男性は許容されない場合が多い。【正規の社（職）員】

＜40歳～44歳＞

・育休、介護休業を取るのはよいことだと思います。しかし、休業する方の分の仕事を他の職員がしなければならない状況では、職場の理解は得られないばかりか、職員の不満がつのるだけです。休んだ人の仕事をする職員に対して、それを評価する制度（給与や昇進など）が確立しないと、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスは、絵に描いた餅になると思います。【正規の社（職）員】

・育児休業、介護休業は、職場の理解と補助制度が特に必要だと思う。【正規の社（職）員】

・子どもに対する育児、教育（自宅における）を、妻か夫かどちらが主導で行っていくかということで、夫婦間でよく悩む。【自営業・家族従業員】

・働き、子どもを育てることに男性も女性もないと思います。ただ、夫婦が２人とも正社員フルタイムでは育児をする時間が取れないため、どちらかが正社員以外の雇用形態になって家事育児を担当せざるを得ないのが現実と感じます（３世代同居は除く）。うちの場合は女性がフルタイムで働き、男性がパートタイムで働きながら育児をしています。【パート・アルバイト】

・正社員で働くとワーク・ライフ・バランスが悪くなる。日本社会の働き方を考える必要があると思う。【就労していない】

＜45歳～49歳＞

・仕事が中心になってしまっている。格差が大きいので会社での休日を少なく、収入を多くしないと生活が厳しい。ゆえに家庭に割く時間が少なくなる。【正規の社（職）員】

・法制備されても、簡単には仕事は休めない。【正規の社（職）員】

・日頃より、男女の格差を感じます。昔ながらの概念や風習、この部分は行政、会社、などがリードする必要性を感じます。個人的に考えがあっても、周囲の協力が無ければ、男性が家事、育児、介護を充実させるのは、今の世の中では厳しいのではないでしょうか？法律や会社の規程等では、ルール作りはされていますが、まだまだ男性にこのルールを適用するまでには至っていないと考えます。（感情論で…）【正規の社（職）員】

＜50歳～54歳＞

・男はこうあるべしという社会通念を変えないかぎり男は生きづらい。人によって様々な形がある。【正規の社（職）員】

・人によりケースバイケースだと思う。休むこと、いろいろなことに参画することは本人の気持だと思う。【正規の社（職）員】

・仕事中心からの生活を脱し、私生活とのバランスが上手く取れている、いわゆるワーク・ライフ・バランスを持っているライフスタイルに憧れます。未だに、仕事中心の生活を送っている自分としては、少しずつでも改善して、充実した人生を送りたいと考えています。数年前から思っていたのですが、未だにできていない姿の自分がいて、少しづつでも変えていきたいと思っています。【正規の社（職）員】

・男女平等、機会均等には賛成だが、家族（私の場合は妻と二人の成人した娘）を守るのは男の役割だと思いたい。（外敵からも、経済的にも精神的支えの上でも…）【正規の社（職）員】

・男女を問わず、職場を、一定期間、不在にした後の復帰についての保障が無い。制度は整えているものの、それを行使した後の扱いが明確でないことや、不利な扱いをした際の会社側への罰則が無いなど不備も多い。国がもう少し、企業より個人を大切に考えていなければ、これらを活用できる環境にはならないと思います。【正規の社（職）員】

・現在は「個」が尊重される時代、夫婦の形も変わりつつ、親との関わりも変わりつつある。ライフスタイルは多様な人それぞれの「価値感」があると思うので、私は外部サービスの充実を強く望む。親、子供、夫婦の面倒の見方は多様な方法があっていいと思う。【正規の社（職）員】

・個々のライフスタイルを主張、実践するのであれば社会、仕事での責任を果たすことが必須。これを行わず権利主張のみ行い自我を押し通すというスタイルが多いと感じる。育児・介護に男性が参加することは当然であるが仕事との両立、責任感の向上を啓発することが必要。それができてこそのライフスタイルでは？【経営者・事業者】

＜55歳～59歳＞

・それぞれの本人の価値感で、素直な気持ちで日頃過ごせれば良いと思っています。これが周囲に求めるライフスタイルですよというのはないと思います。日々変化している中で、一番必要なこと、物は、その時の気持ちで、決めていけば良いと思います。【正規の社（職）員】

・時間がある時は、自分の趣味を優先したいが、家族と過ごす時間も大切なので、せめて、週休２日制を完全、義務化を、各企業にすべきかな？【正規の社（職）員】

・過去の自分の経験や考え方を中心に回答しましたが、男女、変わりない育児や介護は、社会全体が、今大きく変わる段階だと思います。少子高齢化での社会、自分の在り方を学習したい…と思っています。【就労していない】

＜60歳以上＞

・今の若い人達は子どもの入学式、卒業式に休暇をとり、出席する人も増えてきたと思われる。私達の若い頃は、仕事が、一番で、家庭は二の次であった。最近は企業の理解も深まり、まだまだ十分とは言えないが、良い方向に向っていると思う。但し、中小企業の多い日本では難しいかもしれない。【正規の社（職）員】

・今は独り身で仕事をしているが、仕事をやめた後の生活に不安がある。ボランティア活動に参加するための情報があれば良いと思う。【正規の社（職）員】

・男性は仕事で忙しいが、何かできること、例えば食事の後の洗い物やかたづけ等、努力しています。【正規の社（職）員】

・定年するまで仕事に時間が取られて自由時間が少ない。【正規の社（職）員】

・どちらかと言えば仕事人間で、社会貢献ができてないことを反省。【正規の社（職）員】

・旧弊の代表的な家父長制、男尊女卑などは時代とともに変化している。今日の世は、男女それぞれが持つ考え方は男女同権になったと言えないまでも、確実に動いていると思います。【正規の社（職）員】

・高度経済成長期に比べたら随分変ってきている。男女共働きが増えてきていることが大きいと考える。【契約社（職）員（臨時・派遣含む）】

・社会との繋りを強く持ち、生きがいのある楽しい人生を送る。自分の存在価値を高められるよう、日頃から努力する。【経営者・事業者】

・自分自身、今でも男は一家の大黒柱で家族を守っていかなくてはという思いはあるが、現代では、女性が一家の大黒柱で働いている人も多数いる。そのようなことから、男だから女だから当然という考えは変えていかなくてはいけないと思う。【パート・アルバイト】

・夫婦が元気なら問題はないが、どちらかが病気や介護が必要な状態で歩けなくなった時、市や町のサポートがスムーズに受けられるのか不安だ。【パート・アルバイト】

・退職したら男はなるべく自分のことは自分でやるべきだ。【内職・在宅ワーク】

・会社を定年退職後、生活に関する家庭内の仕事分担は平等と思うが、男性は現役時代、家庭の仕事を経験していないので、妻に頼ることが多い。これからの社会は学校教育から男女平等論の基本を教え、習慣づけを教え込む必要あり。【就労していない】

・地域に親しみ楽しむこと。積極的に地域活動に参加すること。【就労していない】

・高齢男性を仕事や社会（地域）活動に参加させるように、行政や社会制度を整備して行く必要があると思います。高齢男性が家庭内や地域内で無為に暮らしているのは社会（国家）的損失です。【就労していない】

・定年で仕事を辞めて、１０年経過。自分の趣味だけで過ごして充分満足。これからの若い人は、結婚しても共稼ぎでないと生活できないと思う。我々の時代は夫が仕事、妻が家事、育児と分けても充分生活できたが、今の時代は不可能と思う。共稼ぎとなると男女間の平等が当然必要となる。社会制度（政治、職場を含めた）はどんどん変わる必要がでてくる。【就労していない】

・男女共同参画社会、ワーク・ライフ・バランスにしても、各人が参加する意識を持つことが重要。同時に、社会全体の意識の変革も必要と思う。【就労していない】

・社会活動への参加意識の確立を促す情報の発信が少ないし、そのツールも少ないと感じる。【就労していない】

・３０代～４０代は仕事第一であり、子どものことはパートの妻に全部任せていたことを少し反省している。【就労していない】

・現役での生活、リタイヤしてからの生活…と世代によっての役割分担があっても良い。もちろん、現役世代でも、参加できる地域活動もあると思うが、なかなか難しいのが現実だと思われる。【就労していない】

・それぞれの活動している場で、男女の区別なく、ふさわしい人を基準に活躍してもらう仕組みにしないといけません。男の頭もやわらかくしないといけません。口先で言っているだけの人がほとんどですので。【就労していない】

・職場内でのみに能力を発揮するのではなく、若い頃から地域社会に積極的に入りこむ行動力が必要ではないか。【就労していない】

## 〔2〕女性

＜20歳～24歳＞

・現代で仕事・家事の分担は結構されているが、私はどちらが何をやるべきとかということはないと思うし、したくない。あと、まだ学生なのでこのアンケートは考えづらいものがあった。大学と社会では全く環境が違うため。【学生】

＜25歳～29歳＞

・「男性の」ｏｒ「女性の」といった考えが自身そもそもあまりないので、特に何も感じません。【正規の社（職）員】

＜30歳～34歳＞

・男性に求めることは安定した収入です。適切な働き方で安定した生活が送れる収入が得られる社会になってほしいと思います。【正規の社（職）員】

・女性に対する支援はかなり充実しているように感じます。一方で男性が家事・育児をすることの必要性を理解している上司が少ないために、積極的に育児に参加しにくくなっています。その結果として急なお迎えなどは女性が対応せざるをえない状況があり、男性（夫の）上司の理解が重要と感じています。【正規の社（職）員】

・男性の生きづらさや男女共同参画への問題点は社会通念、慣習上まだまだ男性は仕事をしてあたりまえという前提があるからだと思う。保育参加には私が休みをとり出席するが、夫は「そんなことでは休めない」と言い、参加したことはない。共に正社員として働いているのにいつもおかしいと思う。【正規の社（職）員】

・家庭を持つと男性は養うために仕事となりますが、私はまだ子どもが小さいので、家事なども少しは手伝って欲しいと思ってしまいます。主婦に休みはありませんから。でも男性も大変なのはよくわかってます。感謝もしてます。難しい問題です。【専業主婦】

・共働きでもやはり男性の仕事の方が大変と思われがち。女性がフルタイムで働き、さらに家事、育児とがんばっていても手伝ってくれない男性は多い。でもそれが当たり前と思っている人は多いと思う。もっと男女平等とみんなが思えるようになれば男性のライフスタイルも変わってくるのだと思う。【就労していない】

＜35歳～39歳＞

・男性は子どもがいても長時間仕事をするのが当り前。又はそうしやすい。女性は子どもができると仕事をさしおいて家庭を優先せざるを得ない。その社会通念に１０年以上疑問を抱いています。男性の方が優偶されるのは能力の問題ではなく、こういう通念を地盤として男性の方が融通も効くし使いやすいからだと思います。社会や企業がそのような考えを変えていくには、子持ち男性への配慮はもちろんのこと、子どもを持たない人達、未婚の人達への配慮も欠かせないのではと考えます。どうぞ市政も頑張って下さい。【正規の社（職）員】

・男性の育休については、「必ず取ること」としない限り割合が上がることはないと思う。「ワンオペ育児」とは言うけど、仕事場でサポートがないと育児に参加したくてもできないという人はたくさんいると思う。【正規の社（職）員】

・残業、休日出勤が当たり前という感覚をなくして欲しい。【契約社（職）員（臨時・派遣含む）】

・１日の労働時間が長すぎて子どもとの時間が取れない。（かといって休んで欲しいわけではない）【パート・アルバイト】

・男性だからこうあるべき、女性だからこうあるべき、でもなく、男女平等に！ということでもなく、個人がどのような役割を果たすべきかは、各家庭によって違ってあたりまえであってほしい。現在は、男性に限らず、労働時間（通勤時間も含めて）が長すぎて、ワーク・ライフ・バランスの比重が完全にワークに傾いている。【専業主婦】

・仕事でほぼ１日拘束され、週の休みも１、２日しかない中で地域活動に参加するのは現状で無理だと考えます。労働時間の短縮及び賃金の是正（ベア）がなければ、到底難しいことだと思います。少なくとも、「男＝仕事」「女＝家庭」の認識をなくさなければ対等ではないかと。【専業主婦】

＜40歳～44歳＞

・男性だから、女性だから～すべき、というのではなく、柔軟に対応できるとよいと思います。【正規の社（職）員】

・子どもの世話を積極的に男性がしなければ、働き方改革の推進や時間外削減にはならない。なんちゃってイクメンが多すぎる。遊ぶだけではない子育ては！！【正規の社（職）員】

・男、女ではなく得意なことを得意な人がこなす社会になるとあらゆるロスがなくなると思う。女が、男が…はもう古いと思う。共働き家族においては、平等が基本がいいと思う。【正規の社（職）員】

・家事にせよ、育事にせよ、「母親を手伝う」というスタンスで取り組む傾向が見られるので、もっと主導的に、行うような意識に変えていかなければならないと思います。【パート・アルバイト】

・夫の職場では、育児休暇や介護休暇を取っている人がおらず、制度があっても、取りづらい環境にあります。もっと世の中が、そういうものを受け入れてあたりまえになって行ってくれると良いと思います。【パート・アルバイト】

・育児・介護に参画している方は少ないと思います（イクメンという言葉はありますが一部だけですよね）。介護については、少子化もあり、これからますます深刻化すると思われます。介護者が苦痛にならないよう、男性の会社の環境改善が求められると思います。【専業主婦】

＜45歳～49歳＞

・男性は、こうでなければいけないという固定観念を捨てて今の時代に合った生活をしていく。夫婦間であれば、お互い思いやる気持ちをもって生活することが大事なのではと思う。【正規の社（職）員】

・夫は子どもの頃から、男の方が立場が上であると、育てられてきている様子なので、家事はやってくれるけれども、あくまで手伝っているという意識である。育児に関しても、母親が中心となり、夫はサポートしている。不公平だと感じることが多いが、自分の世代では仕方がないのかもしれない。【正規の社（職）員】

・仕事ばかりで大変だと思います。だけど私も共働きなので家のことを手伝ってほしいと思います。お互いに働くだけでいっぱいです。【契約社（職）員（臨時・派遣含む）】

・男女問わず、その人らしく充実した生活を送るには、場の提供や働きかけも大切ですが、個々が自立する（している）ことだと思います。世代により、役割も変化していきますが、そうした変化に対応していけるよう柔軟な社会でなければ難しいと思います。個々の意識と、その時々の受け入れの窓口、まさに参画の地道な活動がカギになっていくのではないでしょうか。【自営業・家族従業員】

・収入は減らさず仕事をして、家事、育児などにも参加するのは、無理な家庭が多いと思う。男性のライフスタイルは、人それぞれではないかと思うので、このようなアンケートや、マスコミや政治家の理想社会をあてはめられると、女性の私でも違和感を感じる。男性のライフスタイルは、パートナーや家族で変わるのかもしれないとも思う。【パート・アルバイト】

・退職後、地域とのつながりがあると生きがいになることなど探しやすい。保育施設、高齢者施設、学校など分けられているが、コミュニティーのように出入りできると、負担者の（育児・介護）の軽減や孤立する人を減らすことにもなりそうかと思います。【パート・アルバイト】

・男性も家庭のことや地域活動に参加しやすくなるような仕事の仕方ができる社会になってほしい。【内職・在宅ワーク】

・育児休業や介護休業は女性でも取りにくいのだから男性なら、なおさら。男性が取りやすくするためには、誰でも休業できる風土が必要。そのためには、レジャー休業なども認めなければ、休業できない。周囲の人から休業する正当な理由がない人への心情的理解と支援が得られにくい。【専業主婦】

・理想は、男女が仕事、育児、介護に平等に参加し、社会も男女の仕事、育児、介護に寛容であること。地域のサービスが充実していること。休暇が長いこと。これらが改善されてくれば、少しづつ、男性が家庭や地域社会への活動の参加が増えていくであろうと思う。【専業主婦】

・ここ数年、家事、育児に参加していると感じています。【専業主婦】

・男性は外で働き、女性は家事をするという潜在意識が強いのか、家事を当然のようにしない、または手伝いという姿勢の人が、まだ多いように思える。男性が家庭内でお客様でいることをやめ、自分の家庭のことに自ら積極的に関わるようにすれば、男性自身も生活がより生き生きと楽しくなり、また女性も働く機会が増え、男女共同参画の社会の実現につながると思う。【就労していない】

＜50歳～54歳＞

・仕事中心で家庭での家事や育児は女性にまかせきりという感じが見られる。男性の意識の問題もあると考える。【正規の社（職）員】

・男性の方が給料は高いし、昇進もある。仕事は男性中心でまわっていると今でも思う。“男性は働くしかない”という感じなので、生活の自由が、女性よりも少ないと思う。【正規の社（職）員】

・女性の側の雇用形態、子育てでいったんキャリア形成が中断してしまうとどうしても正規雇用に就けない、戻れない、給与が低い…ここが変わらない限り、男性の家計担い手としての責任が大きいまま。女性の雇用と、男性のライフスタイル、社会全体で修正してくれればあるいは男女参画社会の実現になるか。【契約社（職）員（臨時・派遣含む）】

・家事や育児、介護などに参加したいと思っている男性は増えているとは思いますが、仕事をしている時間が多すぎて参加できないのがほとんどでは？家事も育児も介護も日常、続いているものなので休みだから、早く帰れたから…で参加しても気休めにしかならないと思う。責任を持って取り組めるだけの時間を費してこそ参加と呼べるのでは？【パート・アルバイト】

・男女共同参画社会は、理想ではありますが、現代では実現は遠い。それでも、少しずつの改善が、やがて成果を産むものと信じています。少子高齢化が進む中、世代を超え、男女の差を超え、支え合える社会を希望します。【パート・アルバイト】

・通勤時間を含め、仕事に拘束される時間が長い。昇進、給与アップのためには、仕事をセーブできない。個人のライフスタイルにおいて、何を大事にするかによって、仕事の仕方や、プライベートの過ごし方が違ってくると思うので、個人や家庭で生活スタイルが違って良い。【パート・アルバイト】

・有給休暇があっても取りづらいとか、仕事以外のことをする時間があまりないのではないか？と気の毒になることがあります。【パート・アルバイト】

・仕事ばかりが人生ではない。欧州を見習って欲しい。男性の育休、介護休を義務化すべし。【専業主婦】

・ワーク・ライフ・バランスが実現している方は、一部の安定した企業のみなのではないのでしょうか？主人が会社で休日出勤、残業が無くなったら、生活が困窮してしまう。主人のワークスタイルに合わせ、子どもの生活に合わせ、再就職のタイミングもつかめずに、悶々とした毎日を送っています。長期の休みがあっても、それを楽しめる程の収入は無い。【専業主婦】

＜55歳～59歳＞

・現状、男性（に限らないが）企業の長時間労働（仕事に拘束）されている時間が絶対的に長い。日本人の優秀な気配りが企業を長時間化、きめ細かな配慮などが仕事の時間の拘束化を産んでいる気がする。リスクを覚悟で割り切っていく世の中にならない限り仕事中心のライフスタイルは変わっていかないと感じる。男女とも自由時間が少ない。【正規の社（職）員】

・企業で働いている場合、仕事以外のことに時間を使うのは難しいと思う。【パート・アルバイト】

・私の家では、男性は外で働き、女性は家庭を守ると、昔からのしきたりです。とくに男性の考え、固定観念を変えない限りライフスタイルは変わらないです。社会的に教育を受ける段階から変えて下さい。【パート・アルバイト】

・残業が多すぎると思います。帰宅する時間が遅いため、家事や育児に時間が取れない。休みが少ないので休日は疲れて何もできないなど、仕事内容や会社に問題があると思います。定時で帰宅できるよう望みます。【就労していない】

＜60歳以上＞

・我夫も含め男性にはストレスの多い社会であり、又その重責を十分に果たせないまま、次の仕事へ向うといった切り換えを上手くできない姿をみています。できるだけ私自身（家族で）協力してあげたい、力になりたいと思っているので、力を抜き、仕事ばかり…仕事だから…にとらわれず自分に、家族に何が必要か、見極めて「自分自身の時間」を大切にしてのびのびと暮らして欲しい。【正規の社（職）員】

・若い男性は少しずつ変ってきているようですが、年齢の高い男性は、未だに、昔からの考え方が強く残っていて、家庭の中のことは、妻が全部やるべきだと思っているし、手伝わず、女性の負担が大きいので、男女共同参画社会の実現をできたら、良いと思います。社会通念や、しきたりを改めることは、大変だと思いますが…。【自営業・家族従業員】

・男性がリタイア後、地域での活動の仕方がわからず、そういう場所を教えてくれる所もわからない。【自営業・家族従業員】

・男性は、仕事だけしてれば良いという風潮があり、仕事以外の友人や知人が少ないことが問題である。【パート・アルバイト】

・男性が参加しやすい地域活動が少ない。【パート・アルバイト】

・男性が仕事に専念することは、社会的にも必要不可欠。近年あまりにも平等を掲げすぎて仕事、家事、育児の両立を目指すあまり、お父さんは疲れているように思う。女性（ママさん）も理解を深めてはいかが？【専業主婦】

・リタイアした後の充実したライフスタイルを得るために、若い時からの“このテーマ”が重要と思います。これからの意識改革が重要と思います。【専業主婦】

・結婚しない人が増えているのが心配です。結婚して子どもを育てやすい世の中になってほしい。人口がこれ以上減らないことを望む。男女が協力して愛情を持って社会生活を送ってほしい。若者が幸福を感じる日本、老人も幸福を感じる日本になってほしい！【専業主婦】

・７０才～７５才までの方でも、元気に過ごしている方が多くおられます。多方面での仕事があり働ける場がほしいです。【専業主婦】

・６０代の私の子育ての頃は、夫は家にいないのがあたりまえ。育休もなく、家事、育児、仕事としていましたが、今、子どもの夫は、家事、育児と協力的です。【専業主婦】

・若い方達は、育児・家事に積極的な人が増えているように思う。青年、壮年は退職後、積極的に地域活動等をしている人が増えているのでは？【専業主婦】

・親や妻の介護のために仕事ができなくなり、収入がなくなるようなことになるのは、おかしいと思います。これから老々介護も増えると思います。もっと充実したサポートを行政で考えてほしいと思います。【専業主婦】

・定年後は家事に協力してほしい。【専業主婦】

・男女の役割の古い考えをなくすべき。すべてフラットに、平等で良いと思う。【専業主婦】

・人として生きていく基本（炊事・洗濯など…）は、男・女関係なく人に頼らずできることは大切なこと。【専業主婦】

・自分の子育て時代と比べ、現在は、男性の育児、家事は珍しいことではなくなっていると思う。女性が就労するためには、男性との協力が必須。企業の理解が何より肝要と思う。【専業主婦】

・私は６０代ですが、仕事一筋で過ごしてきた男性は、家事ができません。この先、年をとっていくわけですが、食事も作れないのが、一番困っています。今の若い夫婦は、すべて役割分担という方々もいらっしゃるようですが、そこまでは望みませんが、これからの高齢化社会を迎えるためには、何か対策をしなければと思っています。【専業主婦】

・現役の時は一生懸命働いてこられたと思いますが、定年後の男性が何もすることがない様子で町にたくさんいらっしゃいます。まだ力がある年齢なのにお気の毒な気がしています。定年後も（短時間でも）経験を生かせるしくみになるといいと感じます。若い頃から、年とっても楽しめる趣味をしっかり見つけておくことが大切だと思います。世代によって収入が少なく安定せず結婚が考えられない男性がまわりに目立ちます。【専業主婦】

・自分を含め、息子３人も、夫婦協力してうまくやっている方で恵まれていると思う。【専業主婦】

・古い世代の男性の意識はすぐに変わるものではありませんが、若い世代が少しずつ社会を良い方向に変えていってくれることを願っています。若い世代が暮らしやすい世の中になるよう行政の後押しを切に願っております。【専業主婦】

・昔に比べて若い人たちが積極的に育児にかかわるようになり、よいことだと思います。これが当たり前になり、世の中の目も変わってくれば、もっと子どもを持ちたいという気持ちが上向きになってくるのでは？【専業主婦】

・少子化の現状において、育児、介護は、行政を巻き込んだ社会ぐるみで対処していかなければならないのでは？と考えます。家族間で対処するには、重い問題です。【専業主婦】

・男性が協力したい気持ちがあっても、仕事、通勤で帰りが遅く、疲れきっていました。社会（会社）が、もっとゆっくりとした時間を。【専業主婦】

・男女の別にかかわらず家庭・職場・地域で個性や得意分野を活かした役割分担による活動ができると望ましい。【専業主婦】

・定年後の過し方。もっと身近な町内活動等に参加すべき。地域の事をもっと知るべきである。現役世代が介護等で離職しないですむような制度を確立するべきだ。【就労していない】

・ボランティア活動の参加。参加する男性は多くいるが自分から行動しなければならない。女性は自分から積極的に行動できるが、地域に慣れない男性は、話を聞くまではできるが、それ以上進まない。手助けをしてあげてほしい。いろいろな活動の中で私は感じます。【就労していない】

・若い男性は積極的に家事をする人が多いようですが、年を取っていると何もしない人が多いような気がします。少しずつ男性も女性も関係なく仕事なり家事なり協力してできるような社会になってほしいと思います。【就労していない】

・リタイヤ後のライフスタイルを早期より準備できる働き方ができると良いですね。【就労していない】

・男性も定年、退職後は社会参加や家事に参加する方も増えています。在職中にも時間があれば参加できるのではないかと思います。日常的に仕事に費やす時間が多すぎるように思います。というより仕事と称し、家庭を顧みなかったりすることもあると思います。共に構成員であるという意識を持つことが大切かと思います。【就労していない】

・まず自分の仕事を十分に果たしてもらいたい。その上で地域活動のできる時間を取ることができるのであればそれは立派なことだと思います。【就労していない】

・まだまだ男性中心の社会が現状だと思います。子育ての段階から男女同等の教育をするべきです。そのような教育を受けた人たちが増えれば社会通念も変わってくるでしょう。【就労していない】

# Ⅲ　調査結果のポイント・前回調査との比較

## １．男女共同参画社会に関する意識について

**(1)「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和」という言葉の認知度**

**「男女共同参画社会」という言葉を知っている（聞いたことがある）**は 72.5%。

**【P13～P14 参照】**

**「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス)」という言葉を知っている（聞いたことがある）**は 65.2%。　**【P15～P16 参照】**

**(2)性別役割分担意識について**

**「男性は仕事､女性は家事･育児」という考え方について**､“賛成”は 38.8%､“反対”は 47.0%。

**【P17～P18 参照】**

**(3) 各分野の男女の地位**

**(A)「家庭生活で」**は、全体の 48.2%、女性の 56.3%が“男性の方が優遇されている”と回答。

**【P20 参照】**

**(B)「職場で」**は、全体の 60.5%、女性の 64.4%が“男性の方が優遇されている”と回答。

**【P21 参照】**

**(C)「地域社会で」**は、全体の 44.2%、女性の 51.0%が“男性の方が優遇されている”と回答。

**【P22 参照】**

**(D)「法律や制度の上で」**は、全体の 39.7%、女性の 47.3%が“男性の方が優遇されていると回答。　**【P23 参照】**

**(E)「社会通念・慣習・しきたりなどで」**は、全体の 73.5%、女性の 77.1%が“男性の方が優遇されている”と回答。　**【P24 参照】**

## ２．男性像について

**(1) 男性像について**

「男性は女性を守るべきだ」は 79.3%、「男性は妻子を養う責任がある」は 78.1%、「男性は結婚して家庭を持つべきだ」は 74.0%が“そう思う”と肯定的な考え。一方、「全ての最終的な決断は男性がするべきだ」は、69.5%が“そう思わない”と否定的な考え。

前回調査と比較すると、「男性は女性をリードするべきだ」「男性は妻子を養う責任がある」「一家の長は男性であるべきだ」「全ての最終的な決断は男性がするべきだ」「男性は女性を守るべきだ」の全ての男性像において、“そう思う”と回答した割合は減少しており、最も減少幅が大きいのは「一家の長は男性であるべきだ」で、15.2 ポイント減少。

**【P25～P26 参照】**

## ３．男性の家庭や地域での生活について

### (1)家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方について

#### ①希望と現状

(A)**「掃除、洗濯、炊事などの家事」**については、56.3%が「男女が同程度するべき」と希望しているものの、現状は“女性がしている”が 74.0%。 【P31～P32 参照】
前回調査と比較すると、希望では“女性がするべき”が 12.2 ポイント減少し、「男女が同程度するべき」が 11.5 ポイント増加。 【P27～P30 参照】

(B)**「子どもの世話、しつけや教育」**については、81.7%が「男女が同程度するべき」と希望しているものの、現状は「男女が同程度している」が 27.8%で、“女性がしている”が 48.7%。 【P33～P34 参照】

(C)**「家族の介護」**については、84.0%が「男女が同程度するべき」と希望しているものの現状は「男女が同程度している」が 20.4%、「わからない・していない」が 48.2%。 【P35～P36 参照】

(D)**「仕事」**については、49.3%が「男女が同程度するべき」、44.8%が“男性がするべき”と希望しているものの、現状は「男女が同程度している」が 20.5%、“男性がしている”が 47.0%、「わからない・していない」が 23.3%。 【P37～P38 参照】
前回調査と比較すると、希望では“男性がするべき”が 9.5 ポイント減少し、「男女が同程度するべき」が 11.1 ポイント増加。現状では“男性がしている”が 10.1 ポイント減少し、「わからない・していない」が 13.3 ポイント増加。 【P27～P30 参照】

(E)**「地域活動」**については、79.9%が「男女が同程度するべき」と答えているものの、現状は「男女が同程度している」が 29.2%。“女性がしている”も同率で 29.2%。 【P39～P40 参照】

**②就学前の子どもを持つ既婚者のうち、子どもの保育所や幼稚園への送迎について**、「週 5 日以上」との回答が最も高く、送りが 32.7%、迎えが 33.6%。「していない」との回答は、送りが 28.0%、迎えが 27.1%。 【P41 参照】
男性は該当者数が 50 人未満のため参考値にとどめるが、「送り」で「週 5 日以上」と回答した男性は 4.8%、女性は 50.8%、「していない」と回答した男性は 50.0%、女性は 13.8%である。また、「迎え」で「週 5 日以上」と回答した男性は 2.4%、女性は 53.8%、「していない」と回答した男性は 50.0%、女性は 12.3%である。 【P42～P43 参照】

### (2)男性の生きづらさについて

①“そう思わない”が 74.4%、“そう思う”が 23.5%。 【P44 参照】

②**「男性は生きづらい」と思う要因**で最も割合が高かったのは、「仕事をしていて当然であるという考え方があるから」で 64.8%。次いで、「家族を養う責任があるという考え方があるから」の 59.9%。 【P45 参照】

**⑶ 男性が普段の生活のなかでもっとほしいと感じている時間**

最も割合が高かったのは、「自由な時間（趣味にかける時間やゆっくりする時間も含む）」で 36.6%。次いで、「現状で満足しているため、もっとほしい時間はない」の 35.6%。

前回調査と比較すると、「現状で満足しているため、もっとほしい時間はない」との回答が 9.5 ポイント増加。 【P46～P48 参照】

## ４．男性が家事、育児、介護、地域活動を行うことについて

**⑴ 男性が掃除、洗濯、炊事などの家事を担うために必要なこと**

最も割合が高かったのは、「妻・パートナーの助け」で 59.8%。次いで、「男性が家事をすることに対する職場の理解と補助制度」の 35.7%。

前回調査と比較すると、「家族（親や子どもなど）の助け」が 9.0 ポイント、「家事に関する情報提供・講座やセミナー（料理教室など）の充実」が 6.2 ポイント減少。一方、「特に必要なものはない」が 7.4 ポイント増加。 【P49～P50 参照】

**⑵ 男性が育児を担うために必要なこと**

最も割合が高かったのは、「妻・パートナーの助け」で 63.3%。次いで、「男性が育児をすることに対する職場の理解と補助制度」の 61.4%。

前回調査と比較すると、「行政からの具体的支援（企業への働きかけ・金銭的支援等）」が 6.3 ポイント減少。 【P51～P52 参照】

**⑶ 男性が育児休業を取ることについて**

① “取りたい・取った方がよい” との回答は、69.3%。

前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。 【P53～P54 参照】

**②男性が育児休業を取りたくない、または取らないほうがよいと思う理由**

最も割合が高かったのは、「自分の仕事に責任があるから」で 61.5%。次いで、「休業すると経済的に困るから」の 38.0%、「職場の理解が得られないから」の 36.5%。

前回調査と比較すると、「自分の仕事に責任があるから」との回答が 7.8 ポイント増加。一方、「職場の理解が得られないから」は 9.9 ポイント減少。 【P55～P56 参照】

**⑷ 男性が家族の介護を担うために必要なこと**

最も割合が高かったのは、「妻・パートナーの助け」で 63.9%。次いで、「男性が介護をすることに対する職場の理解と補助制度」の 61.9%、「ヘルパーやデイサービスなどの外部サービスの充実」の 61.4%。

前回調査と比較すると、「行政からの具体的支援（企業への働きかけ・金銭的支援等）」との回答が 6.1 ポイント減少。 【P57～P58 参照】

**(5) 男性が介護休業を取ることについて**

①"取りたい・取った方がよい"との回答は 76.6%。

前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。 【P59～P60 参照】

**②男性が介護休業を取りたくない、または取らないほうがよいと思う理由**

最も割合が高かったのは、「自分の仕事に責任があるから」の 54.2%。次いで、「休業すると経済的に困るから」の 48.1%。

前回調査と比較すると、「自分の仕事に責任があるから」との回答が 8.4 ポイント増加。一方、「休業すると経済的に困るから」は、6.1 ポイント減少。 【P61～P62 参照】

**(6) 男性が地域活動に参加することについて**

①"参加したい・参加した方がよい"との回答は 78.3%。

前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。 【P63～P64 参照】

**②男性が地域活動に積極的に参加する際に苦労すること、または参加できない要因となること**で最も割合が高かったのは、「活動する時間がないこと」で 50.7%。次いで、「参加するきっかけが得られないこと」の 38.4%、「地域の人との付き合いが疎遠になっていること」の 36.6%。

前回調査と比較すると、「身近に参加したいと思う適当な活動や共感する団体がないこと」は 8.6 ポイント、「身近な団体や活動内容に関する情報がないこと」は 8.3 ポイント、「活動する時間がないこと」は 6.2 ポイント減少。 【P65～P66 参照】

## ５．「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現について

**(1) 男性が家事、育児、介護、地域活動等に積極的に参画するために必要なこと**

最も割合が高かったのは、「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」で 45.5%。次いで、「男女の役割分担について社会通念・慣習・しきたりを改めること」の 40.5%、「多様な雇用形態を推進すること（例:労働時間の短縮やフレックスタイム制など）」の 36.4%。

前回調査と比較すると、「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」が 11.8 ポイント増加。一方、「保育施設・ベビーシッター、高齢者施設・ヘルパーやデイサービスなどの外部サービスを充実すること」が 11.4 ポイント減少。 【P67～P68 参照】

# Ⅳ　今後に向けて

## 男女共同参画社会に関する意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、“賛成”が 38.8%、“反対”が 47.0%と、“反対”が“賛成”を上回る結果となった。性別にみると、“賛成”は女性が 30.6%、男性が 49.0%と、働き手や稼ぎ手は男性で、女性は家庭を守るという固定的性別役割分担意識が男性により強く残っていることがわかった。「男だからこうあるべき、女だからこうあるべき」といった性別によって固定的に役割を決めつける意識の改革を図るため、広報・啓発が一層必要である。

また、「男女共同参画社会」、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉を知っている（聞いたことがある）と回答した人がそれぞれ 72.5%、65.2%であることから、社会に浸透してきていることが伺える。

## 家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方

全ての項目で、希望では男女が同程度すべきとの回答が多かったのに対し、現状では「掃除、洗濯、炊事などの家事」（74.0%）や「子どもの世話、しつけや教育」（48.7%）などは“女性がしている”との回答が多く、「仕事」（47.0%）は、“男性がしている”との回答が多かった。

家庭生活においては、男女が家事・育児等へ共同して参画することが大切であるが、家事・育児等に参画する男性の割合は依然として低い現状にある。男性の家庭生活への積極的な参画を促すとともに、仕事と生活の調和が実現できるよう、多様で柔軟な働き方を可能とする環境を整備していくことが必要である。

## 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参画するために必要なこと

「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」が 45.5%と最も割合が高い。20～40 代の男性の自由意見にも「長時間勤務を強いられ、家庭での時間を持つことが難しい」や「土日も仕事を持ち帰り、常に仕事に追われている」等の声があるように、仕事が生活の中心となり、家庭生活や地域活動に参画する時間が確保できない状況であることが伺える。

このことから、個々のライフスタイルや諸事情に応じた休暇を取得しやすい職場の雰囲気づくりや、長時間労働の抑制等働き方の見直しにより、男性の家庭生活や地域活動に参画しやすい環境を整備することが必要である。

# Ⅴ　調査票

## 男性のライフスタイルに関する意識調査

### 調査へのご協力のお願い

千葉市男女共同参画センターでは、男女共同参画社会の実現にむけて、さまざまな事業を展開しております。

本調査は、千葉市にお住まいの皆さまを対象に、男性のライフスタイルに関する意識や家庭、仕事、地域活動に対する考え方等について、お聞きするものです。

**今回、千葉市内にお住まいの満２０歳以上の男女各１，５００名の方を、無作為（ランダム）に抽出し、アンケート調査票を郵送させていただきました。**

調査票及び集計結果は、すべて「○○という回答が△△%」のように統計的に処理いたしますので、**ご回答いただいた方が特定されることは一切ございません。**

趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、本調査は、千葉市の委託を受け、千葉市男女共同参画センターが行うものです。

これまでに当センターが行った調査結果の概略は、ホームページに記載しています。

〔ホームページ　http://www.chp.or.jp/danjo/research/research.html〕

### ◆ご記入にあたってのお願い◆

**１．宛名にあるご本人様がご記入下さい。**
**ご本人様が回答できない場合は、お手数ですが、白紙のままご返送下さい。**

**２．平成２９年９月１日現在の状況でお答え下さい。**

**３．ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をつけて下さい。**
**質問によって、○が１つの場合と、複数の場合があります。**

**４．質問文の指示にそってご記入下さい。**

**５．ご記入後、同封の返信用封筒に入れて ９月１５日（金）までにポストにご投函下さい。**
**差出人名、切手は不要です。**

平成２９年９月

調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

《お問い合わせ先》

**千葉市男女共同参画センター　　調査担当**
〒260-0844　千葉市中央区千葉寺町１２０８－２
千葉市ハーモニープラザ内
**電話：０４３－２０９－８７７１**

## あなたご自身と、あなたのご家族についてお聞きします。

Ｆ１＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたの性別について、あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

| | |
|---|---|
| １．男性(44.5%) | ２．女性(55.5%) |

Ｆ２＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたの年齢はおいくつですか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

| | | |
|---|---|---|
| １．20～24 歳(2.4%) | ２．25～29 歳(3.6%) | ３．30～34 歳(4.7%) |
| ４．35～39 歳(7.0%) | ５．40～44 歳(8.8%) | ６．45～49 歳(8.5%) |
| ７．50～54 歳(8.8%) | ８．55～59 歳(7.5%) | ９．60 歳以上(48.2%) |

Ｆ３＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたの就労状況について、あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

| | |
|---|---|
| １．正規の社（職）員(26.4%) | ２．契約社（職）員（臨時・派遣を含む）(6.2%) |
| ３．経営者・事業者(3.3%) | ４．自営業・家族従業員(3.7%) |
| ５．自由業(0.5%) | ６．パート・アルバイト(15.1%) |
| ７．内職・在宅ワーク(0.4%) | ８．専業主婦・主夫(19.3%) |
| ９．学生(1.1%) | １０．その他（0.3%） |
| １１．就労していない(22.6%) | |

Ｆ４（１）＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたはご結婚（事実婚※を含む）されていますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

| | | |
|---|---|---|
| １．未婚(16.0%) | ２．既婚（事実婚を含む）(72.4%) | ３．離死別(11.1%) |

※事実婚とは、婚姻届けを出していないため法律上の夫婦とは認められないが、事実上婚姻状態にある関係のこと。

（２）＜**Ｆ４（１）で２を選んだ方**にお聞きします。＞

配偶者・パートナーとの就労形態について、あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

１．共働き（パートタイム・内職なども含む）(38.5%)
２．夫・パートナーのみ就労(24.1%)
３．妻・パートナーのみ就労(4.4%)
４．共に未就労(23.2%)
５．その他（0.7%）

Ｆ５（１）＜**すべての方**にお聞きします。＞

お子さんはいらっしゃいますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

１．いる(73.1%)　　２．いない(25.4%)

（２）＜**Ｆ５（１）で１を選んだ方**にお聞きします。＞

お子さんの現状について、あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。
お子さんが複数名いらっしゃる場合は、年齢が**一番下のお子さん**についてお答え下さい。

１．乳児（１歳未満）(2.9%)
２．幼児（満１歳～小学校就学前）(10.1%)
３．小学生(7.6%)
４．中学生(4.8%)
５．高校・大学・大学院生（短大・専門学校等を含む）(9.0%)
６．学校は卒業した（中退を含む）(59.6%)
７．その他（3.9%）

Ｆ６＜**すべての方**にお聞きします。＞

現在、あなたと一緒に住んでおられるご家族について、あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

１．一人暮らし（14.5%）
２．夫婦のみ（事実婚を含む）(30.6%)
３．２世代世帯（親と子の２世代）(44.6%)
４．３世代世帯（親と子と孫の３世代）(7.5%)
５．その他（1.8%）

## 男女共同参画社会に関する意識についてお聞きします。

問１＜**すべての方**にお聞きします。＞
あなたは以下の言葉を知っていますか。あてはまる番号をそれぞれ**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

| | 言葉も内容も知っている | 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない | 言葉も内容も知らない |
|---|---|---|---|
| 男女共同参画社会※1 | 38.8% | 33.7% | 26.0% |
| 仕事と生活の調和※2（ワーク・ライフ・バランス） | 34.5% | 30.7% | 31.4% |

※1 男女共同参画社会は、『すべての市民が、男女の別なく個人として尊重され、お互いに対等な立場であらゆる分野に参画する機会が確保され、責任を分かちあう』社会です。（出典：千葉市男女共同参画ハーモニー条例前文）

※2 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会は、『国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会』です。（出典：内閣府　ワーク・ライフ・バランス憲章）

問２＜**すべての方**にお聞きします。＞
あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

１．賛成(6.2%)
２．どちらかといえば賛成(32.7%)
３．どちらかといえば反対(28.2%)
４．反対(18.8%)
５．わからない(12.2%)

問３＜**すべての方**にお聞きします。＞
あなたは現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次の（Ａ）～（Ｅ）の事項について、あてはまる番号を**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

| | 男性の方が非常に優遇されている | どちらかといえば男性の方が優遇されている | 平等になっている | どちらかといえば女性の方が優遇されている | 女性の方が非常に優遇されている | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| (A)家庭生活で | 8.9% | 39.3% | 29.6% | 9.6% | 2.2% | 8.3% |
| (B)職場で | 16.9% | 43.6% | 17.1% | 5.6% | 1.7% | 10.4% |
| (C)地域社会で | 6.6% | 37.6% | 29.8% | 6.6% | 1.3% | 15.4% |
| (D)法律や制度の上で | 7.0% | 32.7% | 33.6% | 7.0% | 1.7% | 15.1% |
| (E)社会通念・慣習・しきたりなどで | 16.8% | 56.7% | 10.6% | 4.4% | 0.7% | 8.3% |

## 男性のライフスタイルに関する意識についてお聞きします。

問４＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたがお考えの男性像についてお聞きします。次の（Ａ）～（Ｆ）の事項について、あてはまる番号を**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

| | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そうは思わない |
|---|---|---|---|---|
| (A)男性は結婚して家庭を持つべきだ | 29.4% | 44.6% | 9.2% | 14.7% |
| (B)男性は女性をリードするべきだ | 14.8% | 44.8% | 19.0% | 18.8% |
| (C)男性は妻子を養う責任がある | 34.3% | 43.8% | 10.2% | 9.9% |
| (D)一家の長は男性であるべきだ | 16.7% | 37.1% | 20.8% | 23.3% |
| (E)全ての最終的な決断は男性がするべきだ | 6.8% | 21.8% | 28.1% | 41.5% |
| (F)男性は女性を守るべきだ | 34.9% | 44.4% | 8.8% | 9.7% |

問５　家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方についてお聞きします。

（１）＜**すべての方**にお聞きします。＞

次の（Ａ）～（Ｅ）の事項について、あなたの希望に最も近いものは何ですか。あてはまる番号を**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

| | | 男性のみがするべき | 主に男性がするべき | 男女が同程度するべき | 主に女性がするべき | 女性のみがするべき | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭 | (A)掃除、洗濯、炊事などの家事 | 0.1% | 0.3% | 56.3% | 37.2% | 0.9% | 3.3% |
| | (B)子どもの世話、しつけや教育 | 0.2% | 0.6% | 81.7% | 12.9% | 0.3% | 2.4% |
| | (C)家族の介護 | 0.1% | 0.8% | 84.0% | 7.1% | 0.4% | 5.9% |
| (D)仕事 | | 2.4% | 42.4% | 49.3% | 0.1% | 0.0% | 3.9% |
| (E)地域活動 | | 0.6% | 5.6% | 79.9% | 4.0% | 0.3% | 7.7% |

（２）＜**既婚（事実婚を含む）の方**にお聞きします。＞

次の（A）～（E）の事項について、配偶者・パートナーとの現状に最も近いものは何ですか。あてはまる番号を**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

| | | 男性のみがしている | 主に男性がしている | 男女が同程度している | 主に女性がしている | 女性のみがしている | わからない・していない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭 | (A)掃除、洗濯、炊事などの家事 | 0.5% | 1.1% | 22.4% | 57.1% | 16.9% | 0.5% |
| | (B)子どもの世話、しつけや教育 | 0.1% | 0.4% | 27.8% | 42.0% | 6.7% | 17.9% |
| | (C)家族の介護 | 0.1% | 1.3% | 20.4% | 18.6% | 5.2% | 48.2% |
| (D)仕事 | | 18.1% | 28.9% | 20.5% | 1.3% | 4.0% | 23.3% |
| (E)地域活動 | | 2.9% | 14.5% | 29.2% | 21.7% | 7.4% | 21.4% |

（３）＜**既婚（事実婚を含む）の方のうち、お子さん（就学前児）が保育所・幼稚園等に入所・入園している方**にお聞きします。＞

あなたは普段、週何日くらいお子さんを保育所・幼稚園等へ送迎していますか。あてはまる番号を**１つずつ**選んで○をつけて下さい。

| | 週1日 | 週2日 | 週3日 | 週4日 | 週5日以上 | していない |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 送　り | 1.9% | 4.7% | 2.8% | 4.7% | 32.7% | 28.0% |
| 迎　え | 2.8% | 4.7% | 1.9% | 4.7% | 33.6% | 27.1% |

※通園バス等を利用している方は、通園バスのバス停や集合場所までの送迎についてお答え下さい。

問６＜**すべての方**にお聞きします。＞

（１）あなたは、普段の仕事や生活の中で「男性は生きづらい」と思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。
※男性は自分のことを、女性は「男性は生きづらい」と思うかをお答え下さい。

１．とてもそう思う(1.8%) ２．そう思う(21.7%) ３．あまりそう思わない(49.6%) ４．そう思わない(24.8%)

（２）＜**問６（１）で１または２を選んだ方**にお聞きします＞
その要因は何ですか。あてはまる番号を**すべて**選んで○をつけて下さい。
※男性は自分のことを、女性はその要因だと思うことをお答え下さい。

１．仕事をしていて当然であるという考え方があるから(64.8%)
２．職場などで昇格を期待されるから(28.1%)
３．職場や地域活動での役割（分量・分担等）が多いから(27.3%)
４．職場や地域活動でリーダーシップ（最終的な決断など）を求められるから(23.2%)
５．家族を養う責任があるという考え方があるから(59.9%)
６．家事・子育て・介護を担わせてもらえないから(2.2%)
７．仕事と家庭（家事・子育て・介護）の両立を求められるから(27.7%)
８．弱音を吐くべきではないという考え方があるから(37.8%)
９．女性をリードしなければならないという考え方があるから(20.2%)
１０．女性を守るべきという考え方があるから(24.0%)
１１．自由に使えるお金が少ないから(28.5%)
１２．自分の自由な時間が持てないから(25.8%)
１３．その他（9.7%）

問７＜**男性の方**にお聞きします。＞

あなたは、普段の生活のなかで、どのような時間がもっとほしいと思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

１．自由な時間（趣味にかける時間やゆっくりする時間も含む）(36.6%)
２．睡眠・休息をする時間(8.3%)
３．仕事・勉強をする時間(2.4%)
４．地域・社会活動に参加する時間(2.2%)
５．家族と過ごす時間(10.1%)
６．友人と過ごす時間(3.4%)
７．現状で満足しているため、もっとほしい時間はない(35.6%)

問８＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、男性が**掃除、洗濯、炊事などの家事**を担うために、何が必要だとお考えですか。あてはまる番号を**すべて**選んで○をつけて下さい。

１．妻・パートナーの助け(59.8%)
２．家族（親や子どもなど）の助け(30.7%)
３．隣人の助け(3.0%)
４．地域サークルやボランティアの助け(3.6%)
５．男性が家事をすることに対する職場の理解と補助制度(35.7%)
６．家事に関する情報提供・講座やセミナー（料理教室など）の充実(14.7%)
７．その他（9.2%）
８．特に必要なものはない(15.6%)

問９＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、男性が**育児**を担うために、何が必要だとお考えですか。あてはまる番号を**すべて**選んで○をつけて下さい。

１．妻・パートナーの助け(63.3%)
２．家族（親や子どもなど）の助け(44.9%)
３．隣人の助け(8.5%)
４．地域サークルやボランティアの助け(11.3%)
５．男性が育児をすることに対する職場の理解と補助制度(61.4%)
６．保育施設やベビーシッターなど外部サービスの充実(30.8%)
７．育児に関する情報提供・講座やセミナーの充実(21.6%)
８．行政からの具体的支援（企業への働きかけ・金銭的支援等）(40.8%)
９．その他（5.2%）
10. 特に必要なものはない(6.6%)

問１０　育児を支援する制度である「（育児・介護休業法上の）育児休業」についてお聞きします。

（１）＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、男性が育児休業を取ることについて、どのように思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

１．積極的に取りたい・取った方がよい(31.1%)
２．どちらかといえば取りたい・取った方がよい(38.2%)
３．どちらかといえば取りたくない・取らない方がよい(13.0%)
４．取りたくない・取らない方がよい(3.9%)
５．わからない(11.2%)

（２）＜**問１０（１）で３、４を選んだ方**にお聞きします。＞

あなたは、どうして男性が育児休業を取りたくない、または取らない方がよいと思いますか。あてはまる番号を**すべて**選んで○をつけて下さい。

１．育児は母親が担うことだと思うから(19.8%)
２．休業すると経済的に困るから(38.0%)
３．自分の仕事に責任があるから(61.5%)
４．今後の昇給・昇格に影響が出ると思うから(31.8%)
５．職場の理解が得られないから(36.5%)
６．周囲の目が気になるから(15.1%)
７．その他（6.8%）

問１１＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、男性が**家族の介護**を担うために、何が必要だとお考えですか。あてはまる番号を**すべて**選んで○をつけて下さい。

１．妻・パートナーの助け(63.9%)
２．家族（親や子どもなど）の助け(56.3%)
３．隣人の助け(11.1%)
４．地域サークルやボランティアの助け(22.0%)
５．男性が介護をすることに対する職場の理解と補助制度(61.9%)
６．ヘルパーやデイサービスなどの外部サービスの充実(61.4%)
７．介護に関する情報提供・講座やセミナーの充実(32.0%)
８．行政からの具体的支援（企業への働きかけ・金銭的支援等）(55.3%)
９．その他（2.9%）
10．特に必要なものはない(2.0%)

問１２　介護を支援する制度である「（育児・介護休業法上の）介護休業」についてお聞きします。

（１）＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、男性が介護休業を取ることについて、どのように思いますか。あてはまる番号を**１つ**選んで○をつけて下さい。

１．積極的に取りたい・取った方がよい(35.4%)
２．どちらかといえば取りたい・取った方がよい(41.2%)
３．どちらかといえば取りたくない・取らない方がよい(9.9%)
４．取りたくない・取らない方がよい(1.6%)
５．わからない(9.7%)

（２）＜**<u>問１２（1）で３、４を選んだ方</u>**にお聞きします。＞

あなたは、どうして男性が介護休業を取りたくない、または取らない方がよいと思いますか。あてはまる番号を**<u>すべて</u>**選んで○をつけて下さい。

１．介護は女性が担うことだと思うから(6.1%)
２．休業すると経済的に困るから(48.1%)
３．自分の仕事に責任があるから(54.2%)
４．今後の昇給・昇格に影響が出ると思うから(30.5%)
５．職場の理解が得られないから(42.0%)
６．周囲の目が気になるから(12.2%)
７．その他（12.2%）

問１３　男性が地域活動に参加することについてお聞きします。

（１）＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、男性が地域活動に参加することについて、どのように思いますか。あてはまる番号を**<u>１つ</u>**選んで○をつけて下さい。

１．積極的に参加したい・参加した方がよい(30.7%)
２．どちらかといえば参加したい・参加した方がよい(47.5%)
３．どちらかといえば参加したくない・参加しない方がよい(8.1%)
４．参加したくない・参加しない方がよい(2.3%)
５．わからない(9.1%)

（２）＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、男性が地域活動に積極的に参加する際に苦労すること、また参加できない要因となることはどんなことだと思いますか。あてはまる番号を**<u>３つまで</u>**選んで○をつけて下さい。

１．活動する時間がないこと(50.7%)
２．活動に興味が持てないこと(29.1%)
３．参加するきっかけが得られないこと(38.4%)
４．身近な団体や活動内容に関する情報がないこと(21.0%)
５．身近に参加したいと思う適当な活動や共感する団体がないこと(19.2%)
６．活動団体のメンバーが固定化していること(15.3%)
７．身近に一緒に参加できる人がいないこと(20.6%)
８．地域の人との付き合いが疎遠になっていること(36.6%)
９．活動によって得られるメリットがないこと(10.6%)
１０．家族や職場の理解が得られないこと(9.1%)
１１．その他（2.5%）

問１４＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたは、男性が、家事、育児、介護、地域活動等に積極的に参画していくために、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要だと思う番号を**３つまで**選んで○をつけて下さい。

１．男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりを改めること(40.5%)
２．仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること(45.5%)
３．家庭や地域活動に取り組む男性を奨励する社会的風土をつくること(30.0%)
４．多様な雇用形態を推進すること（例：労働時間の短縮やフレックスタイム制など）(36.4%)
５．保育施設・ベビーシッター、高齢者施設・ヘルパーやデイサービスなどの外部サービスを充実すること(34.9%)
６．男女共同参画に関する学習機会・啓発活動を充実すること(9.0%)
７．仕事と家庭の両立などに関する相談窓口を充実すること(5.8%)
８．家族内での役割分担について十分に話し合い、決めること(24.2%)
９．ボランティア活動などの地域の情報を収集・提供すること(8.6%)
１０．地域活動をサポートする体制を充実すること(12.9%)
１１．その他（2.9%）
１２．特に必要なものはない(2.0%)

問１５＜**すべての方**にお聞きします。＞

あなたが日頃、「男性のライフスタイル」について感じていることがありましたら、お書き下さい。（自由記述）

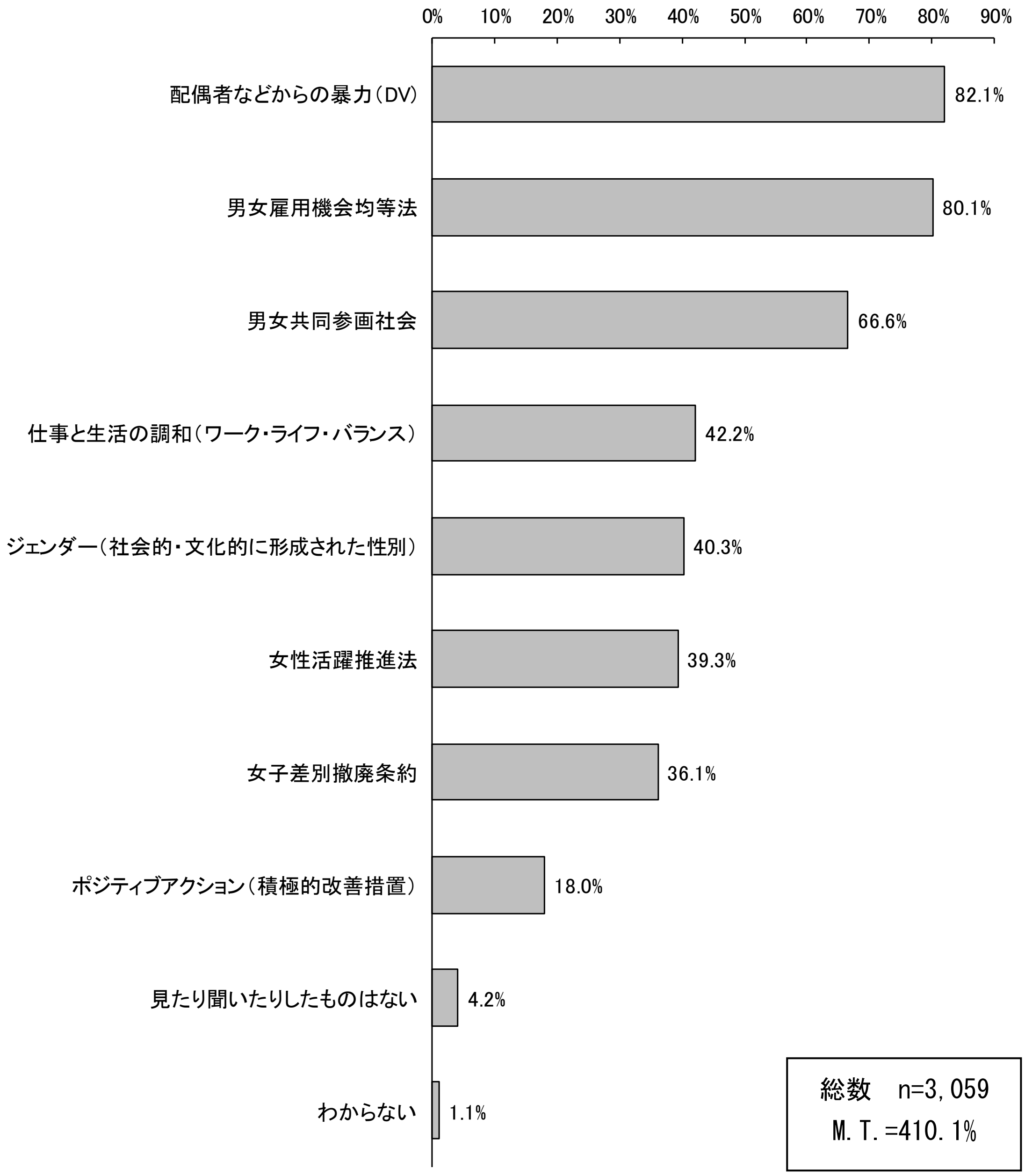
アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
同封の封筒により、９月１５日（金）までにご投函をお願いします。

# Ⅵ　巻末資料

【資料】内閣府（男女共同参画局）『男女共同参画社会に関する世論調査』（平成 28 年度）より
調査対象：全国の 18 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人
調査時期：平成 28 年 8 月～9 月
調査方法：調査員による個別面接聴取法
参考 URL：http://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-danjo/index.html

男女共同参画に関する用語の周知度

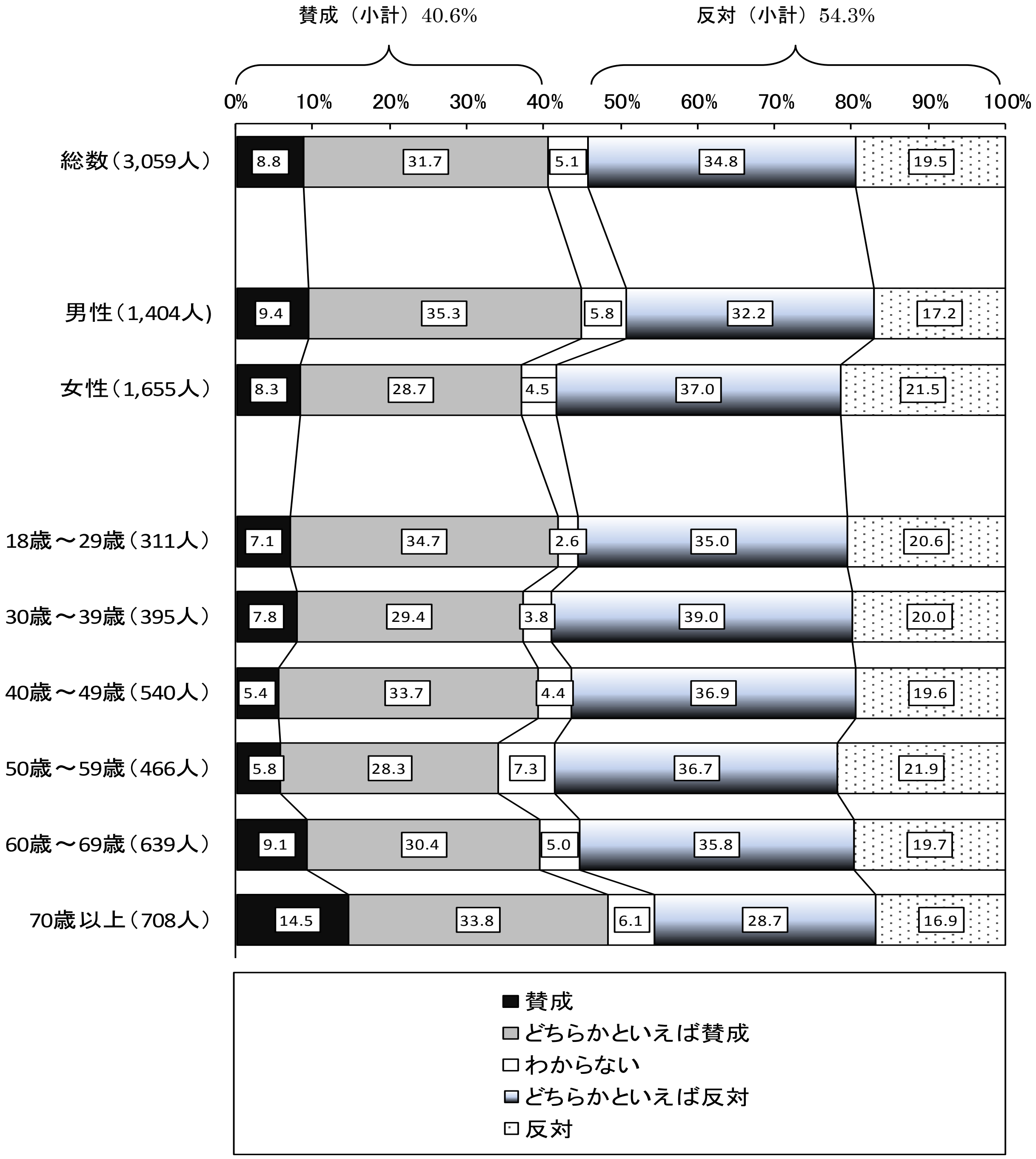
Q　これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。（複数回答）



「夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する意識

Q　「夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである」という考え方について，あなたはどうお考えですか。この中から１つだけお答えください。

・賛成
・どちらかといえば賛成
・どちらかといえば反対
・反対

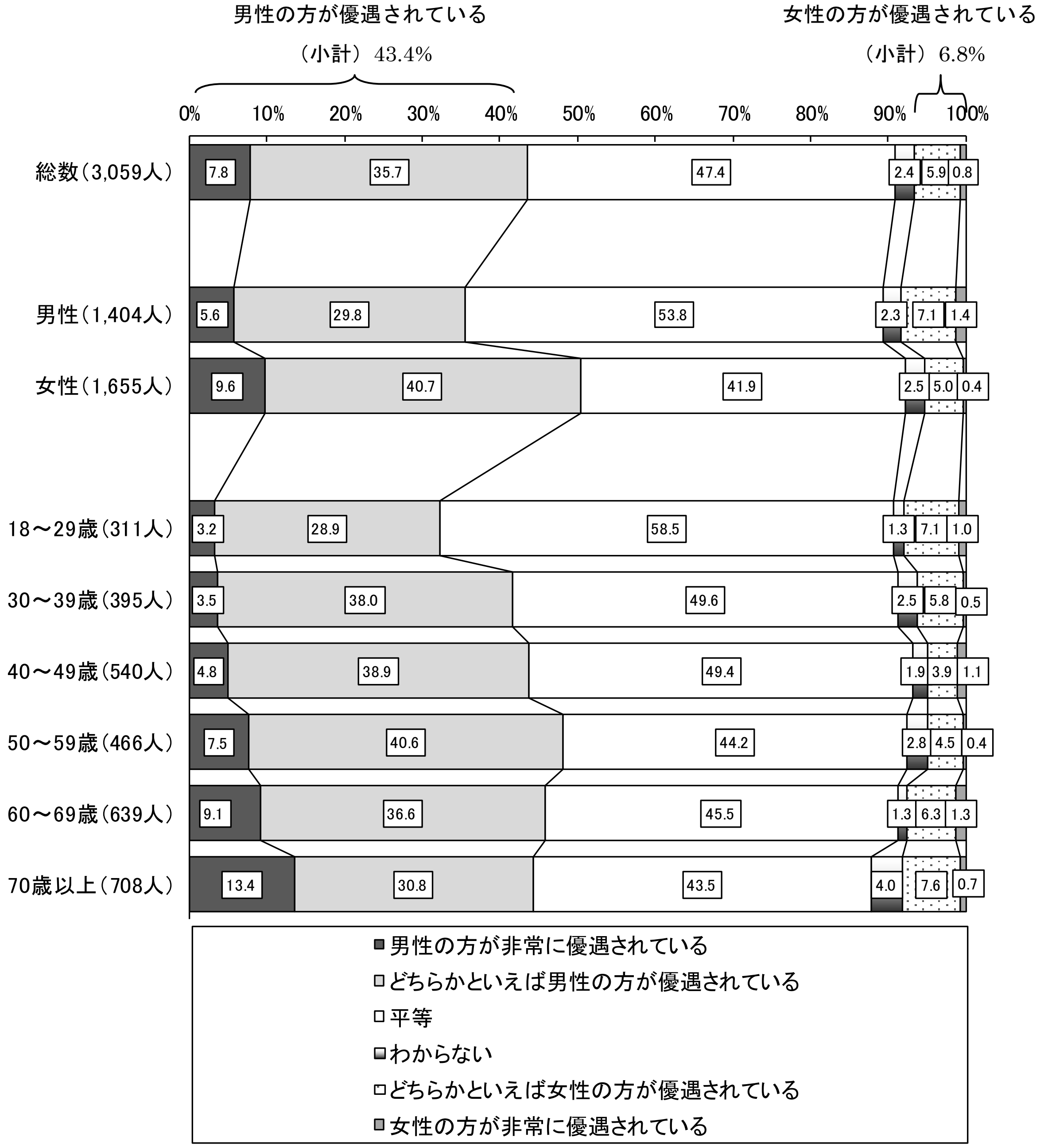


各分野の男女の地位の平等感

Q　あなたは，今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの気持ちに最も近いものを１つだけお答えください。

・男性の方が非常に優遇されている
・どちらかといえば男性の方が優遇されている
・どちらかといえば女性の方が優遇されている
・女性の方が非常に優遇されている

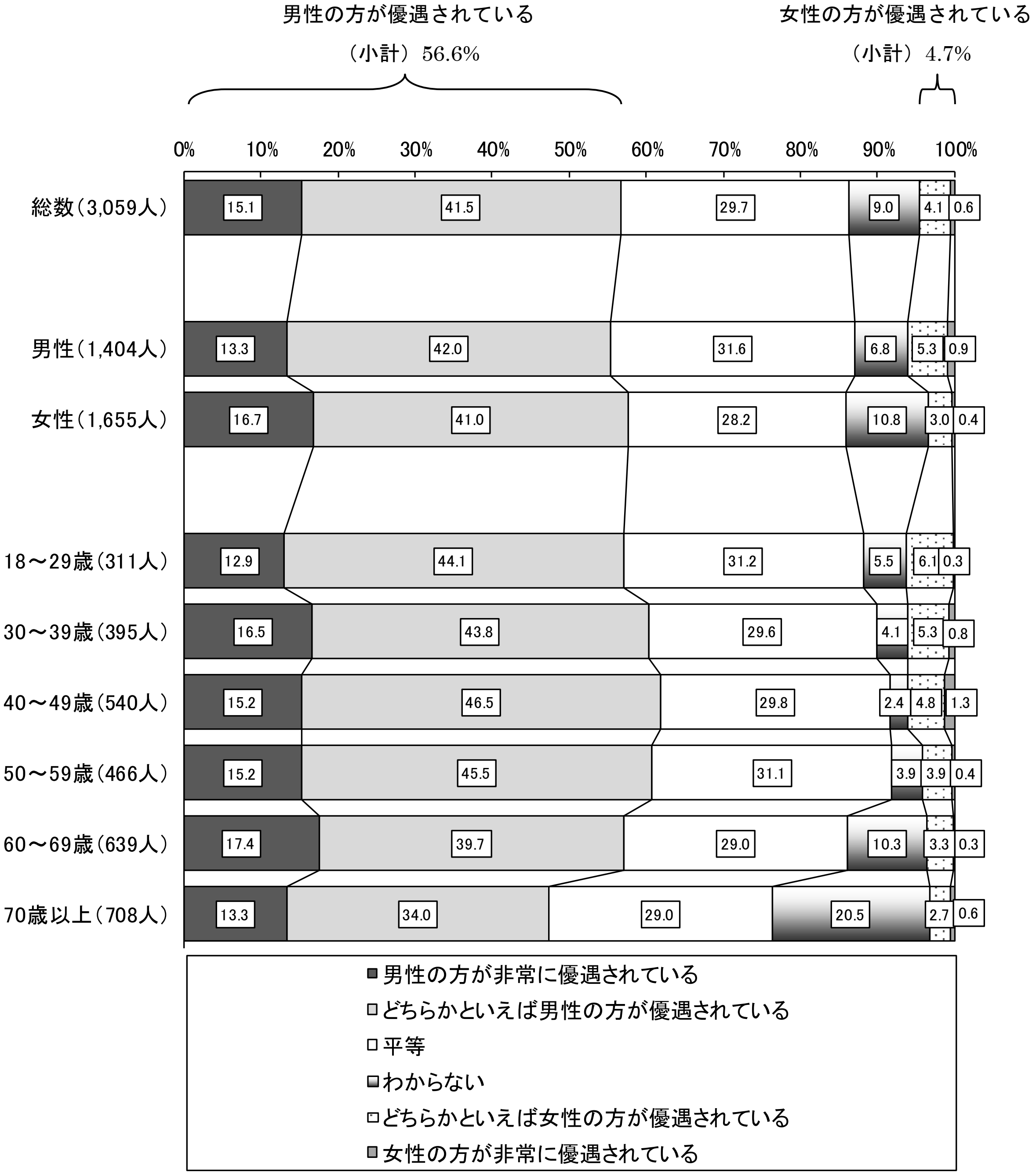
〈家庭生活〉



Q　あなたは，今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの気持ちに最も近いものを１つだけお答えください。

・男性の方が非常に優遇されている
・どちらかといえば男性の方が優遇されている
・どちらかといえば女性の方が優遇されている
・女性の方が非常に優遇されている

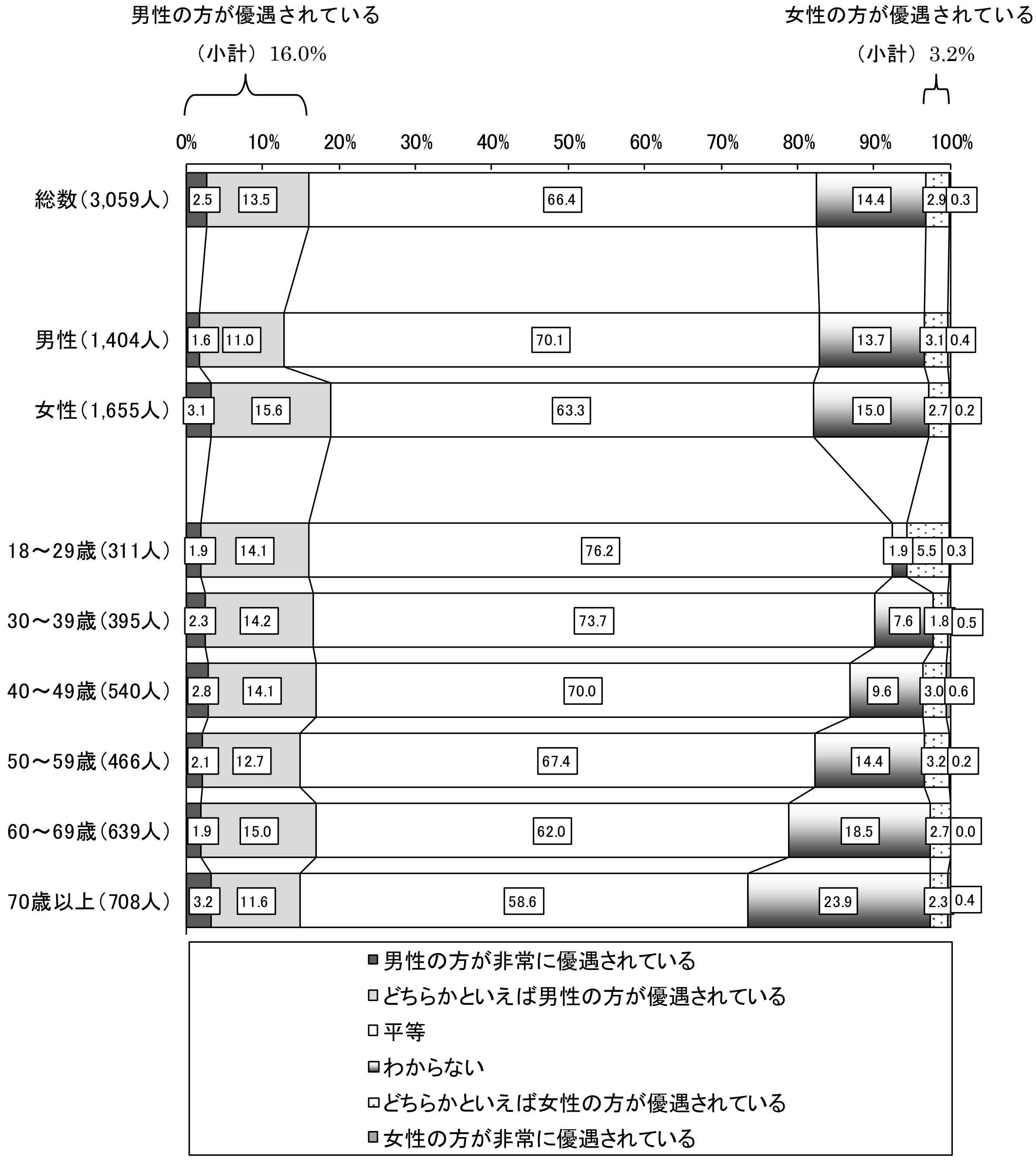
〈職　場〉



Q　あなたは，今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの気持ちに最も近いものを１つだけお答えください。

・男性の方が非常に優遇されている
・どちらかといえば男性の方が優遇されている
・どちらかといえば女性の方が優遇されている
・女性の方が非常に優遇されている

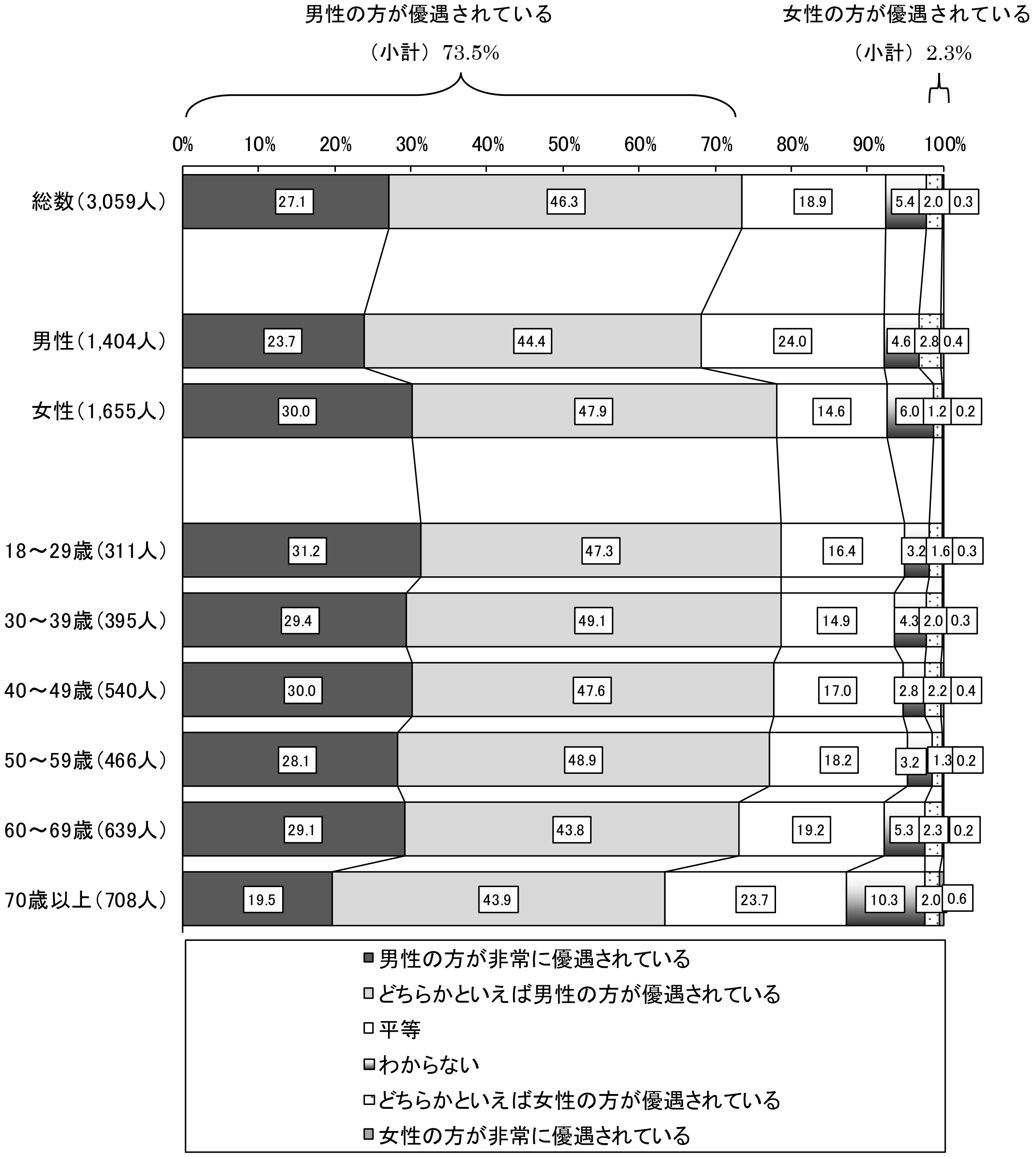
〈学校教育の場〉



Q　あなたは，今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを１つだけお答えください。

・男性の方が非常に優遇されている
・どちらかといえば男性の方が優遇されている
・どちらかといえば女性の方が優遇されている
・女性の方が非常に優遇されている

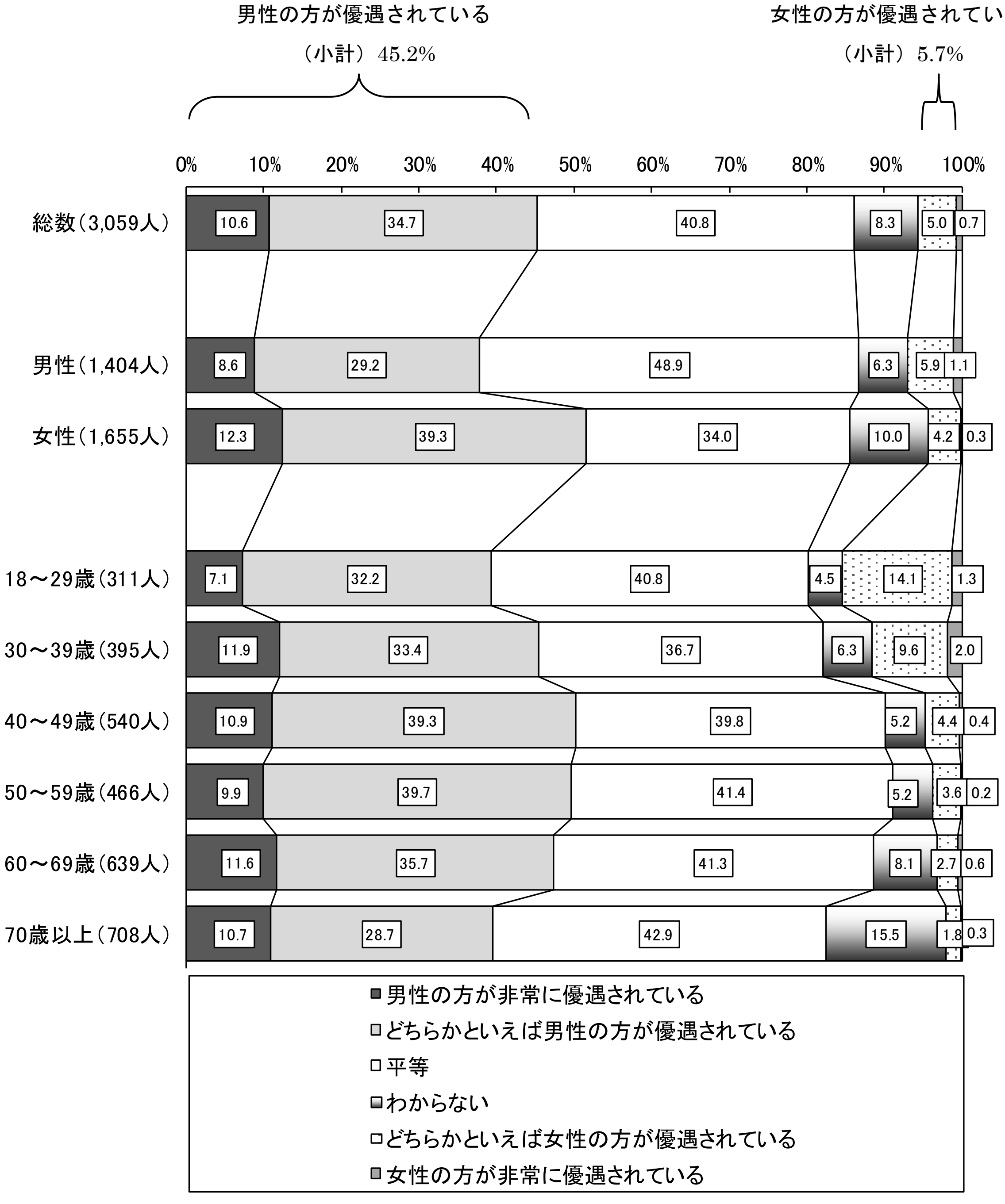
〈政治の場〉



Q　あなたは，今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを１つだけお答えください。

・男性の方が非常に優遇されている
・どちらかといえば男性の方が優遇されている
・どちらかといえば女性の方が優遇されている
・女性の方が非常に優遇されている

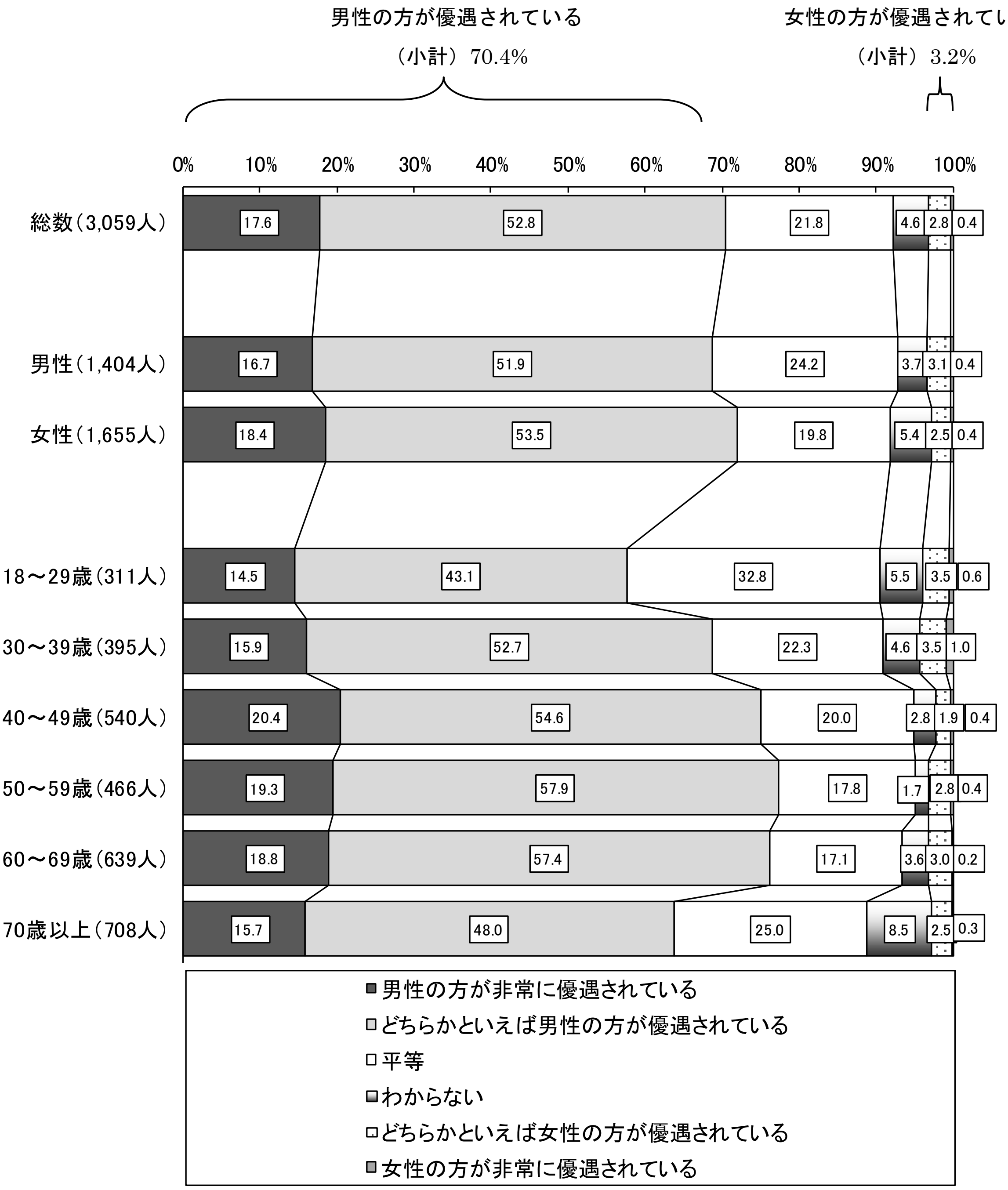
〈**法律や制度の上**〉



Q　あなたは，今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを１つだけお答えください。

・男性の方が非常に優遇されている
・どちらかといえば男性の方が優遇されている
・どちらかといえば女性の方が優遇されている
・女性の方が非常に優遇されている

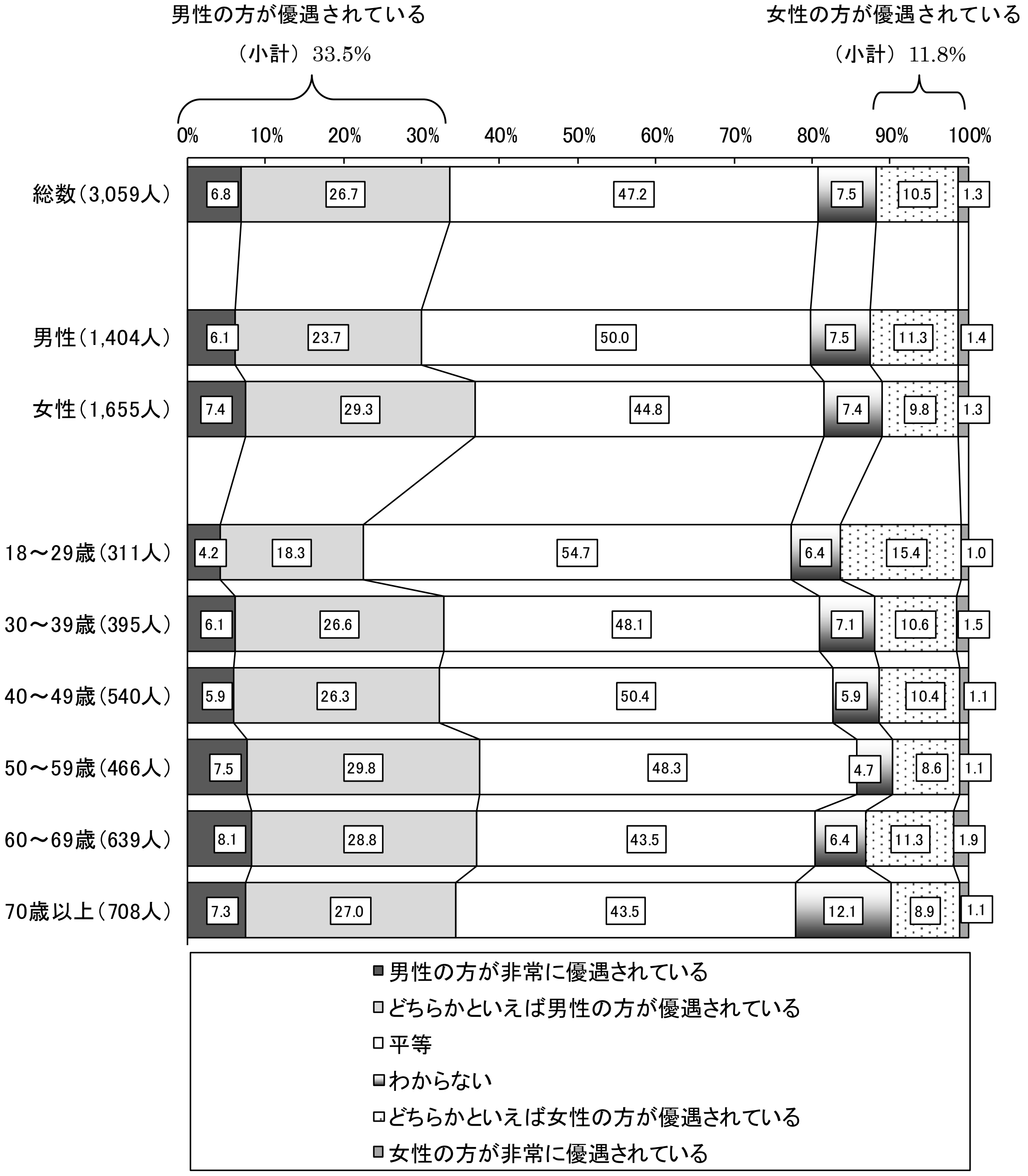
**〈社会通念・慣習・しきたりなど〉**



Q　あなたは，今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
あなたの気持ちに最も近いものを１つだけお答えください。

・男性の方が非常に優遇されている
・どちらかといえば男性の方が優遇されている
・どちらかといえば女性の方が優遇されている
・女性の方が非常に優遇されている

## 〈自治会やＰＴＡなどの地域活動の場〉



男性のライフスタイルに関する意識調査
調査結果報告書

---

○発 行 年 月　　平成 30 年 3 月
○発　　行　　者　　千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課
〒260-8722
千葉市中央区千葉港１番１号
電　話　043-245-5060

千葉市男女共同参画センター
（指定管理者）公益財団法人千葉市文化振興財団
〒260-0844
千葉市中央区千葉寺町 1208 番地 2
電　話　043-209-8771